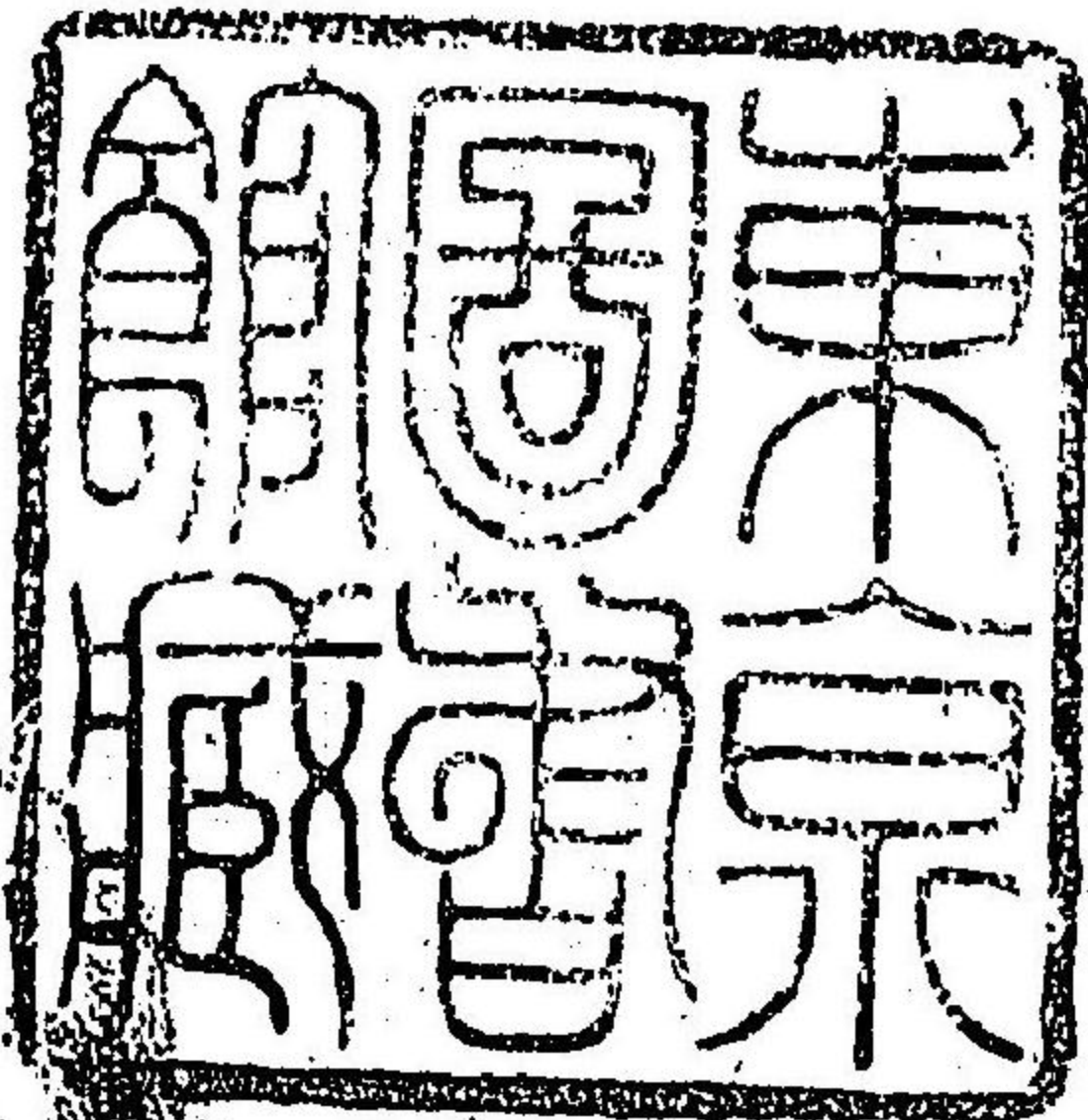
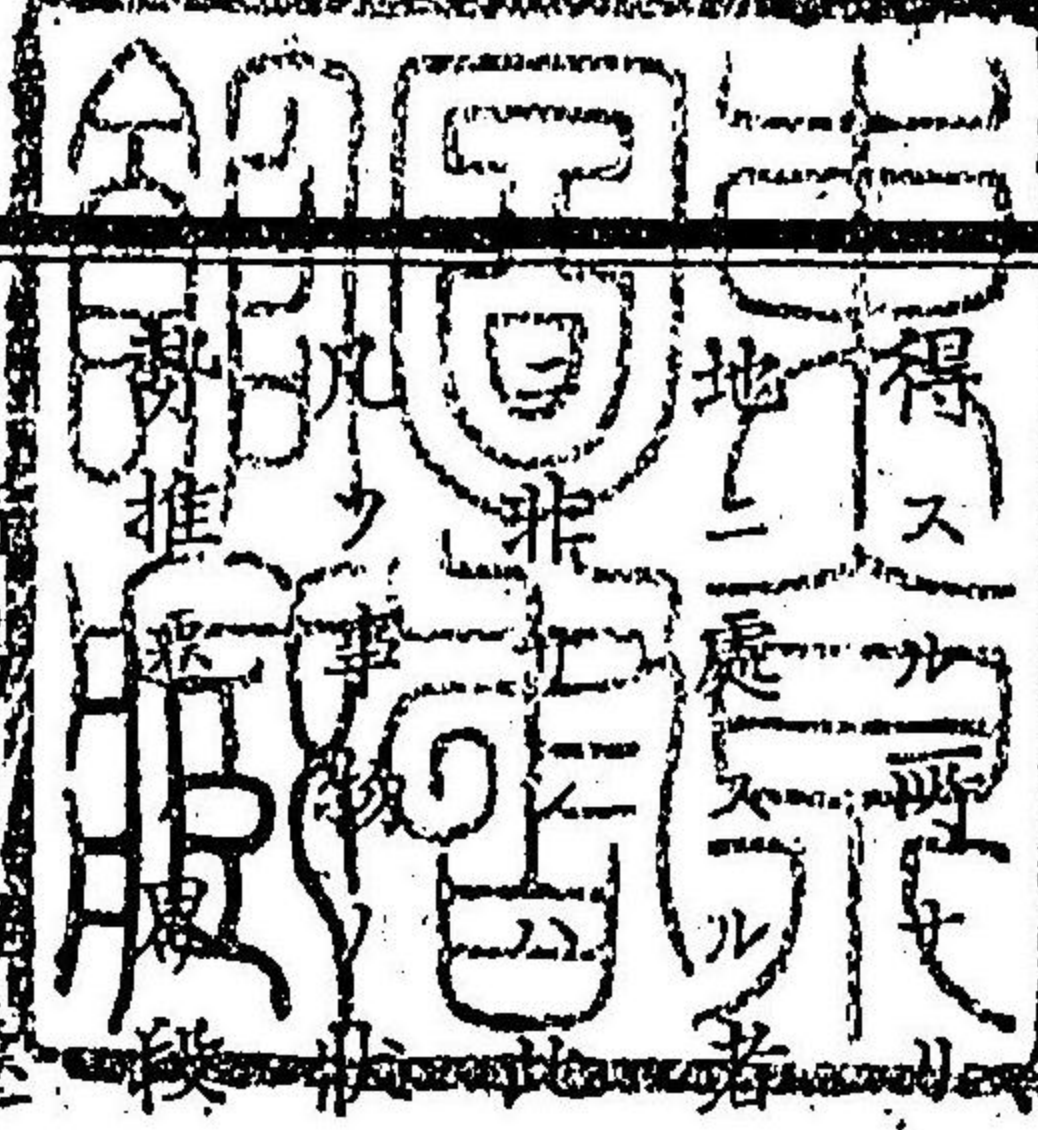


№ 2730 / 23



東京府知事 北三郎 等北國道君肖像



夫レ一世ニ卓絶シ後代ニ不朽スルニ足ルヘキ事業ヲ創成

欲セハ其ノ辛楚艱難タル坂山扛鼎モ啻ナラサルハ衆人ノ能知

得スルヲ下雖モ多クハ局外ノ皮相層見ニシテ其事ニ當リ其

地ニ處スル者ニ非サレハ真正ニ知得シカタシ苟モ真正ノ知得者

等ノ實況ハ與モニ語ルニ足ラサルナリ

凡ク事物ノ状態ヲ詳カニシ時勢ノ情況ヲ悉サント欲セハ先ツ時

勢ヲ推察スルニ因テ觀察ヲ下サレハ其肯綮ヲ得ヘカラサルナ

リ時勢ノ推察トハ何ソヤ則チ政治ノ方針人心ノ傾向等沿革同異

スル所以是レナリ而シテ其ノ界段ナル者ヲ細分スレハ其數限リ

ナシト雖モ之ヲ大別スレハ大約三階級ニ過キスシテ未開ノ世ヲ

第一階半開ヲ第二階開明ヲ第三階トス試ニ看ヨ第一階ノ世ニ方

テハ英雄豪傑互ニ崛起對峙シ人々東驅西騁只奔命ノ急ニシテ曾



テ他志ヲ生スルノ暇ナシ是ヲ以テ英雄ノ頤指スル所萬里ノ長城
モ日ナラスシテ成リ千尋ノ湯池モ瞬間ニ就ル是レ嬴氏ノ千萬夫
ヲ役スルノ容易ニシテ豊公ノ大土木ヲ起スノ艱難ナラサル所以
ナリ既ニシテ此ノ第一階ヲ經テ第二階ノ世ニ進ムヤ人智稍ヤ開
ケ世運方ニ旺盛ナラントスルモ人心ノ傾向未タ一定セス政治ノ
方針未タ確立セス朝ニ起スノ事業ハ夕ニ僵レ昨ノ是ハ今ノ非ト
ナル是ヲ以テ社會必要ノ事業モ或ハ阻格シ先賢苦心ノ事跡モ或
ハ湮滅スルノ例鮮ナシトセス是レ有志者ノ常ニ心ヲ痛メ思フ苦
ム所以ナリ既ニシテ此ノ第二階ヲ過テ第三階ノ世ニ移ルヤ人心
ノ傾向既ニ一定シ政治ノ方針既ニ確立スルヲ以テ設令政海ニ大
波瀾ヲ起スモ社會ノ事業ハ之カ爲メニ搖動セス起ルヘキ事業ハ
益起リ進ムヘキ事業ハ彌進ミ毫モ挫折退歩スル憂ハ之ナキナリ
今ヤ疏水事業ハ此ノ三階級中何レノ階級時代ニ於テ其運動ヲ始

メタルヤ既ニ其第一階世ニ非ス又其ノ第三階世ニモ非スシテ乃
チ其ノ二階世タルヘキ確信シテ疑ハサル所ナリ采シテ然ラハ北
垣明府カ此ノ本邦未嘗有ノ大事業ヲ成就セシメンノヲ肚裏ニ蘊
蓄セラレシ以來焦心苦慮下ハ衆庶ノ贊成ヲ得上ハ廟堂ノ特許ヲ
得テ遂ニ起工ノ大事ヲ舉行スルニ至リシハ其ノ艱難辛苦タル實
ニ尋常意料ノ及フヘキ所ニハアラサルナリ
嘗テ聞ク琵琶湖疏通事業ヲ企テシモノハ其ノ始メヲ平相國トナ
スト想フニ此平相國ハ彼ノ三階中何レノ階級時代ノ人ナルヤ第
二第三兩階ノ人ナラスシテ即チ第一階世ノ人タルハ衆人ノ確信
シテ疑ヲ容レサル所ナリ獨リ其ノ第一ノ世ニ乘シタルノミナラ
ス其身ハ兵馬ノ大柄ヲ掌握シ生殺與奪ノ全權ヲ總攬シ加之彼ノ
攝ノ福原ヲ埋立テ新地ノ市街ヲ創始シ彼ノ藝ノ音戸ヲ開鑿シテ
舟船ヲ航通セシ如キ其ノ經歷ノ較著ナル其ノ工業ノ偉大ナル其

英略想見スヘキナリ獨リ其ノ事業ノ成就セサルモノハ單ニ精神ノ貫徹セザルト忍耐カノ至ラザルト及長計遠謀ノ完美ナラザルトニ由ルノミ

某一日公務ノ間某氏來リテ疏水工事成功ノ日ヲ問フ某職ヲ本事業ニ奉スルヨリ僅々三月ニ過キス是ヲ以テ實地事業ノ歩ヲ進ムルヲ果シテ何レノ点ニ在ルヤヲ悉知セスト雖モ卒然答テ曰ク今ヤ工事半成ス豈ニ成功ノ日ヲ質スノ勞ヲ用ヒンヤト問フ者憮然トシテ曰予ノ見ル所ヲ以テスレハ東ハ大津湖岸ノ開疏三百間及藤尾堀鑿礎砌ニ過キス然ルニ工事半成ストイハルハ何ツヤ某答フルニ第二階世ノ狀ヲ以テス某氏唯々シテ去ル

嗚呼是レ何ツ怪ムニ足ランヤ世ノ偉業ヲ創メ鴻圖ヲ起スモノハ心緒豈局促的ノ庸人等ノ能ク揣測シ能ク忖度シ得ル所ナランヤ抑モ世上ノ大利ヲ謀リ社會ノ鴻益ヲ興スモノハ必ス遠大ノ計慮

堅確ノ志操アリ某今ヤ竊カニ琵琶湖疏水工事大成ノ淵源ハ遠ク且深キヲ覺知シ感歎仰慕ニ勝ヘサルモノアリ因テ聊カ所感ヲ記シ以テ同志ニ告ク

琵琶湖疏水誌編纂主任識

琵琶湖疏水要誌卷之一

目次

一 發端

本章ハ明治十四年二月北垣府知事京都へ赴任ノ後琵琶湖疏水事業ヲ發起シタル顛末及經畫ノ整理ニ至ル迄其ノ事跡ヲ記述スルモノトナス

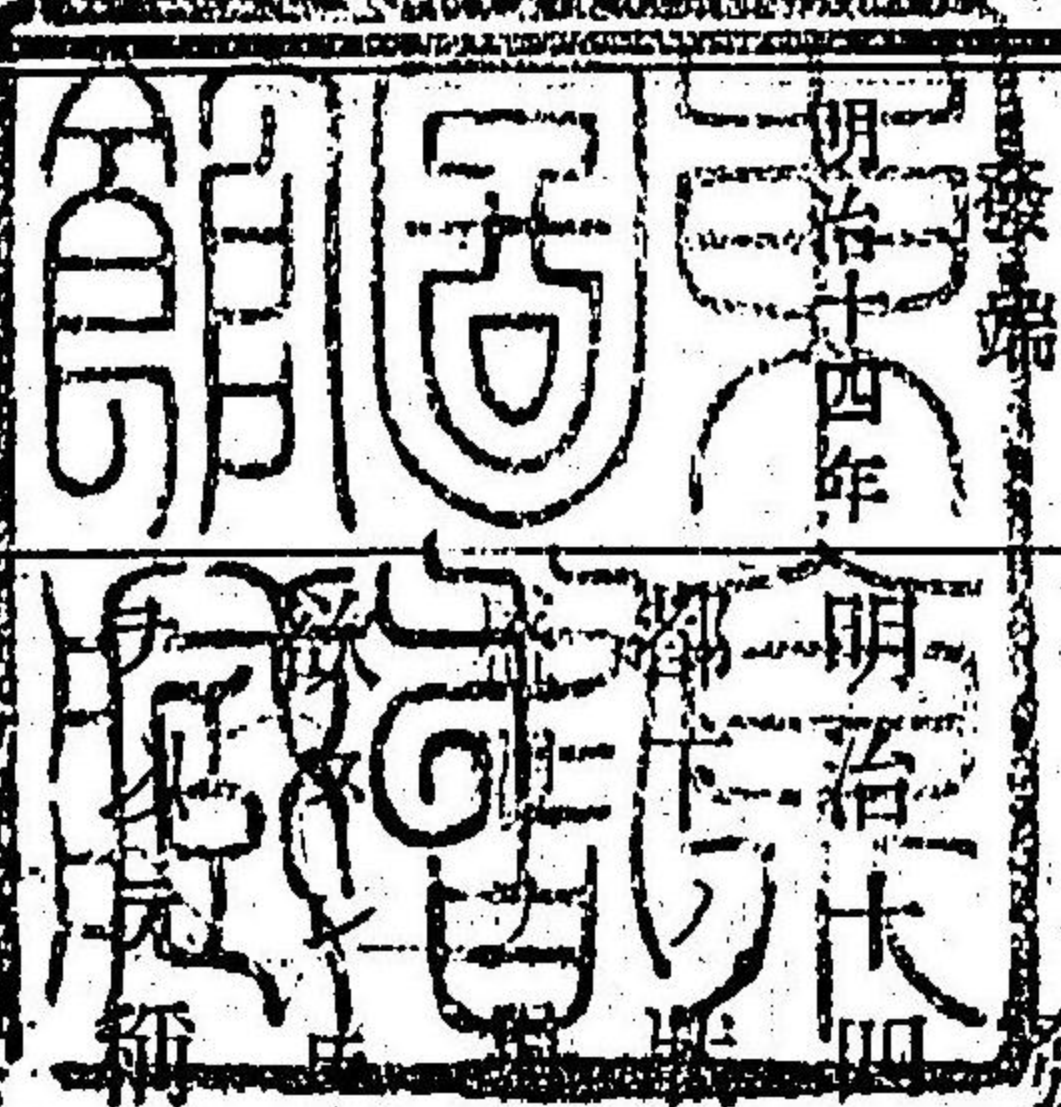
一 勸業諮問會

本章ハ疏水事業ノ經畫既ニ整理セシヲ以テ上下兩京區内ノ商工實業者及父老五十餘名ヲ招集シ起功ノ可否ヲ諮問セシ事跡ヲ記述スルモノトナス

一 上下兩京聯合區會

本章ハ勸業諮問會ニ於テ既ニ起功冀望ノ答議ヲ得タルヲ以テ事業ノ着手及工費ノ負擔ヲ上下兩京聯合區會ニ

№ 2730 / 23



琵琶湖疏水要誌卷之一

京都府属若松雅太郎編

發端

明治十四年二月北垣府知事ノ初メテ京都ニ赴任シ
 況日チ逐テ衰頽ニ赴キ隨テ千有餘年ノ舊都モ其
 傷スルヲ慨嘆シ之ヲ挽回興復スルノ策ヲ建ント
 奈何セン地形便ナラス昔時ハ山河襟帶自然ノ城
 守ナル者モ賀易頻繁勝敗ヲ市場ニ制スル今日ニ
 當テ依然舊習ヲ墨守シ故例ヲ保持スルカ如キハ其衰頽
 微亦當ニ甚シカルヘシ然ハ則之ヲ改更セントスル乎積衰
 累頽ノ餘尋常ノ事業モテ之ヲ回興スルニ足ラサレハ斷然
 之ヲ回興スルニ足ルヘキ一大事業ヲ起サ、ルヲ得ス然リ
 ト雖モ假令一大事業ヲ起スモ或ハ人情ニ悖リ或ハ地形ニ

疏水要誌卷一

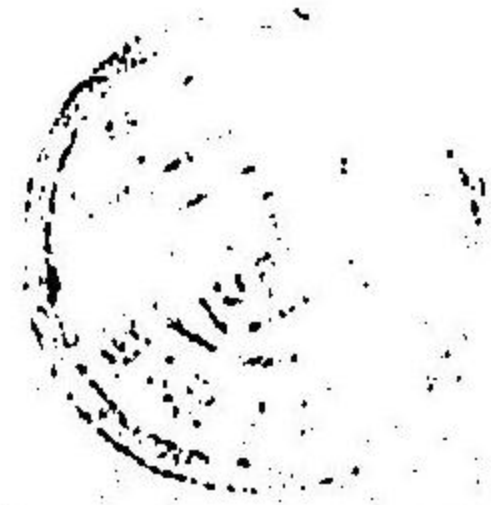
發端

附議セシ事跡ヲ記述スルモノトナス
一起功特許

本章ハ疏水起功ノ請願ヨリ工費増額會議大阪滋賀水防
工費及政府ノ特許ヲ得テ起功ノ旨ヲ管内ニ公布セシ始
末ヲ記述スルモノトナス

一年表

前各章中記載ノ要領及ヒ事ノ細微ニシテ記載セサルモ
ノモ事跡ノ沿革ヲ表明セシ爲メ特ニ卷末ニ附シ看讀ニ
便ナラシムルモノトナス



反ク其ハ其收利得益ハ却テ其消費糜財ト相償ハス然ルニ
都下ノ事業タル古來工作製造ヲ以テ專ラ生計ノ本料トナ
セハ其ノ人情慣習ニ基キ猶之ヲ擴充シテ工業ノ規模ヲ宏
大ニセハ初メテ衰運挽回民業隆昌ノ基本立ツヘキモ徒ラ
ニ手足ノ勞ヲ以テ之ヲ經營スルカ如キハ到底工業ノ盛大
ヲ望ム可カラサレハ必ス水火力ノ中其一ヲ藉ラサルヲ得
ス今火力ヲ藉ラントスル乎必ス石炭ヲ使用セサルヘカラ
ス然ルニ石炭ノ如キハ舟楫ノ便アルモ收支尙相償ハサル
ノ困難アリ況ヤ京都ノ如キ海濱ヲ距ル十數里其收支ノ相
償ハサル固ヨリ龜トヲ待タサルナリ是ヲ以テ此困難ヲ免
レントスレハ水力ヲ藉ルノ外他ニ其方法アルコトナシ然ラ
ハ水力ヲ使用セントスル乎鴨川白川ノ如キハ四時涓々徒
涉猶裳ヲ濕サ、ル現狀ナリ桂川ノ如キハ水量稍多キモ地

形不便ニシテ工場ヲ設置スルニ適セス故ニ此ノ目的ヲ達
セントスレハ他ヨリ水力ヲ延テ此ノ地ニ達セサルヲ得ス
幸近接ノ地ニ皇國第一ノ大湖ノ在ルアリ今之ヲ開鑿シテ
其水ヲ疏通セハ不斷一定ノ水量ヲ得ルコト確然タリ古ヨリ
之ヲ疏通セント企シモノアリト雖モ一モ其目的ヲ達セシ
モノナカリシハ即チ京都今日ノ衰運ヲ回興スル爲メ豫備
シタル造化ノ餘澤ト言モ不可ナキカ如シ依テ今之ヲ疏通
シ不斷一定ノ水量ヲ得テ工場ヲ設置シ器械ヲ使用シ以テ
此地ヲシテ物品製作ノ本場タラシメハ初メテ衰運挽回民
業隆昌ノ基礎確立スヘントナス
同年四月地理掛ニ命シテ京都三條橋ト琵琶湖々面トノ高
低ヲ測量シ且疏水線路ヲ定ムル爲メ三條ヨリ大津ニ達ス
ル道路、白河村ヨリ白河越本道ヲ經テ滋賀縣下滋賀里村ニ

達スル道路、同白河村ヨリ白河越新道ヲ經テ滋賀縣下錦織
村ニ達スル道路、及南禪寺村ヨリ滋賀縣下古關越ヲ經テ大
津ニ達スル道路ヲ普ク跋渉測量シテ適當ノ線路ヲ求メシ
ム
同年五月府知事ハ公務ヲ以テ東上シ此議ヲ以テ伊藤參議
松方內務卿ニ開陳有リシニ共ニ其賛成ヲ得タリ松方內務
卿之レニ告テ曰ク猪苗代疏水第一着手工事既ニ成ルヲ以
テ之ガ落成式ヲ舉行セントス幸ニ彼ノ地ニ赴キ工事ノ實
況ヲ目撃セハ大ニ腹案參考ノ力ト爲ルヘシ云々府知事ハ
乃チ同七月ヲ以テ猪苗代ニ至リ工事ノ實況ヲ視察シ其管
理官奈良原農商務大書記官及ヒ主任官農商務省一等屬南
一郎平ニ該工事ノ沿革及方法順序等ヲ質シ始メテ琵琶湖
疏水事業ノ必ス成ルヘキヲ確信セリ猪苗代疏水ハ僻陬山

間不便ノ地ニシテ延長十一里ニ亘ルモ既ニ三十余ノ隧道
盡ク成テ告ケ第一難工事トスル處落成通水ノ式ヲ舉行シ
內務大臣之レニ臨ミ府知事モ亦之レニ陪シテ其實況ヲ洞
察シ此レニ比スレハ大津京都ノ間ハ人家略ホ連接シ距離
僅ニ三里ニシテ百事至便ノ地ナルヲ以テ其必ス成リ難キ
事ニ非サルヲ確信シタルナリ
同年八月湖面水量ノ増減ヲ觀測スル爲メ滋賀縣下三保崎
ニ量水標ヲ建設ス是ヨリ先キ熊本縣六等屬嶋田道生ニ委
嘱シテ疏水線路ヲ調査セシメ且ツ同屬ノ建言ヲ用ヒ此ノ
量水標ヲ設ク
同年十月測量圖成ル此圖タルヤ一ハ京津間ノ距離ヲ示ス
爲メ六千分一ノ三角圖ニシテ一ハ平面ヲ示ス爲メ三千分
一ノ平面圖ナリ而シテ此測量ヲナスニ當テ假ニ滋賀縣下

ニ在テハ北方ハ坂本村、南方ハ大津市街ヲ以テ基点トナシ
 京都府下ニ在テハ北方ハ一乘寺村白川村、南方ハ三條橋ヲ
 以テ基点トナシ此ノ線内ニ係ル高岳深谷ヲ踏遍シテ初メ
 テ此ノ成績ヲ奏ス
 同年十一月府知事ハ測量圖ヲ以テ上京シ初メテ農商務省
 ニ稟議シ且同省一等屬南一郎平ヲシテ實地檢按セシメン
 トヲ請求ス

明治十五年

十五年二月農商務省一等屬南一郎平來京シ滋賀縣下三井
 寺山近傍ヲ踏查シテ水路ノ位地ヲ撰定シ且ツ意見書及水
 利目論見表ヲ製ス 意見書及水利目論見表ハ別ニ疏水全誌ニ載ス 府知事ハ乃チ同屬
 ノ撰定セシ水路檢按ノ爲メ滋賀縣下尾花川藤尾村及府下
 四宮村安朱村御陵村南禪寺村ヲ巡視ス
 同年四月高知縣六等屬嶋田道生ヲシテ疏水線路ヲ測量セ

シメ測量ノ技術ハ總テ其指示ヲ受ケシム同屬ハ明治八九
 年ノ比內務省地理局ヨリ京都市街ヲ測量セシキ三條街道
 分木町及聖護院村ニ建設シアル兩測点ヲ以テ測量線ノ基
 点トナシ三角法ヲ以テ漸次大津ニ及ホサントシ初メテ實
 測ニ着手ス尋テ同屬ヲ本府六等屬ニ兼任セシメ水路開鑿
 測量事務ヲ擔當セシム後ニ至テ高知縣屬ヲ解キ本府屬ニ
 專任ス
 同年六月滋賀縣下高嶋郡田中村安原權兵衛疏水ノ舉アル
 ヲ聞キ玄米二百俵ヲ獻納シテ工費ノ幾分ニ供セントヲ請
 願セシモ未タ工事ニ着手セサルヲ以テ之ヲ受理セス
 同年九月福嶋縣下安積疏水開通式アルヲ以テ七等屬林成
 清ヲシテ其ノ實況ヲ視察セシム
 十六年二月五等屬嶋田道生ハ初メ內務省地理局ニ於テ京

明治十六年

都市街ヲ測量スル爲メ設置セシ三條街道及ヒ聖護院トノ
基線三千七百六十二尺九寸一分零八ヲ以テ第一基線トナ
シ三角法ヲ以テ漸次測量シテ大津ニ及ホセシ更ラニ大津
分營練兵場内ニ於テ第二基線ヲ設ケ以テ積算セシニ一千
三百十七尺一寸七分六厘ニ對シ一千三百十六尺九分一厘
八毛ヲ得乃チ其ノ差短キ一ニ寸六分八厘ナリ抑モ測量ノ
一タル技術ノ異ナルト使用器械ノ同カラサルト及氣候ノ
寒暖空氣ノ濃淡等ニ由テ些少ノ差異ヲ免レサルハ測量ノ
常ナリ今僅々二寸六分餘ノ差ヲ生セシ如キハ實ニ測量ノ
好結果ヲ得タルモノト謂フヘシ是ニ於テ運河堀鑿隧道開
通ノ位置既ニ定リ隨テ測量圖モ亦成ル

同年三月府知事ハ疏水線路ノ既ニ定リシヲ以テ製圖ヲ携
ヘ東上シ之ヲ農商務省ニ稟議シ翌四月同省ト協議セシ罷

琵琶湖疏水設計書成ル

本書ハ全誌ニ載ス

同年五月五等屬嶋田道生ヲ福嶋縣下猪苗代及宮城縣下野
蒜港ニ差ハシ工事ノ實況ヲ調査セシム

同月工學士田邊朔郎ヲ本府准判任御用掛トナシ專ラ疏水
工事ヲ擔當セシム

同年八月准判任御用掛田邊朔郎五等屬嶋田道生ヲシテ滋
賀縣ニ遣シ疏水線路ニ接續スル山岳ノ高低ヲ調査セシム
同年九月府知事ハ御用掛田邊朔郎五等屬嶋田道生ヲ隨ヘ
滋賀縣柳ヶ瀬ニ赴キ隧道工事ヲ視察ス

同年十月下京區第七組大黒町古川爲三郎第四組東銚屋町
山崎久兵衛第十六組上五條町井上藤兵衛第廿五組上珠數
屋町檜村彦右衛門第十七組小泉町鹽山恒次郎第廿四組東
銚屋町木村與三郎ハ疏水起工ノ爲メ勸業諮問會ヲ開設ア

ルヘキヲ聞キ上下京聯合區會ニモ諮問アラントチ建議又
上京區會議員莊林維英富田半兵衛畑道名河野通經河村信
正川端庄七福住源太郎川邊祐次郎上田安兵衛等ハ疏水起
工ノ爲メ勸業諮問會ヲ開設アルヘキヲ聞キ工費ハ官ノ補
助ヲ仰クノ外上下京協議費ヲ以テ負擔シ純然タル上下京
區共有物トナシ其ノ方法順序等ハ上下京聯合區會ニ附議
セシメ其議定ヲ以テ施行セラレントチ建議ス全文ハ全誌ニ載ス
同年十一月府知事ハ籠手田滋賀縣令ト協議シ各疏水取調
委員ヲ置ク是ニ於テ滋賀縣令ハ同縣一等屬齋藤眞男全七
里定嘉全高谷光雄ヲ取調委員トナシ府知事ハ一等屬森本
後洞四等屬片山正中ヲ取調委員トス

勸業諮問會

勸業諮問會

同年九月疏水事業ノ可否ヲ都下ノ父老及商工實業者ニ諮

問セシ爲メ一等屬森本後洞四等屬片山正中ニ命シテ勸業
諮問案取纏委員トナシ一等屬野村彦四郎全大坪格全尾崎
班象二等屬清永公敬三等屬板原直吉准判任御用係廣瀬知
之四等屬坂本則美全野村永保全多田郁夫全田所重禮准判
任御用掛田邊朔郎五等屬嶋田道生全東五一七等屬林成清
全丹羽圭介及上京區書記關東下京區書記岡田爲七ニ命シ
テ全取調委員トナス又特ニ上京區長杉浦利貞下京區長竹
村藤兵衛ニ命シテ全取調ニ從事セシム
同月五日諮問案成ルヲ以テ上下京兩區ノ名望アル者ヲ召
集シテ中學校講堂ニ於テ勸業諮問會ヲ開ク

勸業諮問會員

- 一 番 上京區卅一組下丸屋町 山本覺馬
- 二 番 下京區廿八組橋東二丁目 中村榮助

三番	上京區 七組西五辻東町	田中善右衛門
四番	全區 十七組甲斐守町	西村七三郎
五番	全區 卅三組新東洞院町	竹鼻仙右衛門
六番	全區 廿一組春帶町	濱岡光哲
七番	全區 十八組分銅町	鈴鹿辨三郎
八番	全區 廿七組二條油小路町	三井八郎右衛門
九番	下京區 廿八組橋東二丁目	中野忠八
十番	上京區 九組西無車小路町	富井政恒
十一番	下京區 六組米屋町	能川登
十二番	全區 十三組立賣東町	大喜多隆景
十三番	上京區 廿九組丸木材木町	市田文次郎
十四番	下京區 四組御射山町	中村半兵衛
十五番	全區 十八組玉津嶋町	長瀬彦三郎

十六番	上京區 十六組役人町	岸田九兵衛
十七番	全區 廿六組姊西町	矢野長兵衛
十八番	下京區 十二組萬里小路町	三澤友七郎
十九番	全區 十三組鑄屋町	山本清太郎
二十番	全區 十八組玉津嶋町	磯野小右衛門
廿一番	上京區 十八組丸屋町	山中平兵衛
廿二番	全區 一組北仲之町	波多野庄兵衛
廿三番	全區 三十組下白山町	船橋清左衛門
廿四番	全區 全組船屋町	林治作
廿五番	全區 九組仲之町	野原新造
廿六番	下京區 廿四組諏訪町	辻忠四郎
廿七番	上京區 廿二組頭町	中川安修
廿八番	下京區 十七組卜味金佛町	安村吉兵衛

廿九番	上京區	八組元妙蓮寺町	富久田太郎兵衛
三十番	下京區	八組堀池町	吉村逸明
卅一番	上京區	卅組櫛町	内貴甚三郎
卅二番	全區	廿四組少將井御旅町	池田八郎兵衛
卅三番	下京區	十九組本覺寺前町	長尾理兵衛
卅四番	全區	十四組難波町	清水吉右衛門
卅五番	全區	十二組立賣仲之町	市原平兵衛
卅六番	全區	四組菱屋町	川島甚兵衛
卅七番	全區	三組御倉町	千田忠八郎
卅八番	全區	十一組函谷鈴町	一井政七
卅九番	上京區	廿一組春日町	下村庄太郎
四十番	全區	三十二組東丸太町	野村揆一郎
四十一番	全區	四組梅忠町	遠藤彌三郎

四十二番	下京區	十八組德万町	高木文平
四十三番	上京區	五組安樂小路町	岩佐孫兵衛
四十四番	下京區	十三組京極町	河瀬勘兵衛
四十五番	上京區	廿三組大文字町	山鹿九郎兵衛
四十六番	全區	十六組下石橋南半町	千田寶守
四十七番	全區	廿八組圓福寺町	野橋作兵衛
四十八番	下京區	八組梅宮町	小西好賴
四十九番	全區	十一組郭巨山町	川勝利平
五十番	全區	五組大文字町	譽田與助
答辯委員		四等屬	片山正中
全		五等屬	島田道生
全		七等屬	丹羽圭介
全		御用掛	田邊朔郎

上京區書記

關

東

下京區書記

岡

田 爲

七

全 書記

金

崎

壽

全

細

岡 靈

深

諮問案 滋賀縣下近江國琵琶湖々水ヲ疏通シ全國大津三井寺ノ下ヨリ常府下宇治郡山科地方ヲ經テ愛宕郡南禪寺村ヨリ某々村ヲ北へ高野川ヲ西へ下鴨ヨリ加茂川ニ沼ヒ通船ノ便ヲ東高瀬川ニ聯洛シテ大阪海港ノ水運ヲ琵琶湖ニ達セシメ其分水力ヲ以テ堀川ニ船路ヲ通シ市街用水ノ缺乏ヲ補ヒ又器械運轉ノ用ニ充テ及田畑灌養等ノ爲メ此一大土功ヲ創起シ之レカ經費ノ負擔ハ上下京區聯合ノ力ニ任セントス其起工主意ノ如キハ別紙第一號其開鑿線路工事方法ノ如キハ別紙及圖面第二號ヨリ第九號其ノ經費

圖面之ヲ畧ス

ノ如キハ別冊第十號ニ詳ニセリ其可否如何トス
起工趣意書 京都ノ地タル固ヨリ四通五達ノ便アルニアラス其繁盛ヲ極メシハ延曆ノ朝 寶鼎ヲ奠キ帝都ヲ此地ニ定メラレ官省ハ勿論神社佛寺ヲ創建シ諸職工業ノ司部ヲ置キ工人ヲ董督セシメラレタルニヨレリ然シテ後文物大ニ開ケ製品日ヲ逐テ精巧ニ赴キ内國人民一般帝都ヲ景慕シ製作物品ニ至テモ皆其閑雅ナルヲ贊稱シ來テ模範ヲ取ルモノ購求スルモノ陸續相接シ自ラ土地ノ繁盛ヲ基非シ廩屋連疊五畿七道ノ首府タルノ實ヲ表スルニ至レリ保元平治以後政權武門ニ移リ輒モスレハ干戈ヲ輦轂ノ下ニ動カシ人民其堵ニ安ンセス爾來小盛衰アリト雖其繁華ヲ語レハ京都ヲ除クノ外他ニ大都會アルヲ聞カス應仁年間ニ及ヒ數百余年ノ帝都悉ク兵燹ニ罹リ人民所々ニ逃遁

シテ何ソ其ノ盛衰ヲ問フニ違アラン乎元龜天正ノ間織田氏一タヒ起リテ御所ヲ修繕シ市街人民ヲ撫育シ較舊觀ヲ復シ豐臣氏其ノ志ヲ繼キ徳川氏ニ至リ益前緒ヲ擴張シ絶テ繼キ廢ヲ興シ專ラ京都ノ繁榮ヲ保ツモ以テ政略ノ要旨トシ之カ力ヲ盡スコト至レリト云ヘシ文久年間一二大藩勤王ヲ唱ヘ京都ヘ參入シ幕府ノ上洛アリ諸藩ノ士人風ヲ仰テ此地ニ赴ク者日一日ヨリ多シ遂ニ勤王佐幕ノ軋ヲ生シ元治甲子市街ノ半部炮火ノ爲メニ灰燼セララルノ災アリト雖モ其間前後得ル所ノ利潤亦費ラレサル所ノモノアリ明治元年維新ノ鴻運ニ際シ太政官ヲ始メ諸局ヲ置カレ全國ノ士民輦下ニ幅幘シ當時京都ノ繁盛殆シト前古ニ超軼スルニ至リシカ翌年春御東幸以來京都ノ面目頓ニ一變セリ然レ維新前後得ル所ノ餘澤ヲ以テ未タ強チニ衰

頽スルニ至ラスト雖モ既ニ官局諸司ノ衙門ナク府藩縣官ノ往復參集ナク寂寥トシテ年ヲ經ルコト茲ニ十數年一般ノ人情自ラ東京ニ傾向シ日用ノ物品モ亦東京ノ風尙ニ倣フモノ多シ今ニ於テ京都維持ノ策ヲ按セサレハ彼ノ奈良ノ舊都是レ其ノ殷鑒ニ非スマ蓋シ御東幸以後時勢變遷ノ然ラシムル所ト雖モ抑亦地形ノ不便ナルト製作物品ノ未タ改良セサルトニ原由セル所アラン歟夫レ京都ノ繁盛ヲ維持セント欲セハ其ノ策亦少ナカラサルヘシ然レモ風俗地理ニ因テ之ヲ考フレハ工藝ヲ精巧ニシテ以テ物産ヲ振興シ水利ヲ開通シテ以テ運輸ヲ便ニスルヲ第一トス幸ニ近接ノ地方ニシテ其ノ高低ノ位置ヲ得タル近江國琵琶湖水ノ疏通スヘキモノアリ是レ我カ京都全區ヲ潤澤セシムル一大元素ト謂ハサル可カラス此水利ニ因リテ運輸ヲ便ニ

シ器械ヲ運轉シテ以テ諸製造ヲ盛大ニセハ將ニ衰頽セン
トスルノ京都ヲシテ忽チ轉シテ天府富裕ノ地トナスコトヲ
得可シ其ノ餘力ノ及フ所管内ニ在テハ之ヲ京都市街縱橫
ニ引用シテ以テ井水ノ欠乏ヲ補ヒ又火災防禦ノ用ニ備フ
ヘク水車ヲ製シテ精米ノ用ヲナシ下水ヲ清淨ニシ衛生ニ
取ルヘク加之宇治紀伊及愛宕葛野ノ郡内旱損ノ田面ヲ灌
漑シテ若干ノ收穫ヲ得ヘシ其ノ管外ニ在テハ舟楫ノ利東
近江國ヨリ西攝津國ニ及ヒ内外公益ノ大ナル未タ遽ニ概
算スヘカラサルナリ琵琶湖疏水ノ工事一舉シテ百益相聯
貫シテ創興スヘキト如此是レ此工ヲ起サントスル所以ノ
大旨ナリ其管下公益ノ尤モ著シキモノ數件ヲ概記シテ別
ニ參考ニ付セリ

其一製造機械之事 工業ノ精巧ヲ要セント欲セハ必機

械ノ作用ニ據ラサルヘカラス大ニ諸工業ヲ起サント欲セ
ハ必宏大精巧ノ機械ヲ要セサルヘカラス其ノ宏大ノ機
械ヲ運轉センニハ之ヲ水力ニ假ルヲ以テ最モ便捷利益
ナリトス今京都市街近傍ニ流ル、モノ鴨川桂川アリト
雖田鴨川ノ如キハ僅々十馬力ノ水力ニモ達セス加之夏
時三ヶ月間ハ稻田灌溉ノ爲メ殆ト流水ヲ絶テ車輪ノ回
轉ヲ止ム又桂川ハ水量多シト雖田地形甚々不便ニシテ到
底其ノ用ニ適セス先年製紙場ヲ設置シタル時機械ノ運
用ニ百万心ヲ苦シメ漸ク地ヲトシテ梅津ニ一車ヲ裝置セ
シモ僅ニ水力六十馬力ニ過キスシテ夏時五六十日間ハ尙
休業ヲ免レス剩ヘ洪水毎ニ本川漲溢シテ機械ヲ浸シ損
害ヲ被ル鮮少ナラス其ノ水利ニ欲乏スル此ノ如シ如何
ノ工業ノ振起ヲ計ルヘケンヤ然ルニ若王寺鹿ヶ谷村近

傍ハ下ニ白川ノ流アルノミナラス土地ノ勾配甚急ナレ
 ハ水車ノ設置ニ尤適當ナル疑ヲ容レサル所ナリ又運河
 ヨリ分水シテ之ヲ水車ニ用ヒ殘餘ヲ白川ニ流スキハ以
 テ運船ノ便ヲ白川ニ開キ製造場ニ便ヲ與フルト夥多ナ
 リトス今運河ヨリ一秒時間一百四個四ノ水量後ヲ此水量
 三
 トスナ分ツテ水車ノ力ニ供スルキハ能ク三百十六馬力
 ノ機械ヲ運轉セシムルヲ得ヘシ此他本川ノ流域勾配ノ
 緩ナル所ニアリテモ三十餘町ノ間ニ於テ各所ヲ合シ尙
 三百馬力ヲ有スヘシ此緩流ニ係ル馬力ハ精米一途ニ供スル水車
 機械ヲ設置スルニ最モ便アリ精米水車ノ事
 ハ別記
 ニ載ス且堀川筋等ニ於テ多少精米水車ヲ増設シ得ヘキ
 ナリ

通常蒸氣機械ニ於テ一時間凡一馬力毎ニ石炭六斤ヲ費
 スモノト假定スレハ十四時間一日ニ付六百十六馬力ノ

機械ヲ運轉センニハ五萬千七百四十四斤ノ石炭ヲ要ス
 此價三百三拾六圓三拾三錢六厘一ケ年間拾貳萬貳千七
 百六拾貳圓六拾四錢ヲ費サ、ルヲ得ス則水車ノ利益ハ
 大約一ケ年間拾貳萬餘圓ノ純益アル石炭山ヲ京都ニ造
 リシト一般然ル水車ノ利ハ之ノミニ止マラス其ノ蒸氣
 機械ニ勝レル少カラス今蒸氣機械ト水車トヲ相比較ス
 ルト左ノ如シ
 蒸氣機械ハ緩急器ヲ以テ其運轉ヲ定ムル故ニ水車ノ如
 キ一定不動ノ速力ヲ有スル能ハス故ニ製糸機械織機ヲ
 運轉セシメンニハ水車ヲ以テ勝レリトス又水車ニ在テ
 ハ蒸氣機械ノ如ク罐ノ水ノ沸騰スルヲ待ツヲ要セスシ
 テ隨意ニ運轉セシムルヲ得
 水車ハ煙ヲ出サス故ニ市中ノ機械ニハ甚適當ナリ

又水車ハ蒸氣機械ヨリ造作容易ニシテ危險ナラス
 又水車ハ蒸氣機械ヨリ製造修繕費共甚々少ナリ
 附言水利ニ依ラスシテ前行ノ如キ馬力ヲ要スレハ之
 ナ石炭ニ假ラサルヘカラス然ラハ六百十六馬力ニ付
 年々拾貳萬余圓ノ石炭ヲ費スノミナラス其煙突ヨリ
 吐出スル烟量一日ニ付無慮七百七十六萬千九百立方
 尺此重サ六十二萬千九百三十斤則七萬五百一十貫目一ケ年ニ於
 テ十七尺厚サノ烟ニテ全市街ヲ覆ヲニ至ル或ハ英國
 龍動府ノ烟霧ヲ見ルモ圖ルヘカラス衛生上ニ大害ア
 ル推シテ知ルヘシ
 右ノ如ク水力ニ因ルヲ以テ大ニ此地ニ利益ヲ得ルノ道
 ナ開通セハ陸續機械ノ業興リ以テ物産ノ繁殖ヲ基スヘ
 シ

其二運輸之事 運輸ノ方ヲ圖ルニ或ハ迂路ヲ改良シ或
 ハ峻坂ヲ平低ニシ或ハ港灣ヲ開築シ或ハ鐵道ヲ築造シ
 或ハ運河ヲ開通スル等之ヲ施設スルノ土地ニ由テ適不
 適アリト雖_レ其ノ運河ヲ開通シ船舶ヲ往來セシムルノ
 便益ヲ以テ最第一トナスヘシ今此疏水ニ依リ運河ヲ開
 通セハ舟楫ノ路西大阪海港ヨリ東琵琶湖ニ聯絡シ大ニ
 運輸ノ便ヲ達スルニ至ル豈啻其ノ益スル所獨リ京津ニ
 止マランヤ假ニ現今京津間及京伏間ニ來往運輸スル所
 ノ物貨ヲシテ此運河ニ由リテ回漕スルモノトシ之ヲ起
 算スルモ一ケ年ニシテ其ノ運賃ヲ減スルノ額無慮八萬
 余圓ノ巨額ニ及フヘシ然_レ此巨額ノ利ヲ計ルハ想フ
 ニ五六年ヲ經過スルニアラサレハ望ム可カラスト雖_レ
 其ノ半額即チ四萬余圓ノ額ヲ見ルハ容易ノ業ナルヘシ

且水理ニ因リ大ニ工作製造所等ヲ創設スヘケレハ其レ
カ爲メ製造ノ原品及製品等運輸出入往復ヲ増シ又運賃
ノ低減スルト漸次此地繁盛ニ赴クトニ依リ輸出入ノ貨
物従前ノ額ヨリ幾倍スルニ至ルモ測ルヘカラサルナリ
茲ニ新舊運賃ヲ比例スルト左ノ如シ比較表ハ全誌ニ載ス
其三田畑灌溉之事 此地周圍ニ接スル耕地中愛宕葛野
宇治紀伊ノ四郡ニシテ南宇治川ニ沿ヒ西桂川ニ據ル田
畑ヲ除クノ外ハ皆水利ノ乏シキニヨリ年々ノ收穫ヲ減
耗スルヤ極メテ大ナリ本年ノ如キ稀有ノ旱魃ハ暫ク算
外ニ措キ平常ヲ以テ統計スルニ四郡中早損ニ罹ル處ノ
反別凡千貳百四十七町餘アリ此收穫凡平均九千七百餘
石ヨリ現收スル能ハス若シ之レニ用水ヲ疏通シ灌溉ヲ
充分ナラシメハ普通良田トナリ貳萬五千九百餘石ヲ得

ヘク此増獲壹萬六千貳百餘石今假リニ壹石六圓ト見積
ル片八年々九萬七千圓餘ヲ得ルニ至ルヘシ収利調表ハ全誌ニ載ス
其四精米水車之事 蒸氣瀝罐ニ換フルニ水力功用ハ別
冊ニ載スル如ク著大ナル諸製造場ノ設置ハ漸次有志者
ノ發企ヲ待テ公益ヲ得ルニアリト雖モ猶精米一途ノ用
ニ供スル水車ノ機械ヲ設置スルニ大ニ便アリ目下ノ車
數及精米ヲ調査スルニ別表ノ如ク一歲二十五萬石ニ過
キス京都ニ費用スル所ノモノ一歲凡五十萬石ニ近シ現
今水車ハ其ノ半數ヲ精磨スルノ實況ニシテ殘半數タル
ヤ他邦ヨリ白米ノ輸入ニ係ルト自家ノ足踏トノニアル
ノミ其ノ勞力其ノ賃金水車ニ比較スレハ極メテ廉ナラ
ス故ニ疏水ノ工事成ルニ當テ忽チ精米水車ヲ設置スル
モノ陸續ナルヲ信ス今別表ノ如ク歲計凡二十五萬石ノ

所得六萬餘圓ト見ルキハ又殘數ノ二十五萬石モ全額ニ至ル可ク之レカ器械ノ費途ニ其ノ半額ヲ充ツルト見做スモ猶年々三萬餘圓ノ所得アルカ如シ水車取調表ハ全誌ニ載ス其五火災防虞之事 京都市街劫火ノ爲メ數百戸ヲ灰燼ニセシト天明以來屈指スルニ違アラサス然ルニ之ヲ防クノ術タル僅カニ各戸限アルノ井泉ヲ以テスルニ過キス風力ノ少シク加ハルニ及テハ火勢益烈シク人力己ニ盡キ自然ノ消滅ヲ俟ツノミ是レ市街縱横ニ環流スル河泉ナキニヨレリ往年屢々大火ニ罹リタルヤ京都方ニ繁昌ノ頃ナリシモ猶且十數年ヲ經過セサレハ連簷ノ富市街ノ美容易ニ舊觀ニ復スルヲ得ス況ヤ今日ノ景狀ニシテ萬一天明或ハ嘉永安政元治ノ災厄ニ遭セ無數ノ財産ヲ灰燼ニ歸スルアラハ其ノ復舊ノ時又何ノ年ヲ期スヘケ

ンヤ實ニ人民ノ不幸土地ノ衰微之レヨリ大ナルハナシ宜シク市街ニ數派ノ水路ヲ延キ此ノ防虞ニ備ヘスンハアル可カラス

其六井泉之事 此地飲料ニ供スル井泉ノ水量タル古ヨリ之ヲ調査セシトナク歲々涸渴ノ極度ヲ知ルニ由ナシト雖昨近來時々渴水ノ聞ヘアリ殊ニ客年十一月及ヒ本年八月ノ頃ニ當リ續々涸渴ニ到リ減量既ニ別冊ノ如シ其ノ起因ノ細カナルハ未タ之ヲ審ニセスト雖昨井泉涸渴ノ景況ト舊來ノ實蹟トヲ以テ此地ノ水脈ヲ考フレハ左ノ理ニ外ナラサルヘシ蓋市街ノ井泉ハ深ク山嶽中心ニ丕胎スルノ原水ヨリ脈絡相通シ滾々流れ出ル所ノ者ニアラスシテ單ニ山嶽ノ溪谷ヨリ浸潤シテ市街地中北高南低ノ地盤石上ニアル疊層ノ砂石地皮ノ間ヲ滲

透下流スル者ナルカ故ニ僅々數十日ノ晴雨モ能ク井泉水量ノ増減ヲ致ス實ニ頼ムヘカラサルノ井泉ト云ヘシ已ニ客年十一月中旬ヨリ同十二月中ニ至ル僅々四旬内外ノ降雨ナキモ上京区内ニ於テハ井水ノ涸ル、モリ勘シトセス本年大旱ノ時ハ其ノ涸ル、モノ舉テ數フ可カラス此レ疏水ノ力ニ依リ用水ノ缺乏ヲ補ハ、遂ニ此患ヲ免ル、ニ至ルヘシ井泉淺深測量表ハ全誌ニ載ス

其七衛生上ニ關スル事 此地市街流水ノ乏キハ人々常ニ遺憾トスル所ナリ僅々西堀川ヲ首トシ細小ノ川路アルモ畢竟路傍溝渠ノ數脉ヲ合シタルモノニシテ惡水ヲ通スルニ過キス或ハ其川筋ニ塵芥淹滯シ所在死水ノ溜溜スル等ヨリシテ常ニ腐敗ノ汚氣ヲ釀成シ彼ノ猛烈ナル傳染病毒ヲ發生スルニ至リ其攝生上ニ害アル一之ヨ

リ甚キハナシ今疏水事業ヲ繼キ市街縱横ニ環流セシメ清泉ヲシテ溝渠川流ニ疏通セシメハ腐敗死水ノ淹滯スルナク且樹木繁茂ヲ助ケ空氣ヲ清潔ニシテ凡テ病毒ノ素因タルヘキモノヲ排除スルニ至リ自ラ健康ヲ保持セシムルノ功實ニ少小ナラサルヘシトス

工事方法要點

第一工事

一七千零三拾間

湖水ヨリ高野川マテ
疏水運河延長尺度

此内譯

- | | |
|----------|------|
| 貳百八拾五間 | 第一堀割 |
| 貳千三百九拾五間 | 第二堀割 |
| 貳百間 | 第三堀割 |
| 壹千壹百間 | 第四堀割 |

五百間

第五堀割

壹千四百間

第六堀割

六百五拾間

第一隧道

總高低四拾八尺七寸五分

第二隧道

勾配壹間ニ付壹分ヨリ壹分六厘迄

速力壹秒時間四尺四寸五分ヨリ三尺迄

水幅貳拾五尺ヨリ拾四尺迄但隧道内十四尺

水深貳尺ヨリ五尺迄

水量壹秒時間三百立方尺ヨリ壹百卅六立方尺迄

第二工事

一貳千壹百七拾間

高野川ヨリ小川マテ
疏水運河延長尺度

此内譯

壹千四百八拾間

高野川ヨリ
鴨川マテ

六百九拾間

鴨川ヨリ
小川マテ

總高低貳拾四尺壹寸八分八厘

勾配壹間ニ付壹分貳厘ヨリ壹分壹厘三毛迄

速力四尺ヨリ四尺貳寸迄

水幅拾四尺五寸ヨリ拾八尺貳寸迄

水深貳尺ヨリ壹尺五寸迄

水量壹百三拾六個ヨリ七拾個迄

一壹千七百三拾三間

小川頭ヨリ堀川二條マ
テ小川堀川改修尺度

總高低五拾六尺

勾配壹間ニ付三分九厘五毛ヨリ壹分貳厘迄

速力四尺六寸八分ヨリ三尺三寸五分迄

水幅拾三尺ヨリ三拾尺迄

水深壹尺五寸ヨリ七寸迄
水量七拾個ヨリ八拾個迄

第一工事ノ部

第一開門

湖水口ヨリ八拾五間西ニ於テ第一開門ヲ設置シ舟
ノ往復ヲ便ニシ併セテ洪水及ヒ旱水ノ時ニ於テモ
一定ノ水量ヲ運河ニ流下セシム其上下門ノ距離八
拾五尺幅貳拾貳尺

第二工事ノ部

第二第三第四開門

其構造第一開門ニ粗ホ同シ

運河ハ當時ノ高瀬川ヲ大ニ改良セシ有様ト見ルヘシ下
リハ舟引ノ速力一時間四拾町ヨリ五拾町迄上リハ貳拾

工事費額

町ヨリ三十町マテナリ

工事費額

一金六拾萬圓

此譯

金五拾三萬五千三百拾八圓六拾壹錢九厘 第一工事

内

金五萬千七百九拾四圓九拾八錢 掘割及堤防費

金三拾五萬五千三百三拾五圓八拾貳錢 隧道費

金七千五百六拾五圓六拾六錢 開門建築費

金壹萬千七百三拾七圓 石垣費

金壹萬百六拾七圓四拾六錢 橋梁及暗溝費

金九千四百九拾七圓九拾八錢九厘 土地買上費

金八萬九千貳百拾九圓七拾七錢 工事準備金

金六萬四千六百八拾壹圓三拾八錢壹厘

第二工事

内

金貳千九百八拾壹圓五拾五錢七厘

掘割費

金三千八百三拾五圓貳拾壹錢六厘

土地買上費

金三萬六千六百四拾八圓三拾貳錢

開門建築費

金壹萬四百三拾六圓五錢七厘

堤防及堰費

金壹萬七百八拾圓貳拾三錢八厘

工事準備金

勸業諮問會々々則

傍聽規則ハ
全誌ニ載ス

第一條 諮問會ハ午前九時ニ始リ午後四時ニ終ル時宜

ニヨリ會頭之ヲ伸縮スルヲアルヘシ

但シ大祭日祝日及ヒ日曜日ハ休會タルヘシ尤モ臨時

休會ヲ要スルキハ會頭之ヲ報告ス

第二條 會ノ始終ハ擊折ヲ以テ之ヲ報ス

第三條 會員ノ席順ハ豫メ定メタル番號ニ依ル

第四條 諮問案ノ趣旨ニ就キ質議アルキハ説明委員ニ

對ヒ質議ヲ爲スヘシ

第五條 諸說數派ニ分レ班別ヲ要スルキハ起立ノ作用

ニ依ルヲアルヘシ

但シ意見ヲ記錄シ提出スルモ妨ケナシ

第六條 會場ヲ整理スルハ會頭ノ任トス

第七條 會員病氣事故等ニテ出場シ能ハサルキハ開會

時限マテニ書面ヲ以テ届出ヘシ

同月五日府知事ハ親ヲ會頭ノ任ニ當リ開會ノ趣旨ヲ述ヘ

テ曰本日諸氏ヲ招集シ本會ヲ開設セシ所以ハ永ク京都ノ

繁榮ヲ維持セン爲メ一大事業ヲ創起セントスル所ノ可否

ヲ特ニ諮問セント欲スルニ在リ抑京都ニ於テ舉行スヘキ

事業ハ一ニシテ足ラスト雖凡就中最大急務トナス可キモ
ノハ琵琶湖々水ヲ京都市街ニ疏通シ其ノ水利ヲ活用スル
是ナリ而シテ今日此事業ヲ舉行セントスル所以ノモノハ
往昔 桓武帝此地ニ帝都ヲ定メサセ玉ヒシヨリ都下ノ繁
榮初メテ基井シ隨テ工商ノ業帝都ノ餘澤ニ因リ全國人民
ノ仰望スル所トナリ終ニ工商業者ハ自然ニ專賣權ヲ特有
セシモノ、如クナレリ是レ各員ノ祖先以來永ク此地ニ住
居シテ熟知セル所ナラン然ルニ時運變遷一朝帝都東遷ア
リシヨリ前日特有セシ專賣權モ亦自ラ他ニ移轉セシモノ
、如クナレリ嗚呼今ニ當テ此繁榮ヲ挽回セントスル實ニ
難中ノ難事ト謂フ可シ斯ク論シ來ラハ 陛下ノ還幸ヲ奉
願スルノ外別ニ挽回ノ策ナキモノ、如シ然ラハ之ヲ奉願
セシ乎皇都ハ業ニ既ニ確定シ今日ニ在テハ復如何トモナ

ス能ハサルナリサレハ舊都ノ繁榮ヲ永遠ニ維持セント欲
セハ宜シク將來ノ計畫ヲナサ、ル可ラス夫レ京都ノ位置
タル四方輻輳ノ地形ト謂フ可ラス何トナレハ河海舟路ノ
利アルニ非ス又四通五達ノ便アルニ非ス是ヲ以テ帝都タ
リシキト雖凡政治家ハ多ク心ヲ工業ニ用ヒタリシヨリ織
物ノ如キ陶器ノ如キ其ノ他玩弄品ニ至ルマテ皆帝都ノ餘
光ヲ以テ四方人民ノ鐘愛スル所トナリ又物産製造者ノ模
範トナリ所謂製造本場ノ地位ヲ占メ此繁榮ヲ有チタリキ
夫レ帝都ノ時ニ在テモ尙心ヲ工業ニ盡セシト此ノ如シ况
ヤ時運變遷人事日新外交頽繁物品輸出其ノ便利ノ歲ヲ逐
テ増進スルノ今日ニ於テオヤ今ニシテ此衰頽ヲ挽回スル
策ヲ計畫セサレハ恐クハ之ヲ救治スヘキ時機ヲ失シ他日
嚙臍ノ憂アラントナレ今日ニ於テ挽回ノ策ヲ求ムル所

以ナリ而シテ是ノ挽回ノ策タル他ナシ京都固有ノ工業ヲ
振起シ益製造場ヲ増置シ物品ノ製作ヲ培加スルニ如クナ
シ夫レ工業ハ相須テ成ルモノト雖モ京都ニ在テハ製造
物之カ主タリ是ヲ以テ工業振起セハ商業モ亦隨テ盛大ニ
赴クハ自然ノ道理ナリ今此等ノ策ヲ畫セシニハ廣ク眼ヲ
世界ノ形勢ニ注カサル可ラス何トナレハ各國ト廣ク通商
スルノ今日ニ當テ齷齪トシテ一國內ニ於テ錙銖ヲ爭フカ
如キハ獨リ爲ストチ欲セサル耳ナラヌ縱令之ヲ爲スモ其
ノ益ナキヲ昭々ナリ試ニ萬國工業ノ景況ヲ看ヨ其ノ競進
ト云ヒ其ノ發明ト云ヒ實ニ活潑タルモノニ非スヤ苟モ思
ヒ此ニ至ラハ豈因循苟且悠悠々送光スヘキ秋ナランヤ各進
取ノ氣象ヲ發シ奮然競進セサル可ラス而シテ此工業ノ繁
盛ヲ圖ラント欲セハ水火力二者ノ中其一ヲ假ラサルヲ

得ス今火力ヲ假ラン乎火力ノ如キハ數多ノ石炭ヲ要スル
ノミナラス其ノ他費用モ亦少シトセス故ニ工業ノ盛大ヲ
極ムルノ日ニ非サレハ其ノ得失相償ハサルナリ水力ニ至
テハ否ラス一旦之ヲ疏通セシ以後ハ別ニ要スヘキ費用ア
ルニ非ス其ノ他使用ニ至テモ頗ル便利ナリ是レ水力ヲ假
テ工業ヲ起サント欲スル所以ナリ且ツ水力ヲ使用スルト
キハ隨テ起ルヘキ利便モ亦大ナリ彼ノ物貨運輸ノ如キ是
ナリ今ヤ鐵道布設ノ爲メ不便ノ感ナキモノ、如シト雖モ
之ニ加フルニ水運ノ便ヲ以テセハ其ノ利果シテ如何ソヤ
況ヤ運賃ノ如キモ之ヲ鐵道ニ比スレハ幾多ノ減額ヲ見ル
ニ於テオヤ又京都ハ元來水ニ乏シク秋夏ノ交ハ論ナク冬
期ニ至ツテハ鴨川ノ如キ殆ト流水ヲ見サル有様ニシテ從
テ井水モ欲乏ス即チ本年ノ如キ非常ノ旱魃ニ際シテハ市

街至ル所トシテ飲料水ニ困難セサルハナシ然レモ永住ノ人ハ既ニ其ノ欲乏ニ習慣セシテ以テ左マテ不自由ノ感ナキモノ、如シト雖モ始メテ此地ニ來リタル者ヨリ之ヲ觀レハ獨リ飲料水ニ困難ナル而已ナラス彼火防ノ資ノ如キモ實ニ憂慮ニ堪ヘサルナリ昔時往々非常ノ火災ニ罹リ莫大ノ財産ヲ蕩燼セシテ皆此ニ職由セサルハナシ加之空氣常ニ乾燥セシテ以テ田畑ハ勿論花卉竹樹ノ如キモ其ノ發生宜シカラス從テ灌溉ノ力乏シキヲ以テ自然不潔ニ流レ或ハ臭氣ヲ發シ或ハ惡蟲ヲ生シ大ニ衛生ニ害アリ是某カ實驗シテ欺ク可ラサル所ナリ而シテ又精米水車ノ如キモ目今其ノ設置ノ多カラサルハ全ク水ノ不自由ナルカ爲ナリ今若シ水ヲシテ自由ナラシメハ從來不足ノ精米モ十分日用ヲ足スニ至ラン此他利益ノ在ル所故舉ニ違アラス以

上陳述セシ如クナレハ一朝水利ノ便ヲ得ハ京都ノ面目ハ忽チ一變シ工業ハ日々改良進歩シ初メテ萬國ト競進スルヲ得ヘケン彼ノ米國ノホリヨークノ如キハ全ク疏水ノ力ニ因テ許多ノ製造場ヲ設置セシ爲メ人民輻輳土地繁榮遂ニ一都會ヲ開キタリキ故ニ京都ノ如キモ其ノ繁榮ヲ將來ニ求ント欲セハ水利ヲ棄テ他ニ最大緊切ノモノアラサルナリ然ルニ幸ニ近接ノ地ニ疏通スヘキ琵琶湖ノアル在リ直徑僅カ二里餘ニ過キス實ニ無上ノ位置ト云ヘシ此地ニシテ此湖水アルハ殆ト造物者カ京都今日ノ衰頹ヲ救濟セン爲メ豫メ備ヘ置キタルモノ、如ク然リ某去ル十四年二月本府ニ赴任セシ以來琵琶湖々水疏通ニ起念シ其ノ冬之ヲ農商務卿ニ開申シ又同省吏員南一郎平氏ニ工事ノ利害得失ヲ質シ之レカ概算ヲ委托シ終ニ此工事ノ困難ナラ

サルヲ知リ客年四月實測ニ着手シ同五月以來分水線其
 他水車用又ハ旱魃ニヨリ水量ノ減損等ヲ調査シ漸ク今日
 ニ至テ百般ノ取調初メテ完全シ茲ニ此會ヲ開クヲ得タ
 リ然レ其ノ事業ノ大ナル未タ分水支線等ノ詳細ニ及ハ
 サレ此等ハ姑ク他日ニ譲リ其ノ要點トスル所乃チ分水
 ノ箇所堤防橋梁閘門等ハ仔細ニ取調及圖面ハ充分ノ實測
 ヨリ成リシモノニシテ尙工事ノ雛形ヲモ調製シ置ケリ依
 テ各員之ヲ熟覽ノ上疑義ノアル所ハ掛員ニ質問スヘシ抑
 此工事タル我國開闢以來未曾有ノ大事業ナルヲ以テ世人
 或ハ疑惑ヲ抱クモノナキニ非ラン然レ其ノ疑惑ハ皆臆
 測想像ニ外ナラス所謂杞憂ニシテ學術及實驗ニ出タルモ
 ノニ非レハ更ニ憂フルニ足ラサルナリ況ヤ今日ノ日本ハ
 昔日ノ日本ニ非ス學術ニ工事ニ測量ニ圖式ニ著シキ進步

ヲ加ヘ此等ノ工事ヲ起スニハ既ニ十分ノ材料ヲ備具セシ
 ニ於テオヤ且政府ニ向ツテモ今日ナレハ工事ノ補助ヲ仰
 クヲ得ヘキモ國家有事ノ時ニ當テハ縱令京都ニ如何ナ
 ル樞要ノ美舉アリト雖モ政府ハ爲メニ補助スルヲ能ハサ
 ルヘシ今ヤ海内昌平無事ナレハ此工事ハ補助ヲ仰クモ亦
 難キニ非ラサルヘシ實ニ起工ノ好事機ナレハ遲疑シテ其
 ノ機ヲ誤ル可ラス而シテ某本月十五日ヲ限リ東上ノ命ヲ
 拜シ時期已ニ迫レリ各員幸ニ之ヲ諒シ逐日審議討論シテ
 速ニ答議セラレントヲ望ム是ニ於テ會員ハ圖面及參考書
 ニ就キ質問ノ爲メ小會議ヲ開キ延テ翌六日ニ及ブ
 全月七日會頭府知事ハ前會ノ議事ヲ續キ且曰今聊カ前日
 演述セシ所ノ不足ヲ補ハン此經費ノ負擔ヲ上下京區聯合
 ノ力ニ任セントスルモノハ他ニ其ノ方法ナシト云フニハ

非ス今其ノ一二ヲ舉クレハ當府下一管内ノ力ニ任スル方
法アリ又會社法ノ組織ニ據ルモ可ナリ然ルニ故ラニ上下
京區ノ力ニ任セントスルモノハ大ニ將來ニ向テ望ム所ア
レハナリ抑此水利得益ノ所有權ハ其資力ニ歸スヘキハ勿
論ナレハ今會社組織ニ據ルキハ其ノ得益モ亦會社ノ所有
トナサ、ルヲ得ス之ヲ上下京聯合ノ力ニ因テ起工スルキ
ハ其ノ得益モ亦兩區ノ專有トナルヘキハ素ヨリ論ヲ待タ
サルナリ會社法ニ據ラン乎水利ハ會社ノ協議ニ制セラレ
サル可ラス之ヲ上下京聯合ニ任セン乎此水利ハ兩區ノ協
議ニ因テ自由ニ之ヲ左右スヘシ是此經費ヲ上下京聯合ノ
力ニ任セント欲スル所以ナリ
一番山本覺馬曰此工事ノ美舉ニシテ其ノ方法ノ善良ナル
蓋世界ニ稀ナル事業ナリト信ス而シテ此經費ノ負擔ハ上

下京區人民ノ負擔トナシ速ニ工事ヲ起サシトテ望ム
三十番吉村逸明一番ノ説ヲ賛成ス
四十二番高木文平曰昨日己ニ質問ヲ終ヘタル上ハ工事ナ
リ經費ナリ主任者數十日間ノ調査費セシ議案ナレハ最モ
完備ノモノト信ス仍テ本案ヲ可トス
二番中村榮助曰本員ハ工事及ヒ經費ノ詳細ハ未タ之ヲ了
知セスト雖モ本案ニ答フルトハ業ニ既ニ決心セリ而シテ
其細目ニ至テハ別ニ議スルトナ可トス
三十番吉村逸明曰分水工事高瀬川堀川改良法ノ書面ニハ
川上ノミアリテ川下ナキハ何故ナルヤ
嶋田六等屬曰通船ノ第一着ニ於テハ東高瀬川ニ連絡ヲ通
シ第二工事ニテ堀川ニ及ホシ其ノ他紀伊葛野二郡ノ水利
ヲ圖ルナリ

會頭府知事曰通船ノ便ヲ高瀬川ニ連絡セシムルトハ高瀬川ヲ取廣ルニハ非ス開門ヲ置テ水量ヲ増シ通船ノ差支ナカラシメ譬ヘハ此川ノ平水八寸ナレハ八寸ヲ以テ定量トナシ若シ水量漲溢スルニアラハ之ヲ鴨川ニ殺キ高瀬川ニハ定量ノ水ノミヲ送ル見込ナリ尤モ工事ノ着手ハ書面ニアル耳ノ見込ヲ付ケタリ故ニ此見込ヲ實施シテ後尙水ヲ要スル數派ニ及ハ、又第二着工事ニ於テ之ヲナス可シ到底高瀬川ハ水量ヲ深クスル迄ナリ

九番中野忠八曰諮問ノ要點ハ工事ノ經費負擔ニ在リ其ノ工事方法ハ目論見書ニ完全ナレハ復議スルヲ要セス此工事ハ京都ノ所益タルハ疑ヲ容レサル所ナリ

十番富井政恒曰工事ノ經費ハ上下京區ノ負擔ヲ至當ト認ムレハ本案ハ實ニ賛成セリ支出方法ノ如キハ區會ノ權限

ニアリテ本會ニ於テ述ルヲ要セス

十九番山本清太郎曰本案ヲ以テ大旱ノ雲霓ヲ望ムモ雷ナラスト思惟セリ仍テ一番ノ說ヲ賛成ス

十一番能川登曰本員モ亦一番ノ說ヲ賛成ス

六番濱岡光哲曰疏水工事ノ起サ、ルヘカラサルヤ復論ヲ待タサレモ只經費ノ點ニ至テ或ハ起スヘキ工事モ起シ得ラレサルノ場合アリ今諮問案ハ上下京區聯合ノ力ニ任セントノ趣旨ナレモ兩區共有ノ産業基金ヲ以テ之ニ當テサレハ別ニ町費トシテ課出セシメサル可ラス若シ町費ヲ以テ之ニ當ルトセハ實ニ困難ナリ依テ一ノ協力會社ヲ設立シテ負擔スルヲ良策トナス而シテ此會社ハ上下京區一括ノ結社トナスヘキヤ將々有志ノ協力トナスヘキヤ若シ有志ノ協力トナスキハ隨テ弊害ヲ生スルヲ以テ上下京區

ノ結社トナスヲ最良トナス然レモ万一上下京區結合ノ負擔ニ堪ヘサルキハ假令他日弊害ハ生スモ有志ノ協力ニ任セサルヘカラス而シテ又成功後ノ收利見積書ハ所持スレモ本會ニ要用ナラサルヲ以テ敢テ贅言セス如聞スルニ上下京區内ニテ或ル紳士ハ此工事ヲ起サンタメ既ニ建議セラレシト人心ノ傾向推知スヘシ實ニ起工ノ時機到來セリト謂フヘキナリ然レモ第二隧道以下ノ迂回及分線ノ事ニ至テハ輕々贊成ヲ表シ難シ且工事ハ六箇年ヲ經テ成功スルモノナレハ熟考ノ上述ル所アラントス

會頭府知事曰第二隧道以下ノ迂回ヲナシタル所以ハ第一開門ヲ設クルヲ要セス第二勾配ノ遲緩ニ赴ク爲メニ水流急ナラスシテ通船ニ便アリ夫レ開門ヲ設クルキハ日常通船毎ニ開閉ノ時間ヲ費シ且時々修繕ヲ要シ隨テ費用モ亦

尠カラス故ニ迂回ハ早損ニ備ヘ通船ニ便シ費用ヲ除クノ三益アリ實ニ工事中ノ要點ニシテ最モ力ヲ盡セシ所ナリ

四十番野村揆一郎曰六番ハ經費ノ支出ヲ論シテ或ハ有志ノ協力ト云ヒ或ハ上下京ノ結合ト述ヘラルレモ經費ノ一ハ經費ノ點ニ至テ議スヘシ本員ハ徹頭徹尾起工ヲ望ム

二十二番波多野庄兵衛曰起工ノ點ニ至テハ別ニ異議ナシト雖モ唯費途ノ點ニ至テ苦慮ス婆心ナカラ上下京區會ニ付スル上ハ區會議士ハ民力ノ程度ヲ計リ至當ノ方法ヲ議定スヘキナレモ彼產業基立金ヲ支出スルヲナラハ此金ハ貴重ノモノナルヲ以テ其ノ内幾分カ共有金ニ貯蓄シ其ノ餘ヲ此工事ニ支出スルヲ望ムナリ是ハ議事外ナレモ念ノ爲メ陳述ス

十二番高木文平曰此工事ハ譬へハ秋季木葉枯落セントス

ルキニ當リ反リ花ヲ咲カシムト云カ如キ美事ニシテ實ニ
 萬代不易ノ工事ナリ且今日ノ日本ハ昔日ノ比ニアラス氣
 運活潑ノ日本ナレハ萬國ト競争セサル可ラス此工事ヲシ
 テ早く成功ヲ告ケシメ當地ヲシテ日本第一ノ製造場トナ
 サントヲ望ム又此工事ヲ喜フノ聲ハ市街ニ充滿シ至ル處
 歡聲ヲ聞カサルハナシ猶悅フヘキハ區會議士ハ此諮問會
 ノ舉ヲ聞キ經費ヲ區會ニ負擔セントスルノ建議アリシト
 實ニ議士ノ任ヲ盡セリト謂フヘキナリ又此工事費額ヲ負
 擔シテ所有權ヲ掌握セントスルモノアリト聞ケリ故ニ本
 會ニ於テ可決ヲ告ケ他人ノ手ニ委セサラントヲ務ムヘシ
 而シテ工事計畫書中ニ製造場設置ノ箇所ナキモ此等ノ地
 所モ豫メ定メ置キ後日其ノ地主ノ賣却等ヲ拒ムカ如キ患
 ナカラシメ又小川頭等ノ沿岸ニ水車場ヲ併立シテ製造ニ

便ヲ與ヘ土地ノ繁華ヲ他ニ比類ナキニ至ラシメントヲ望
 ム工費ハ上下京區聯合ノ力ヲ以テ負擔スルヲ可トス
 四十四番河瀬勘兵衛曰彼ノ産業基立金ハ三拾萬圓アリト
 聞ケリ依テ元金拾萬圓ヲ殘シ殘リ貳拾萬圓ヲ此ノ工費ニ
 當テ又貳拾萬圓ヲ政府ニ仰キ貳拾萬圓ヲ府下一般ノ負債
 トナシ此負債ハ將來工事ノ利益ヲ以テ償却セントヲ望ム
 五十番譽田與助曰起工ハ贊成ナレトモ經費ハ六番ノ説ノ如
 ク協力會社ノ負擔ヲ可トス
 十番富井政恒曰此成功年限ハ滿六箇年ヲ期スレトモ明治二
 十年中ニハ成功アラントヲ望ム
 會頭府知事曰此年限ハ大工事故注意ノ上注意ヲ加ヘテ六
 箇年ト豫定セシモノニテ實際ハ四年ヲ期シテ成功ノ見込
 ナリ況ヤ農商務省疏水掛南氏ノ見込ニテハ三箇年ナリ然

レ此彼ノ豊公ノ割普請法ヲ取テ分擔工事ニナセハ二箇年ニテモ成功スヘシ併シ分擔工事ヲナスルハ隧道ニハ井狀坑ヲ穿テ掘鑿セサル可カラズ之ヲ爲スルハ多分ノ費用ヲ要スヘシ西洋ニテ工事ヲ急クルハ五年六年ノ工事ヲ一年間ニ竣功スルモノアリ是皆工事分擔法ニ由テ然ルナリ故ニ此工事モ四箇年ヲ超ヘサル見込ナレトモ鄭重ニ見込テ六年トナセシナリ

二十七番中川安修曰諮問案ノ總休ヲ可トス此事業タルヤ人民一般熟知スル所ナレハ一日モ早ク工事ニ着手セラレシトテ望ム

十五番長瀬彦三郎曰總休ニ付テハ別ニ意見ナシト雖モ工費六拾萬圓ノ内三拾萬圓ハ之ヲ政府ニ仰キ拾五萬圓ハ産業基金ヨリ支出シ殘額拾五萬圓ハ疏水會社ヲ設ケ約束

手形ヲ發行シ其ノ利息ハ運轉上ノ純益ヨリ之ヲ支拂テ可トス十六年度兩區内ノ營業稅戸數割稅ヲ視ルニ九萬貳千圓ノ多額ナリ此内壹割ヲ支出スルトナスモ償却ノ方法ハ立ツヘキト考フ

四十八番小西好賴曰事業ノ總休ハ之ヲ賛成ス而シテ費用ノ負擔ハ上下京協力會社ニ任スルヲ至當トス

四番西村七三郎曰起工ノ事ハ總テ賛成ス而シテ産業基金ヲ工費ニ使用スルトハ區會ノ議定ニ讓リ今之ヲ述ヘス此經費支弁ノ爲メ協力會社ヲ設クル等ノトハ得策ナリトセス

三十四番清水吉左衛門三十五番市原平兵衛三十二番池田八郎兵衛三十一番内貴甚三郎二十番磯野小右衛門十六番岸田九兵衛五番竹鼻仙右衛門十八番三澤友七郎三十六番

川嶋甚兵衛十三番市田文治郎四十一番遠藤彌三郎二十四番林治作并ニ諮問案ヲ賛成ス
 四十五番山鹿九郎兵衛曰本案ハ素ヨリ賛成ナリ而シテ費用ノ支出方法ハ幾種モアリ必シモ此六拾萬圓ノ豫算額ニ泥マス縱令超過スルモ工事ハ可成鄭重ニナランヲ望ム
 二十八番安村吉兵衛二十六番辻忠四郎七番鈴鹿辨三郎四十七番野橋作兵衛十七番矢野長兵衛二十五番野原新造二十一番山中平兵衛并ニ諮問案ヲ賛成ス
 是ニ於テ會頭府知事曰本日出席ノ各員ハ本案ニ對シテ悉ク賛成セリ而シテ經費ノトニ付二三會員ノ説アリト雖モ此ハ會頭ノ決ス可キモノニ非ス又六番ノ説ニ線路迂回ノトニ付見込アレモ今之ヲ述ヘストノトナリシカ抑此線路迂回ノトハ工事上要點トスル所ニシテ殊ニ勾配ヲ重スル

所以ハ此勾配ヨリ流水ニ速力ノ差ヲ來タシ速力ノ強弱ニ因テ通船ニ便否ヲ與フルモノナリ故ニ線路迂回スル所ハ彼ノ米國ノホリヨークノ漸次製造場ヲ設置セシ如ク沿岸至ル所水車ヲ設置スルニ便ナリ又幸ナルハ北方白川口ヨリ三條ニ至ル迄平面百尺即チ十丈ノ高低アリ此沿岸ニ於テ後年如何程ノ製造場ヲ設クルモ便ナラサルハナシ故ニ迂回ノトハ最緊要ナレハ六番ニ於テモ此意ヲ諒シ尙研究アリタシ各員ニ於テモ亦然リ抑本會ニ於テハ疏水工事ノ起工ヲ可トスル乎不可トスル乎ノ答議ヲ望ミタリシニ滿場起工ヲ望マル、ヲ以テ彌疏水工事ヲ創起スヘシ附テハ各員繁忙ヲ厭ハス逐日出會審議ヲ遂ケラレ更ニ可否決ノ數ヲ問フニ及ハス全會一致速ニ可決結了セシハ實ニ欣喜ニ堪ヘサル所ナリ依テ此ニ閉會スヘシ是ニ於テ議員一同

上下兩京聯合區會

相慶シテ退場ス

上下兩京聯合區會

同年十一月府知事ハ既ニ勸業諮問會ノ答議ヲ得タルヲ以テ更ニ前取調委員ニ命シテ上下兩京聯合區會ニ下附スヘキ議案ヲ編製セシム

同月十三日議案成ルヲ以テ左ノ達書ヲ發ス
番外五百五十三

上下兩京區役所

琵琶湖水ヲ京都ヘ疏通スル事業別紙ヲ以テ上下兩京聯合區會ニ附議可致此旨相達候事

明治十六年十一月十三日 京都府知事北垣國道

議案

第一條 疏水新川開鑿及市中川筋改修方法

一 琵琶湖ヨリ京都ニ達スル新川開鑿及東高瀬川小川堀川

等改修ノ方法左ノ如シ

其一 大津三井寺山下ヨリ府下宇治郡山科地方ヲ經テ

愛宕郡南禪寺村ヨリ北方高野川ニ達ス其線路并ニ工

事仕様ハ別紙甲號圖面及積書ニ據ル圖面 畧ス

其二 高野川以西下鴨村ヨリ加茂川ノ西岸ニ達シ一ハ

加茂川ニ沿ヒ東高瀬ニ通シ一ハ鞍馬口村小山村ヲ經

テ小川頭ヨリ堀川ニ通シ及東高瀬川小川堀川改修工

事仕様ハ別紙乙號圖面及積書ニ據ル圖面 畧ス

第二條 經費豫算方法

前條工事ノ經費豫算ヲ定ムル左ノ如シ

一金六拾萬圓

內譯

金五拾三萬五千三百拾八圓六拾壹錢九厘 第一工事

丙

金五萬千七百九拾四圓九拾八錢	掘割、堤防費
金三拾五萬五千三百三拾五圓八拾貳錢	隧道費
金七千五百六拾五圓六拾錢	閘門費
金壹萬千七百三拾七圓	石垣費
金壹萬百六拾七圓四拾六錢	橋梁、暗溝費
金九千四百九拾七圓九拾八錢九厘	土地買上費
金八萬九千貳百拾九圓七拾七錢	工事準備金
金六萬四千六百八拾壹圓三拾八錢壹厘	第二工事
金三千四百六拾七圓九拾七錢	掘割費
金三萬六千六百四拾八圓三拾貳錢	閘門費
金六千三百三拾壹圓貳拾錢	堤防、堰費
金七千四百六拾圓貳拾壹錢六厘	土地買上費

六十

金壹萬七百七拾三圓六拾七錢五厘 工事準備金

第三條 經費支出方法

一前條經費ノ支出方法ヲ定ムル左ノ如シ

其一 上下京區共有産業基金ヲ以テ此經費ニ充用支出スル者トス

但經費半額三拾萬圓ハ府廳ヨリ補助アル者トス

其二 前項支出金ハ一年度七萬五千圓トス

但事業ノ景況ニヨリ増減スルヲアルヘシ

其三 第一項ノ基金ハ公債証書ニ交換保管セシモノナレハ第二項ノ支出ヲ要スルキ之ニ該當スル所ノ証書ヲ其ノ時々見競直段ヲ取り賣却スル者トス

其四 年々賣却殘公債証書ヨリ生スル利子及當籤金ハ見競直段ヲ取り公債証書ヲ購求スル者トス

其五 産業基立金ヲ以テ此經費半額三拾萬圓ニ充テ支拂タル後過不足アルルハ更ニ本會ノ議定ニ付シ其ノ補充及處分方法ヲ定ムヘシ

右事業ハ本會議定ノ後其筋ニ稟請シ上下京公共ノ專有トシ供用スルノ許可ヲ得着手スル者トス

甲乙號附屬書

附屬書ハ工費ノ内譯ナルヲ以テ全誌ニ載ス

起功趣意書

本書勸業諮問會ニ下附セシモノト同一ナルヲ以テ之ヲ畧ス

參考書 此工事竣功ノ後得ル所ノ利益枚舉スルニ違アラスト雖最著ナルモノヲ左ニ概記ス

金拾貳萬圓

白川分水地其ノ他數個處機械運轉ノ爲メニ水力ヲ使用スル者凡六百馬力トス石炭ヲ使用シ此馬力ヲ有スルルハ本項ノ金額ヲ要ス今水力ヲ換用スルヲ以テ如

此

金八萬圓

舊來三條街道及ヒ氣車ニ依テ京津間ニ往來スル物貨運送ヲ運河ニ據ルルハ其ノ運賃ヲ減スルヲ如此

金九萬七千圓

宇治組伊愛宕葛野郡中田畑灌溉ノ爲メ收入實獲ヲ増ス一凡壹萬六千貳百石今假ニ米價五ヶ年ノ平均壹石六圓トナシ算出スル如此

琵琶湖疏水議按編製大意ヲ左ニ掲ケ參考ニ附ス

一起功及ヒ其ノ負擔ヲ上下京區聯合ノ力ニ歸セントスルモノハ勸業諮問會ノ答議ヲ參酌シタルモノナリ
一起功ノ大旨ハ掲ケテ趣意書ニ在リト雖最ニ適切緊要ナル事件ヲ平易ニ分明ナラシメン爲メ之ヲ掲ク

抑今起サントスル事業タル區民産業ノ元資ト謂フヘキ
 モノニシテ苟クモ己レカ作ス産業ノ元資ヲ求ムルニ當
 リ之ヲ使用スルノ道ヲ講セスシテ徒ニ其ノ元資ヲ求ム
 ルモノアラシク哉夫レ然リ是ヲ以テ區民此事業ヲ起サン
 ト決スル精神アレハ今日ヨリ豫メ此元資ヲ將テ工業ニ
 製作ニ運漕ニ其ノ他區内公共ノ福祉ヲ増進スヘキ事業
 ニ充テ餘贏ナカラシメ工事竣成ト共ニ機械ハ運轉シ舟
 船ハ回漕シ其ノ他百般競起シ毫モ區外者ノ使用ニ餘ス
 カ如キコアル可ラス豫メ注意奮心其ノ準備ヲ講究シ日
 夜怠慢忘却スヘカラス若シ此心ナクンハ之ヲ起功スル
 モ其ノ實利ハ舉テ他人者區外ノノ收拾スル所トナリ區民
 ハ徒ニ空權ヲ握ルニ過キサルニ至ルモ亦測ルヘカラス
 只區外ノ者ニ幾分ヲ割キ使用ヲ許シ其ノ間利ヲ收ムル

ハ田畑灌溉ノ一アルノミ宜シク大旨ヲ茲ニ定メ目的ヲ
 茲ニ着ケサル可ラス此ノ如クシテ初メテ工業ノ精巧物
 産ノ振興ヲ得京都全區ヲ潤澤セシメ天府富有ノ地トナ
 スヘキナリ

一産業基立金ヲ以テ之カ經費ニ充ルモノハ則此事業タル
 前述セシ如ク區民産業ノ元資タルニ外ナラス抑産業基
 立金ナルモノハ區民一般産業ノ基ヲ立ルノ資金ナリ故
 ニ之ニ充ツルハ適當ニシテ恩賜ノ旨ヲ失ナハサルモノ
 ナリ然リト雖此疏通スル所ノ水ヲ區民ニ於テ使用ス
 ルノ目的ナケレハ寧口今ノ儘ニテ公債証書等ニ据置ニ
 如カサルヘシ

一右各項ノ目的ヲ以テ確定議決シタルキハ其筋ヘ稟請ス
 ルハ別紙ノ旨意ヲ以テス

政府ノ認許ヲ請フ大意

一 曩年上下京區民へ恩賜在ラセラルタル金員ハ區民産業ヲ立ルノ基本ニ充用スヘキモノニ外ナラス今超ス所ノ疏水工事ノ如キハ此京都ヲシテ永ク帝都ノ觀ヲ失ハス繁昌ヲ保有シ無限ノ幸福ヲ受クル一大基本ナリ即チ器械ノ用ニ供シ船運ノ用ニ供シ田畑灌溉ニ井水ニ衛生ニ火災防虞ニ其ノ他百般皆帝都ノ觀ヲ永久ニ保存シ繁昌ヲ増進シ福祉ヲ有ツニ供用スルノ元資タリ故ニ右恩賜金ヲ此費ニ充用シ永ク區民ノ專有供用トスル特許ヲ請フ

一 右敷地及ヒ家屋官有ニ係ルモノハ無借料使用ヲ請フ

一 同民有ニ係ルモノ買上ノキハ公用土地買上規則ニ準スルノ免許ヲ請フ

一 右ニ屬スル土地ハ國稅免除ヲ請フ

同月十三日上下京區長ハ上下京聯合區會開設ノ旨ヲ届出且區内へ同會開設ヲ公示ス

今般番外五百五十三號達ニ基キ來ル十五日中學講堂ニ於テ上下京聯合區會開場候ニ付此段及御届候也

明治十六年十一月十三日 上京區長杉浦利貞
下京區長竹村藤兵衛

京都府知事北垣國道殿

上下京兩區

來ル十五日中學講堂ニ於テ上下京區聯合區會相關候條此段區内へ及告示候事

明治十六年十一月十三日 上京區長杉浦利貞
下京區長竹村藤兵衛

上下京聯合區會議員

一	番 上京區 卅二組秋築町	河野通經
二	番 下京區 十八組大江町	柴田治右衛門
三	番 全區 十六組上五條町	井上藤兵衛
四	番 全區 十一組菊屋町	吉本平兵衛
五	番 上京區 九組御三軒町	石東長四郎
六	番 全區 廿一組大門町	安田善兵衛
七	番 下京區 八組五軒町	安田專太郎
八	番 全區 廿七組大阪町	藤田太兵衛
九	番 全區 十四組難波町	清水吉右衛門
十	番 全區 廿八組五條橋東貳丁目	中村榮助
十一	番 全區 卅二組本町十丁目	澤田耕夫
十二	番 上京區 三組姥ヶ榎木町	小寺定次郎
十三	番 全區 十三組大東町	富田武兵衛

十四	番 全區 八組元妙蓮寺町	中孫三郎
十五	番 全區 十組北小路室町	木野村信久
十六	番 下京區 十九組上鱗形町	中村善右衛門
十七	番 全區 四組榭屋町	河村清七
十八	番 全區 廿三組高雄町	淺田佐兵衛
十九	番 上京區 卅一組榎木町	八木清助
二十	番 下京區 十七組小泉町	鹽山常次郎
廿一	番 上京區 十六組小寺町	大原嘉右衛門
廿二	番 下京區 廿九組鹽小路町	松枝平兵衛
廿三	番 全區 二組三條油小路町	近藤吉左衛門
廿四	番 上京區 廿六組大文字町	大久保利兵衛
廿五	番 全區 二組上御靈馬場町	七條則榮
廿六	番 全區 廿八組二條殿町	川端庄七

廿七番	下京區 卅組紺屋町	安田精矩
廿八番	全區 廿壹組轆轤町	竹中專助
廿九番	全區 廿五組上珠敷屋町	檜村彥右衛門
三十番	上京區 十五組北新在家町	那須平三郎
三十一番	全區 十二組梶井町	畑道名
三十二番	下京區 九組龜屋町	加藤伍兵衛
三十三番	上京區 十一組眞如堂前町	石原重三郎
三十四番	全區 廿四組西方寺町	莊林維英
三十五番	全區 十七組小川町	西堀德二郎
三十六番	下京區 十三組貞安前之町	平井市兵衛
三十七番	上京區 七組鹽龜屋町	中嶋源次郎
三十八番	全區 四組伊佐町	富田半兵衛
三十九番	全區 廿五組下御靈前町	大澤善助

四十番	下京區 一組松浦町	津田高景
四十一番	上京區 二十組鷹司町	栗山敬親
四十二番	下京區 廿六組聖眞子町	清水太郎兵衛
四十三番	上京區 廿九組松屋町	鳴林專助
四十四番	全區 三十三組北門前町	木下和助
四十五番	下京區 十五組祇園町南側	井上重三郎
四十六番	全區 七組大黒町	古川爲三郎
四十七番	上京區 十四組長門町	井上寅三郎
四十八番	下京區 六組石橋町	古川吉兵衛
四十九番	上京區 六組元觀音町	太壽堂千代吉
五十番	下京區 十組藤本寄町	小西長七
五十一番	上京區 廿七組二條西洞院町	八木伊之助
五十二番	下京區 廿二組清水一丁目	井上松兵衛

五十三番	下京區	廿組山田町	大塚	文治
五十四番	全區	廿四組東鋸屋町	木村	與三郎
五十五番	上京區	十八組天秤町	足立	藤三郎
五十六番	下京區	三組鱈山町	荒木	重兵衛
五十七番	上京區	廿三組横鍛冶町	川邊	祐次郎
五十八番	全區	十九組橋西貳丁目	岸	清次郎
五十九番	下京區	十二組上柳町	東枝	吉兵衛
六十番	上京區	卅組御池大東町	上田	安兵衛
六十一番	全區	廿貳組駒之町	河村	信正
六十二番	下京區	卅貳組八條町	田中	文助
六十三番	全區	五組八百屋町	小川	多左衛門
六十四番	上京區	壹組北仲之町	福住	源太郎
六十五番	全區	五組内藤町	堀口	清次郎

答辯委員

全	上京區書記	青山	長祐
全	下京區書記	岡田	爲七
全	四等屬	片山	正中
全	全	田所	重禮
全	全	野村	永保
全	判任御用係	田邊	朔郎
全	五等屬	嶋田	道生
全	七等屬	林成	清
全	全	丹羽	圭介

十一月十五日北垣府知事ハ臨場シテ本會開設ノ要旨ヲ演
 ヘテ曰今般上下京區長ニ命シ本會ヲ開設セシメタル所以
 ハ琵琶湖疏通工事ニ付曩日勸業諮問會ヲ開キ以テ事業ノ
 可否及ヒ工費ノ支出等ヲ諮問セシニ會員ハ皆之ヲ賛成シ

テ速ニ起工セシメテ望メリ故ニ此事業ヲ上下京ノ共有ト
ナシ此經費ヲ上下京聯合ノ支辨トナスコトハ當然ノコトナル
ヲ以テ今諸氏ヲ招集シテ更ニ此議ヲ下附セシ所以ナリ抑
此ノ事業ヲ起サントスル目的ハ既ニ諸氏ニ頒布セシ起工
趣意書ニ詳カニセシカ如ク目下京都ノ狀況ヲ察スルニ從
來ノ繁榮ハ既ニ去テ衰頽ノ氣運方ニ今日ニ迫ルコトハ諸氏
ノ熟知セシ所ナリ今ニ當テ之ヲ維持スル方法ヲ立テ之ヲ
挽回スルノ計畫ヲナサレハ他日嚙臍ノ憾免ル能ハサラ
シコトヲ恐ル是此案ヲ發セシ所以ナリ而シテ我京都ノ沿革
ヲ考フルニ從來商工業ノ繁盛ヲ維持セシモノハ必竟人爲
ニシテ天然ニ由リシモノニ非サルナリ何トナレハ帝都東遷
以來京都ノ繁榮ハ日ヲ逐テ退歩シ其極遂ニ今日ノ衰頽ヲ現
出セリ是則此ノ地ノ繁榮ハ天然ニ由ラスシテ人爲ニ出テ

シ所以ナリ然ラハ將來ニ向テ此繁榮ヲ挽回セントスル者
ハ惟舊様ヲ墨守セシテ非常ノ新案ヲ工夫セサル可ラス
熟考フルニ京都ノ地タル天然ノ形勢ヲ以テ人ノ輻輳スヘ
キ所ニ非サレハ從來享有セシ福利ヲ將來迄維持セント欲
セハ工業ヲ振起シテ之ヲ隆盛ナラシムルニ如クモノナシ
曠昔此地帝都タリシ時ニ在テモ政治家ハ大ニ力ヲ工業ニ
用ヒ彼ノ有名ナル板倉周防守ノ如キハ最モ意ヲ此ニ注キ
諸ノ物産ヲ振作シ諸ノ事業ヲ發達シ大ニ京都ノ繁榮ヲ圖
リタリト聞ケリ此ノ如ク此地繁榮ノ時ニ在テモ猶然リ況
ヤ衰頽ニ傾ケル今日ニ於テ豈袖手傍觀スヘケンヤ宜シク
進テ挽回ノ策ヲ執リ振起ノ策ヲ講セサル可ラス譬ハ西陣
ノ物産ハ足利桐生ト競争シテ一步ヲ讓ラサルヲ以テ足レ
リトス可ラス今ヤ万国ト對峙セシキナレハ大ニ工業ノ地

七十六
位ヲ進メ彼外國ト競争スルノ規模ナカル可ラス西陣ノ織物清水粟田ノ陶器等ノ如キハ彼ノ上位ヲ占ムルニ非レハ到底京都ノ繁榮ハ永ク維持スルヲ能ハサラン夫レ商工業ノ改進ヲ圖ラントセハ物品ヲ精良ニ安價ナラシメサル可ラス物品ヲ精良安價ナラシメントセハ機械ノ作用ニ賴ラサル可ラス機械ノ作用ニ賴ラントセハ必水火ノ力ヲ假ラサル可ラス然ラハ今火力ニ賴ラン乎諸氏モ知ラル、如ク其ノ費用極メテ多ク既ニ神阪等ノ如ク海濱ニ接スル土地スラ往々收支相償ハサルノ景況アリ況ヤ海濱ヲ隔ツル十數里ナル我京都ニ於テオヤ若シモ石炭ヲ用フルトセハ其ノ困難ナル知ルヘキナリ然ラハ水力ニ賴ラン乎鴨川ノ流水アルモ十馬力ノ水力スラ求ルヲ得ヌ其ノ他桂川白川等アレモ一ハ地形惡澁ニシテ機械場ヲ設置シ難ク一ハ

細流ニシテ工場ニ供スルニ足ラス是レ不得已他ヨリ水力ヲ延テ之ヲ使用セント欲スル所以ナリ幸ナル哉我カ隣地ニ日本第一ノ大湖ノ在ルアリ今之ニ因テ水ヲ延クキハ假令數千馬力ノ機械ヲ運轉スルモ更ニ支障スル所ナク加之地形ハ百餘尺ノ高低アリ今之ヲ疏通シテ利用スルキハ京都ノ中央ニ無盡藏ナル一大石炭山ヲ開造セシト一般實ニ非常ナル福利ノ基ヲ起セシト謂フヘシ既ニ之ヲ開鑿疏通セシ以上ハ假令將來如何ナル時運ソ變遷ニ遭遇スルモ此福利ハ依然トシテ毫モ變遷スルノ憂ナシ殊ニ京都ノ地質ハ上層ハ砂礫ナレモ下層ハ花崗石ナルヲ以テ恰モ砂礫ヲ以テ盤上ヲ覆フカ如シ故ニ市街ノ井水ハ眞ニ漏出スルモノニ非スシテ只盤上ヲ通過スルモノナレハ不斷地形ニ從テ北方ヨリ南方ニ向テ流ル是レ京都ニ於テ掘抜井戸ノ未

夕奮テ奏功セサル所以ナリ夫斯ノ如キ水源ナルヲ以テ一朝早魃ニ遭遇スルハ井水ハ忽チ涸渴シテ使用スルヲ能ハス豈危殆ナラサランヤ本年ノ大旱魃ハ暫ク之ヲ論外ニ措キ昨年ノ如キ其十一月ヨリ本年一月三十日迄降雨ナカリシハ井水ノ涸渴スルモノ甚タ多ク其際各井ノ水量ヲ検査セシニ上京區ハ實ニ著シキ減水ナリキ又當年モ五ケ度調査セシニ僅カ三日間ニテ畏ルヘキ減量ヲ見タリ若シモ此際不幸ニシテ出火アラハ如何シテ之ヲ撲滅セン乎實ニ危殆モ亦甚シト謂フ可シ古來京都ニテ大火ノ際ハ何ツモ消防ニ苦シミシナラン遠クハ天明ノ如キ近クハ元治ノ如キ是ナリ彼ノ元治甲子ノ役ニ於テ一橋氏ハ諸藩ニ嚴令シテ火防ニ盡力セシモ悲哉獨高瀬堀川ノ二水ヨリ外消防ノ用ニ供ス可キ水ナキヲ以テ猛火烈焰益威ヲ逞シ消防モ

遂ニ徒勞ニ屬セリト然レモ維新前ハ帝都タリシヲ以テ假令全府火災ニ罹レルモ舊形ニ復スルヲ亦難キニ非サリシモ今日ノ狀況ニシテ若シモ一朝此ノ如キ大火アラハ焉ソ復舊ヲ望ムヘケンヤ故ニ今水路ヲ開キ縱横市中ニ疏通セハ工場ハ勿論火防衛生運輸等ノ便益ハ實ニ枚擧スルニ遑アラサルヘシ殊ニ愛宕葛野其他郡村旱損ノ田地ニ灌漑シテ永世不朽ノ上田トナサハ其利益モ亦莫大ナルヘシ斯ク一舉シテ百益相生スルモノハ此ノ疏水工事ヲ措テ他ニ決シテ之ナキヲ信ス故ニ京都ノ繁榮維持法ハ此起工ヲ以テ最モ適切ナルモノト思考ス依テ曩日都下ノ先輩實業家ヲ集メ此事ノ可否ヲ諮詢シ其答議ヲ得テ更ニ議案ヲ編成シ以テ本會ヲ開カシメタルナリ故ニ此起工ノ成否ニ就テハ大政府ニ向テ數件ノ特許ヲ請フヘキモノアリ然ルニ本月

十五日迄ニ上京スヘキ旨内務省ヨリ内達アリタレモ斯カ
 ル緊要ナル議會ノ決議ヲ見スシテ東上スルハ實ニ遺憾ニ
 耐ヘス依テ本會ノ決議ヲ聞キ然ル後東上シテ本會ノ景況
 ナ具狀シ以テ特許ヲ請願セントス故ニ特ニ電報ヲ以テ内
 務省ヘ猶豫ヲ求メ一昨日指令ヲ得タリ之ニ依テ廿日ニハ
 必東上セサルヲ得ス此ノ如キ次第ナレハ諸氏ニ於テモ非
 常ノ勉強ヲ以テ一日モ早ク決了シ某カ特許ヲ得ルノ機ヲ
 失ハサラシメンコトヲ企望ス

同月十六日議長莊林維英ハ本案ノ第一次會ヲ開ク
 五拾九番東枝吉兵衛曰此起工趣意書ニ因レハ此工事ハ將
 來ノ益ヲ圖ルモノニテ落成後ハ主トシテ工業ヲ振起シ以
 テ衰運ヲ挽回セント欲スルニ在リト雖トモ個ハ是レ未來
 ノ無形物ニシテ今日豫メ充分ノ信ヲ置クコトハ最モ難シト

スル所ナリ而シテ成功ノ際利ヲ目前ニ見ルモノハ獨リ運
 輸ノ便ニ過キス此運輸上ヨリ生スル利益ハ實ニ僅々タル
 モノニテ此ノ如キ大工事ヲ起ス目的トナスニ足ラス然ル
 ニ主任者ハ此未來ノ無形物ニ賴リテ巨額ノ資金ヲ投シ京
 都ノ衰運ヲ挽回セントスル其ノ立案ノ精神ハ何レニ在ル
 ヤ

答辯委員曰此起功趣意書ニ詳記セシ如ク疏水事業ノ利益
 ハ都テ直接ノ利益ニ非スシテ專ラ間接ニ受クル公益ナリ
 昨日モ府知事カ演說セラレタル如ク京都ノ衰運挽回ノ策
 ハ工業製作ノ振起ヲ圖ルヨリ外術アルコトナシ而シテ之ヲ
 振起センニハ大ニ機械力ヲ用ルヲ要トス其機械ヲ運轉セ
 シニハ水火ノ力ニ因ラサルヲ得ス火力ニ因ルルハ巨万ノ
 石炭ヲ消費シ之ニ附隨スル經費モ亦夥シ況ンヤ鑛山ニ離

隔スル我カ京都ニ於テオヤ然ルニ水力ニ因ルキハ之ニ反シテ經費ノ容易ナル多言ヲ俟タスシテ明ナリ故ニ水力ニ因テ以テ機械ヲ運轉シ工場ヲ設置シテ以テ製作ヲ盛ニセハ無産ノ人モ産ニ就キ無職ノ徒モ職ヲ得ルニ至ラン果シテ然ラハ昨日ノ衰微モ忽チ變シテ天府富有ノ地トナルヲ信シテ疑ハス是此ノ案ヲ發セシ所以ナリ

六番安田善兵衛曰若王寺村ヨリ下加茂ニ至ル水利ハ總テ愛宕郡ニ在テ区内ニハ更ニ得益ナシ然ルニ其工費ヲ上下京區ニ負擔スルハ當ヲ得サルカ如シ

答辯委員曰愛宕郡ニ限ラス葛野郡ニモ多分ノ旱損地アリ既ニ愛宕郡ニテハ從來ノ旱損地ニ分水スルキハ壹万貳千六百石ノ新田地ヲ得ル豫算ナリ之ヲ壹石六圓ト假定スレハ即チ一年間ノ收穫ハ七万五千六百圓ナリ故ニ此工事竣

功ノ上ハ該郡村ヨリ相當ノ義務ヲ區民ニ酬報セシメサルヲ得ス且專有ノ特許ヲ得シ上ハ其分水ノ多寡ニ由テ相當ノ水稅ヲ徵收スヘキハ勿論ナリ而シテ是等ノ方法ハ追テ專有ノ特權ヲ得タル後設クル見込ナリ

四拾五番井上重三郎曰將來此ニ對スル修繕費ノ見込ハ如何

答辯委員曰將來多少ノ修繕費ハ要スルナレモ是ハ參考書ニ在ル收入金ヲ以テセハ充分ナリ

七番安田專太郎曰此水力ヲ用テ何馬力ノ機械ヲ何箇所ニ設置シ得ヘキ乎且小川堀川東高瀬川ハ皆改修ノ費目アレモ獨リ西高瀬川ハ其ノ費目ナキハ該河川ニ限り改修セサル見込ナルヤ而シテ堀川等ノ水量ハ何程ナルヤ

答辯委員曰愛宕郡南禪寺村ヨリ鴨川ニ至ル間ニ六百馬力

ノ水量アリ之ヲ何箇所ニ延クモ工場設置ノ都合ニ依テ自由ナリ就中若王寺村ヲ以テ最上トス其他適當ノ地所ニシテ必要ト認ムル箇所ハ忽チ地價騰貴スルハ必然ノ理ナルヲ以テ右様ノ場所ハ公用土地買上規則ニ據リ豫メ買上置キ以テ附屬地トナス見込ナリ而シテ西高瀬川改修ハ工事成功ノ時ニ讓ル見込ナリ且東高瀬川ハ目下ノ水量七寸位ニテ夏日ハ三寸若シ旱魃ニ遭ヘハ全ク涸渴ス依テ之ヲ改修シテ不斷七寸ノ常水トナシ堀川モ之ト同様ニシテ小川頭ハ成ルヘク人家ヲ取拂ハス其床下ヲ通過スル見込ナリ三拾八番富田半兵衛曰第一土地買上ノ方法第二三拾萬圓ハ區長カ府廳ヘ申請セラル、モノニシテ且年々下賜セラ、ヤ將々專有ノ特許ヲ得ハ一時ニ下賜セラル、モノナ、ルヤ第三半額ノ補助金ハ豫算額ノ半額ニ非スシテ實費ノ

半額ナルヤ第四毎年支出スヘキ七萬五千圓ハ産業基立金ヲ以テスル乎

答辯委員曰第一ノ問即土地買上ノ方法ハ現今ノ賣買直段ヲ參酌シテ買上ルモノナリ第二ノ問即補助金ノ申請ハ質問ノ通ナレモ下賜ノ期限ハ豫定シ難シ併シ先ツ四ヶ年ニ割當下附セラル、モノナラン第三ノ問即補助金ノ半額ハ豫算ノ半額ニシテ即三拾萬圓ナリ第四ノ問ハ即質問ノ通ニテ四箇年ニ割出スモノナリ

三拾九番大澤善助曰産業基立金ハ豫メ工事ノ半額ニ充ルモノト定メタルカ現今該金ノ總計ハ何程アル乎

答辯委員曰當今現在高ハ公債証書ノ額面ニテ總計貳拾九萬六拾圓アリ此内乙號拾壹萬五千六百九拾圓丙號拾七萬四千三百七拾圓但十一月ノ利子ハ未々收入セサルヲ以テ

之ヲ算入セス且四箇年ニ支出スレハ其末年ニ至リテ乙號
 八千圓丙號七千七百七拾圓ヲ餘ス豫算ナリ
 五十九番東枝吉兵衛曰人民カ直接資産ヲ擲ツト此産業基
 立金ヲ支出スルトハ自然感覺ノ異ナル所アリト雖主任
 者ハ此事業ニ對シテ此貴重ナル産業基立金ヲ以テ其ノ資
 本ニ供用セントスル目的ハ如何
 答辯委員曰恩賜金ヲ以テ此地衰運挽回ノ爲メ使用スルハ
 適當ノモノト信ス是レ之ヲ協議費ニ負擔セシメスシテ基
 立金ヲ使用セント欲スル所以ナリ
 三十八番富田半兵衛曰水路ノ内船ノ往來スヘキ箇所ハ何
 所ナルヤ又小川頭ハ往々人家ヲ取拂ハシムル見込ナル乎
 答辯委員曰通船ノ本路ハ鴨川ニ沼フテ東高瀬ヲ伏水ヘ又
 一方ハ鴨川ノ西ヨリ小川堀川ヲ下リテ西九條ニ至リ同所

ヨリ東高瀬ニ合シ同シク伏見ニ達ス而シテ小川頭ノ人家
 ハ大休官地拜借人カ多キ故何時ニテモ取拂ハシムルハ容
 易ナレト可成ハ現今ノ河幅ヲ其儘ニシテ強テ人家ハ取除
 カサル積リナリ

五十二番井上松兵衛曰第一工事ノ土地買上費九千四百九
 拾七圓九拾八錢九厘ハ移轉料モ算入セシモノナル乎

答辯委員曰然リ含蓄シアルナリ

五十四番木村與三郎曰此事業ハ工業製作ニ便ナルトハ承
 知セシカ聞ク所ニ據レハ淀川ノ船賃ト瀛車ノ賃金トヲ比
 較スルニ船賃ノ方不廉ナルヲ以テ多クハ瀛車ニテ貨物ヲ
 運送スト然ルニ今日既ニ京津間ノ鐵路開ケ運輸自在ナル
 ニ矢張主任者ハ運河ノ便ヲ取ラントスル乎

答辯委員曰京津間運賃ノ一ヲ取調シニ拾貫目ニ付平均瀛

車ニテ三錢八厘運河ニテ貳錢貳厘ナレハ既ニ壹錢貳厘ノ差アリ然ルニ此廉價ノ舟運ヲ藉ラスシテ高價ノ氣車ニ依ルモノハ經濟ノ密ナラサルヨリ起ルモノナラン

五拾四番木村與三郎曰斯ク琵琶湖ノ水ヲ疏通スルモ兩區ノ井水ニハ少シモ障礙ナキヤ

答辯委員曰障礙ハ更ニアラサルナリ

四拾壹番栗山敬親曰往古ヨリ此地ニハ京染トテ井泉ヲ以テ最上ノ染色ヲ出シ他國ニ比類ナキ名産アリ又鴨河晒トテ當地ノ水ハ大ニ賞揚セラル、モノナリ然ルニ今湖水ヲ疏通スルキハ是等ノ物産ニ障礙ヲ來スノ憂ハナキヤ

答辯委員曰若シ障礙アルキハ下加茂落合ノ北ニ於テナセハ更ニ差支ナキナリ

五拾二番井上松兵衛曰運河ノ線路ヲ松ヶ崎ニ迂回セシハ

土地ノ勾配ニ因テ不得已爲セシヤ將タ便利上ヨリ然セシヤ

答辯委員曰線路ノ迂回ハ勾配ニ因テ然カセシナリ湖水面ヨリ高低ヲ測ルニ三條大橋ニテ低キ丁百四拾貳尺餘出町ニテ百三尺出町ヨリ千貳百間北ニ進メハ地勢漸ク高キ丁四拾七尺貳寸從テ流水ノ速力モ稍緩ニシテ大約高瀬川ノ速力ト同様ナレハ尤モ通船ニ便ナリ其他旱田ノ灌養ニモ供スル爲メ斯ク迂回セシナリ

三拾七番中島源次郎曰專有ノ特許ヲ得ルキハ在來ノ東高瀬川モ共ニ專有ノ權アル乎

答辯委員曰東高瀬川モ專有ノ内ニアレモ其專有ノ權ハ獨リ水ノミニテ河ニハ及ハサルナリ

五拾四番木村與三郎曰此議案及地圖ノミヲ檢閲シタリト

テ十分ノ了解ハ到底出來サルナリ去リナカラ了解セサル
 モノヲ其儘ニ議決スルカ如キハ遺憾ニ耐ヘス此ノ如キ大
 工事ヲ一二日間ニテ了解スルハ難事ナリ故ニ委員ヲ撰ミ
 議案ヲ調査シ其報告ヲ俟テ後議セン
 五十三番大塚文治曰五十四番ノ建議若シ成立ハ調査委員
 ヲ設ケ其ノ報告ヲ俟テ一次會ノ決ヲ取ルヲニスヘシ且此
 豫算通ニテ工事落成セハ可ナルヘキモ但書ニ増減云々ノ
 事モアリ且千四百間ノ隧道ニ僅カ煉瓦二百間ヲ積ム如キ
 豫算ハ少シク危懼ナキ能ハス萬一豫算ニ多分ノ差違ヲ生
 スルトアラハ甚々遺憾ナリ
 十番中村榮助曰今委員ヲ設ケテ参考書ヲ調査セシメン杯
 トハ實ニ迂遠ノ事ニシテ且容易ニ出來得ヘキモノニモ非
 ス依テ本日ハ十分可否ヲ討論シテ明日議決スルカ穩當ナ

ラン五拾二番ノ如ク荏苒日子ヲ空過スルトハ萬々不可ナ
 リ
 五番清水吉右衛門三拾一番畑道名三十八番富田半兵衛四
 拾六番古川爲三郎俱ニ拾番ノ説ヲ賛成ス
 拾七番河村清七曰五拾三番ノ如ク確乎タル目的モナク徒
 ラニ搜索スルトハ望ム所ニ非ス左レモ本員等ハ決シテ輕
 ヌニ議スルトハ好マサルモ本案ヲハ可トスルナリ
 一番河野通經曰此工事タル卒然涌出シタルモノニハ非ス
 從來各自多少計畫ニ腦ヲ煩ハシ而シテ今日本會ヲ開カレ
 タルモノナレハ大體ノ可否ハ既ニ定リシモノナリ
 四拾一番栗山敬親曰抑此工事ハ萬代不易ノ大美擧ト謂フ
 ヘシ今日京都ノ景況ヲ觀ルニ漸次北方ヨリ衰微シ西陣ノ
 如キハ既ニ大疲弊ヲ顯出セリ若此儘ニシテ回復ノ策ヲ講

セスンハ遠カラスノ奈良舊都ノ故轍ヲ蹈ムトアルヲ恐ル
 今此工事ヲ起スハ實ニ時機ヲ得タリト謂フヘシ又補助金
 ノ如キモ今日之ヲ請願セスシテ荏苒廿三年ニモ至リナハ
 或ハ事甚々難カラシテ依テ一日モ早ク着手スルハ第一ノ得
 策ナリ本員ハ深ク信ス京都ノ衰運ヲ挽回スルハ此工事ヲ
 措テ決シテ他ニ之ナキトテ
 三拾五番西堀徳二郎曰此起工ハ此地ニ對シテハ無限ノ美
 舉ニシテ其ノ利益ヲ豫想スルキハ一日モ早ク着手セント
 ナ希望ス
 議長莊林維英ハ一次會ノ可否決ハ之ヲ明日ニ延スヘキ旨
 ナ告ケ本日ノ會ヲ閉ツ
 十一月十七日議長莊林維英ハ昨日ノ議事ヲ繼續スヘキ旨
 ナ陳告ス

五十九番東枝吉兵衛曰此工事ハ果シテ両區人民ニ公益ア
 ルヤ否又經費ハ區民ノ力ニ耐ルヤ否ニ付今一回ノ説明ヲ
 望ム何トナレハ本事業ハ將來必此地ノ繁榮ヲ振起スルノ
 一大基礎ナリト雖且眼前ニ利ヲ得ルモノハ獨リ運搬ノ便
 ノミ其他ハ概シテ將來無形ノ利ナリ而シテ京都人民ノ氣
 力ハ進取ニ乏シク守成ニ足ルハ一般ノ通慣ナリ然ルニ此
 工事ヲ以テ京都ノ衰運ヲ挽回スルトハ少シク解スル能ハ
 サルナリ既ニ桂川ノ水利アルモ之ヲ利用スルモノハ僅カ
 ニ梅津ノ製紙場一箇所アルノミ併シ數十年ノ後ニ至ラハ
 里昂ノ如キ有様ヲ現出スルヤモ知ルヘカラサルモ今日ノ
 景況ヲ以テ推測スレハ難キモノト謂ハサルヲ得ス且水利
 ニ因テ精密機械ノ如キハ増加スヘキモ若シ彼我競争シテ
 工場ヲ設置スル氣力ナク唯流水ヲ觀望シテ居ナハ必他府

縣ヨリ來テ工場ヲ設置スルナラン成程汎ク觀察ヲ下セハ國益ヲ増進スル一段ニ至テハ敢テ不可ナキ如シト雖起工趣意書ニ依レハ專ラ京都ノ繁榮ヲ圖ルモノニシテ則一地方ノ公益ヲ起スニ在リ故ニ區民ハ巨万ノ共有金ヲ擲チ此土功ヲ起スモ若シ成功ノ日ニ至テ因循苟且依然舊慣ヲ更メスンハ恰モ自己ノ財産ヲ擲テ隣家ヲ富マシムルト一般ナリ且豫算額ハ充分ノ調査ヲ遂ケシモノト信スレ其見込ニ反シ不幸ニモ猶巨額ノ費用ヲ要スルカ如キトアルキハ如何スヘキヤ

答辯委員曰只今ノ問ハ昨日來既ニ答辯セシ如ク京都ノ衰運ヲ挽回センニハ工業ヲ振作スルヨリ外更ニ術ナシ而シテ工業ヲ盛ナラシメンニハ孰レモ機械ノ作用ニ賴ラサルヲ得ス機械ノ作用ハ尤モ水火ノ力ヲ要ス然レモ火力ハ巨

額ノ費用ヲ要シ水力ニ賴ルキハ經費僅少ニシテ其得失ハ故テ委員ノ言ヲ俟タスシテ明ナリ且商工業ノ事ハ今日ヨリ充分ノ獎勵充分ノ誘導ヲナスヲ以テ區民爭フテ水利ヲ利用スルハ勿論ナリ猶近來東京或ハ他府縣人ヨリ水利ヲ假ラントテ依賴シ來ルモノアレモ到底是等ノ人ニ任ストハ出來サルナリ依テ益工業ヲ擴張シテ以テ起功ノ趣旨ニ反セシメサル様獎勵スルハ充分委員ノ見込ニアリ第二豫算ノ間ハ實地ノ經歷ニ徴シテ取調ヘシモノ故豫算額ヨリ增加スル如キ憂ハ決シテナキナリ

四十一番栗山敬親曰本員ハ聊カ所見ヲ異ニス此迄ハ區民カ因循シテ此工事ヲ企望セサリシモ今此舊習ヲ一洗シテ進取ノ氣象ヲ發シタルハ實ニ好機會ト云フヘシ然ルニ民度ニ適セス民力ニ堪ヘス假令起工スルモ精米位ノ利ナリ

ト云フモノアレト決シテ然ラス此工事落成セハ水利ヲ活用シテ各種ノ工場ヲ設置スルハ今ヨリ期シテ疑ハサル所ナリ然ルニ時尙早シトテ荏苒此好時機ヲ失スルハ遂ニ嚙臍ノ悔アラン京都今日ノ形勢ハ宛モ衰弱セシ病者ノ如シ早ク良醫ヲ求メテ投藥セサレハ長逝復歸ラサルノ悲嘆アラシ本員ハ飽マテ原案ヲ賛成ス

拾番中村榮助曰一次會ハ原案ヲ賛成ス併シ輕々ニ賛成スルニ非ス茲ニ尤モ注意スヘキハ第一工事ノ難易成功ノ結果第二經費ノ變動ニヨリテ豫算額ニ超過スルト是ナリ然レ從來ハ充分ノ研究ヲモナサス唯難事トシテ放棄セシモ今日學術漸ク進ミタレハ此學理上ヨリ觀察スルハ工事ノ難易經費ノ豫算ハ其ノ實地ト大差ナキハ万々信シテ疑ハサルナリ且此土功タルヤ寔ニ美舉ニシテ今日ノ急務ナ

リ然ルニ或ハ區民進度ノ適否ヲ以テ論セラルレト此ノ如キ須要ノ事業ヲ起スニ當リ何爲ソ區民ノ進度ヲ俟ツヘキ理アラシヤ

六番安田善兵衛七番安田專太郎九番清水吉右衛門並ニ原案ヲ賛成ス

四十六番古川爲三郎曰只今四十壹番ノ説ヲ聞クニ此工事落成セハ安坐シテ利ヲ得ラル、様ナレト左様ノトハ決シテ望ム可ラス若シ原案ニ可決セハ彌進テ工事上ニ一層ノ力ヲ盡シ水利ヲ活用スヘシ依テ希クハ諸君ト心ヲ共ニシ力ヲ合セ區民ノ嚮導者トナリ我京都ノ衰替ヲ挽回セントナ努ムヘケン依テ原案ヲ賛成ス

五十九番東枝吉兵衛曰本員モ固ヨリ起工ハ望ム所ナレト區民カ自ラ進テ起工ノ念ヲ生シタルモノナレハ甚美ナレ

此事業タルヤ元來府知事ノ計畫ニ出タルモノニシテ必竟
 區民ハ其ノ誘導ニヨリ之ニ同意ヲ表セントスルモノナリ
 且原案賛成者ニモ種々ノ分子アリテ或ハ依頼心モアリ或
 ハ經費ノ直接關係ナキ故賛成セシモノモアラン或ハ水利
 スラ起ラハ坐シテ利ヲ得ル如キ説モアレトモ果シテ起工ス
 ル以上ハ確乎不拔ノ氣象ナクンハ決シテ竣事スルヲ能ハ
 サラン唯府知事ノ計畫故萬々失錯アルマシ杯ノ依頼心ヨ
 リ原案ヲ賛成スル如キ精神ニテハ本員ハ俱ニ與ニ同意ヲ
 表スルヲ能ハサルナリ

答辯委員曰五拾九番ノ疑問ニ對シテハ再三陳辯セシ如ク
 此事業ハ卒然ノ計畫ニ非ス實ニ四五年前ヨリ考究セシ所
 ニシテ又區民ノ進度ニ適スル乎否ハ一々之ヲ區民ニ質ス
 丁チ得サル故曩日商工業其他名望アル人即區民ノ意向ヲ

代表セシムルニ足ルヘキモノヲ招集シ以テ勸業諮問會ヲ
 開キ此事業ノ適否ヲ諮詢セシニ全會一致起工ヲ可トセリ
 是ヲ以テ此事業ハ充分區民ノ進度ニ適セシモノナルヲ
 確信シ此ニ本會ヲ開キシ所以ナリ

五拾九番東枝吉兵衛曰始メテ了解セリ一次會ハ原案ヲ贊
 成ス

五拾二番井上松兵衛曰抑此舉ハ明治ノ今日ニ始マリシニ
 非ス遠ク徳川ノ頃ヨリ既ニ計畫セシモ當時ハ未タ斯ノ如
 キ緻密ノ測量ヲナス人ナク唯難事トシテ遂ニ顧ミサリシ
 カ其ノ後前知事モ亦計畫スル所アリ是モ充分ノ測量ヲ果
 サスシテ止ミヌ而シテ今日斯ク精細緻密ノ測量成ルハ實
 ニ稱賛ニ堪ヘサルナリ故ニ原案ヲ賛成ス

二拾六番川端庄七二番柴田治右衛門四拾番津田高景三拾

一番畑道名并ニ原案ヲ賛成ス
 三十九番大澤善助曰元來工業者アリテ後水ヲ疏通スレハ
 万々都合ナレモ概シテ事業ハ先ニ成ルモノニ非ス譬へハ
 借人ヲ待テ貸家ヲ建ツルニ非ス貸家アリテ借人來ルモノ
 ナレハ先ツ新川ヲ開鑿シ而シテ後工業者ノ聚ルハ自然ノ
 理ナリ敢テ掛念スルニ及ハス且ツ工事ハ速ニ成功スルモ
 ノト信ス
 議長ハ既ニ論議盡キタリト認メ原案ノ總体ヲ可トスルモ
 ノヲ起立セシメシニ起立者全員續テ第二次會第三次會ヲ
 開キシニ孰レモ異議ナク原案ニ確定セシテ以テ議定書ヲ
 上下京兩區長ニ呈ス
 今般本會ニ發附相成候琵琶湖新川開鑿事業方法議案總
 テ原案ノ通全會ノ意見ニ依リ評決致候條此段及具申候

也

明治十六年十一月十七日上下京聯合區會議長莊林維英

上京區長杉浦利貞殿

下京區長竹村藤兵衛殿

上下京兩區長ハ乃チ議會評決ノ旨ヲ上申ス

今般番外五百五拾三御達ニ基キ琵琶湖新川開鑿及市中
 川筋改修方法議案ヲ以テ上下京聯合區會へ附議仕候處
 原案ノ通決了仕候旨同會議長ヨリ別紙ノ通申出候就テ
 ハ施行順序ノ儀府廳ニ於テ可然御處分被成下度此段併
 テ上申仕候也

明治十六年十一月十七日

上京區長杉浦利貞

下京區長竹村藤兵衛

京都府知事北垣國道殿

同月十九日府知事ハ既ニ勸業諮問會ノ答議及上下京聯合區會ノ評決ヲ得タルヲ以テ之ヲ政府ニ請願センガ爲メ東上ス

明治十七年

明治十七年一月十三日内務省准奏任御用係田邊儀三郎疏水工事取調ノ爲メ來京ス

東上委員
撰舉

同年二月廿三日上下京兩區長ハ臨時聯合區會開會ノ旨ヲ上申ス

琵琶湖疏水事業ニ付上下京聯合區會議員中兩三名東上委員ヲ撰ミ其筋ヘ事狀具申爲致度旨同會議員半數以上連署ヲ以テ建議仕候ニ付別紙議案ヲ以テ本日上京區第三拾一組下丸屋町商工會議所ニ於テ聯合區會相開候ニ付此段及上申候也

明治十七年二月廿三日

上京區長杉浦利貞

下京區長竹村藤兵衛

京都府知事北垣國道殿

同日上下兩京聯合區會ハ上京區第三拾一組下丸屋町商工會議所ニ於テ開設シ即日議事結了シ其ノ評決左ノ如シ
一琵琶湖疏水事業ニ付其筋ヘ申立ノ爲メ東上委員二名本會議員中ヨリ公撰スルモノトス
一委員旅費日當ハ左ノ定額ヲ以テ聯合區會議費中ヨリ支辨ス

一旅費ハ往復壹名金五拾圓

一滞在日當ハ一日金壹圓

同日上下京聯合區會ハ議員中村榮助全古川吉兵衛ヲ公撰シテ疏水東上委員トナス同日勸業諮問會員モ亦集會シテ東上委員兩名ヲ撰舉ス濱岡光哲高木文平其撰ニ當ル

同月廿六日府知事東上ス

同年三月七日三等属片山正中七等属丹羽圭介ヲ滋賀縣ニ差ハシ疏水事業ノ爲メ利害ヲ諮問スル該縣勸業諮問會ヲ

傍聽セシム傍聽筆記ハ全誌ニ載ス

起功特許

疏水起功伺

琵琶湖疏水起功伺

同年五月五日琵琶湖水ヲ京都へ疏通スル事業起功ノ爲メ始メテ主務省へ左ノ伺書ヲ呈ス
號外第八號

琵琶湖水ヲ京都へ疏通スル事業起功ノ儀ニ付伺
京都ノ地タル延曆ノ朝

神寶ヲ此ニ移奠在ラセラレシ以來千有餘年ノ久シキ五畿七道ノ首府トナリ

御歴代御陵墓ハ勿論御由緒深キ大社巨剎洛ノ内外ニ森列シ宏壯偉觀自カラ土地ノ韻致ヲ加ヘ

神聖ノ遺風前哲ノ舊蹟咫尺ノ間ニ歷々タリ實ニ千歳ノ活歴史ト謂可シ是以テ内國臣民ノ此地ヲ景慕スルヲ其父母ノ國ヲ懷フカ如シ番ニ内國臣民ノミナラス外國賓客來テ此地ヲ欣賞シ 鳳關ノ盛觀ヲ拜シ又風俗ノ淳厚ヲ感歎スルモノ陸續踵ヲ接ス故ニ此地ノ盛衰ハ獨リ全國人心ノ向背ニ係ルノミナラス外國ニ對シ國光ノ如何ニ關ス可シ是故ニ假令時勢ノ變ニ因リ皇居ハ東京ニ御遷移アラセラレ候モ此平安京ヲ永久ニ維持シ土地ノ繁盛ヲ潤色シ以テ益全國臣民景慕ノ心ヲ振起セシメ苟モ一タヒ此地ニ遊ヒ此勝境ヲ觀ハ肅然往事ヲ追懷シ我國ノ萬邦ニ卓越タル所以ヲ感悟シ國休ヲ誤ル者ナキニ至ラシムルモノ方今國家ノ

一 要事件ニシテ其忽ニスヘカラサルハ國道ノ信シテ疑ハ
サル所ニ有之曾テ赴任以來維持保存ノ方法ヲ按スルニ其
策一ニシテ足ラスト雖此地元來水利ニ乏シク年々井水
ノ涸渴スルモノ十ノ四五日用ノ飲水ニ困ム冬夏概テ然
リ偶客年ノ如キ大旱魃ニ遭フキハ水ヲ求メ雨ヲ請ヒ困頓至
ラサルナシ又祝融ノ災ニ罹ルカ如キニ至テハ殆ト防禦ノ
手段ニ盡キ空シク延燒ヲ待ツノ外無之元治甲子ノ年兵火
ノ時ノ如キ是其近例ナリ其他巨刹ノ灰燼ニ歸シ看古蹟ヲ損
シ帝都ノ美觀ヲ傷スルヲ往々之レアリ此帝都ニシテ此憂ア
ルハ洵ニ寢食ノ安カラサル義ニ有之且此地古來工業製作
ヲ以テ生産ヲ立ツルニモ機械ヲ運轉スルノ水利ナキヲ以
テ工業ノ改良製作ノ進歩ヲ圖ルニ至ラス一二奮然率先工
業ヲ設ケ火力ヲ假リ以テ機械ヲ運轉セシムル者アルモ其

石炭ハ皆之ヲ神戸大阪ニ仰カサルヲ得ス此運費少ナカラ
サルヲ以テ到底收支相償フニ至ラス爲メニ半途工場ヲ鎖
スニ至ル是レニ因テ之ヲ觀レハ水利講修ノ術尤モ緊要ニ
有之然ルニ幸ニ接近ノ地琵琶湖ノ疏通スヘキモノアルヲ
以テ豫メ新川開鑿ノ調査ニ着手シ今般其工事計畫相整ヒ
乃チ府下ノ名望アル資産家五拾名ヲ撰ミ勸業諮問會ヲ開
キ該工事ノ可否諮問ノ末全會ノ賛成答議ヲ得タリ因テ其
旨ニヨリ上下京區長ニ命シ上下兩京聯合區會ヲ開キ新川
開鑿舊川改修及費用支辨ノ方法議定セシメ候處亦異議ナ
ク可決シ該費金ノ半額三拾萬圓ヲ右兩區内ニ於テ負擔ス
ルトト相成候抑此事業ヲシテ上下兩京區ノ負擔トシ討議
セシメタルハ此水利ニ據テ工業ノ機械ヲ設置シ舟楫ノ便
ヲ開キ其他田畑ノ灌溉ニ火災ノ防禦ニ井水及衛生上等大

二諸般ノ公益ヲ起シ前ニ所謂京都ノ繁盛ヲ潤色スルノ手段ニ有之内ハ萬民景慕ノ心ヲ興シテ以テ淳厚ノ俗ヲ保チ外ハ外賓愛敬ノ意ヲ慰メ以テ神州ノ光華ヲ輝スヘク然ルキハ府民ノ福祉焉ヨリ大ナルハナシ則聯合區會モ亦此精神ヲ以テ速カニ前段ノ評決ヲナセリ實ニ此起功ノ將來京都ノ衰盛ニ係ル重大ナルヲ以テ府民ノ此舉ヲ奮進熱望スル意想ノ外ニ出テ恰モ趣向機會ノ相投スルノ狀勸業諮問會及聯合區會ノ答議評決ニ因テ明了致シ候右等ノ情狀篤ク御洞察特別ノ御詮議ヲ以テ左ノ項々宜敷速ニ御指令相成度候

一琵琶湖水ヲ京都ニ疏通スルノ土功ヲ起シ其水利ヲ上下京區ノ共用トスル事

一川床及堤防敷地并ニ附屬地等官有ニ係ルモノハ無借地

料貸渡ノ事

一同民有ニ係ルモノ買上ノ時ハ公用土地買上規則ニ準スル事

一川床及堤防敷地ニ屬スル土地ハ國稅免除ノ事

一此工事經費豫算六拾萬圓ニシテ其半額三拾萬圓ハ前ニ陳述ノ通上下京區内ニ於テ負擔シ其半額三拾萬圓ノ中拾五萬圓ハ一昨年四月大藏卿へ御届致候當府限取扱金ノ儀ハ素々勸業基立トシテ借入セシ資本運轉上等ヨリ成立セルモノナルニ付之ヲ以テ補助シ尙不足金拾五萬圓ハ前陳ノ通り千有餘年ノ帝都内外人民ノ景慕セル勝地ヲ永久維持保有シ大政上裨益鮮ナカラサルノ大土功ナルニ由リ特別ヲ以テ三ヶ年間ニ國庫ヨリ御補助相成度候

一此工事タル何分稀有ノ大土功ニシテ事業ノ繁雜ナル素ヨリ尋常工事ノ比ニアラス到底實地ノ經驗ニ富ミ工事ニ熟達セル者ヲ以テ擔當セシメサレハ能ハサル儀ニ付府廳内ニ特ニ該事務取扱ノ一局ヲ設ケ熟達ノ者ヲ撰任シ專ラ之ニ從事セシメ御主省ノ監督ヲ得テ萬事府廳ニ於テ擔任取扱致度候事

右之通相成候ハ、京都維持上ニ付テハ申迄モ無之其忠厚ノ風俗ヲ振起スルノ功益ニ於テモ亦淺渺ナラサル儀ニ存候就テハ主任ノ者東上爲致居候間水利計畫ノ如何ハ別冊ニ就キ御調査御不審ノ廉ハ右主任へ御質問ノ上第一項ノ趣御特許併セテ第二項第三項以下ノ御詮議相成度公益中著明ノ件々別紙調書御參考ノ爲メ相添此段相伺候也

明治十七年五月五日

京都府知事北垣國道

内務 卿山縣有朋殿
大藏 卿松方正義殿
農商務卿西郷從道殿

別紙

琵琶湖ヨリ京都へ達スルノ疏水工事竣功ノ後得ル所ノ利益枚擧スルニ違アラスト雖其最モ著シク算出ノナシ易キモノヲ概記シ御參考ノ爲メ掲載致候

一金拾貳萬圓

此譯水力ヲ以テ機械運轉ノ用ニ供スルモノ凡ソ六百馬力餘ヲ有ス今石炭ヲ使用シ此馬力ヲ得ント欲スレハ一馬力ニ付一箇年凡ソ金貳百圓ヲ費消スルニ至ル此六百馬力分ヲ公益トシ積算スルト如此

一金九萬七千圓

此譯同上運河ニ關係スル所山城國宇治紀伊愛宕葛野郡
 中本年ノ如キ稀有ノ旱魃ハ之ヲ算外ニ措キ平年ヲ以テ
 統計スルニ右四郡中旱損ニ罹ル田畑凡ソ千貳百四拾七
 町餘アリ此收穫九千七百餘石ヨリ現收スル能ハス今運
 河ノ分水ヲ以テ灌漑チ充分ナラシメハ普通耕田トナリ
 貳萬五千九百餘石ヲ得ヘク此増穫壹萬六千貳百石ヲ假
 リニ五箇年平均ノ米價壹石六圓ト見積リ公益ヲ算出ス
 ルト如此
 一金八萬圓

此譯舊來三條街道一箇年平均ノ物貨輸出入運賃總額金
 拾壹萬六千圓ニシテ此量目千四百貳拾萬四千貫タリ今
 新運河ニ依リ通船ヲ以テ運送スルトキハ即チ左表ノ如
 シ

舊來一箇年 運送量目	此運賃牛馬人負 車運等總計	同上上下平均 拾貫目ニ付	新運河船賃上 下平均拾貫ニ付	上項ノ貨錢ヲ以テ初 項千四百廿萬四千貫 目ヲ運送スル高
千四百廿萬四千貫目	拾壹萬六千圓	八錢壹圓六毛六	貳錢五厘三毛五	三萬六千圓

差引舊來ノ賃錢ヨリ減スルモノ八萬餘圓ナリ之レ即運
 河ノ公益タルニヨリ算出スルト如此

右ハ利益ノ最著明ナルモノニシテ此他精米水車目下最寄
 ノ白數ニヨリ精磨スルモノヲ調査セシニ一箇年貳拾五萬
 石ニ過キス京都ノ人口ニ費消スル所凡五拾萬石ニ近シ現
 今水車ヲ以テスル漸ク其半數ニシテ殘半數タル他國ヨリ
 白米ノ輸入ニ係ルト自家ノ足踏トニアアルノミ其勞力及賃
 金ハ之ヲ水車ニ比較スレハ甚廉ナラス疏水工事ノ成ルニ
 當リ猶陸續精米水車ヲ設置スルモノアルヲ信ス此公益概
 算年計三萬餘圓ノ所得アルカ如シ且客年渴水ニ際シ市中

井泉ノ水量ヲ測リシニ上京區内ハ渴水ノ箇所最モ多ク乾
涸セシ數既ニ其半ハニ及ヘリ之レカ準備タルモ清泉ヲ環
流セシムルノ外無之併テ御參考ニ供候也

同年六月廿七日右伺書ニ左ノ指令アリタリ

書面伺之趣ハ當省土木局調製ノ別紙甲乙兩通設計書ニ
據リ増費并ニ將來修繕ニ要スル費途支辨ノ方法等取調
其府聯合區會ノ議決ヲ取り更ニ伺出ヘシ

明治十七年六月廿七日

内務卿山縣有朋

別紙

土木局設計書

琵琶湖疏水工事設計甲乙兩通別紙進呈候也

明治十七年六月

土木局

但甲號設計書ハ單ニ京都府ノ計畫ニ基キ取調タルモ
ノニシテ乙號設計ハ同府計畫ニ據ラス專ラ改良ノ見

込ヲ以テ取調且甲號設計中未タ取調ヲ了ヘサル者ヲ
補ヒタル者トス

京都府琵琶湖疏水工法及工費豫算京都府ノ件ニ付得ル所ノ
計畫

意見ヲ左ニ掲ク

右ノ計畫ニ據リ其起功ノ目的ハ之ヲ達シ得ラルヘシト雖

其工法頗ル堅全ヲ欠クモノアルヲ信スルナリ

第一隧道工事ノ如キハ唯壹百間ノ支保工ヲ施シ其他ヲ京
都府ノ計畫通りニ施行スルギハ恐クハ落成ヲ待タスシテ
壞崩ヲ來サンコト患ルナリ好シヤ幸ニシテ無難ニ落成ス
ルモ數年ナラスシテ不慮ノ災害ニ遭フナキヲ保シ難シ何
トナレハ京都府ニ撰定スル隧道ノ横斷面ハ石質最善ナル
所ニ於テハ施シ得ヘシト雖古關越山ノ如キ所ニハ到底
行ヒ難シトス

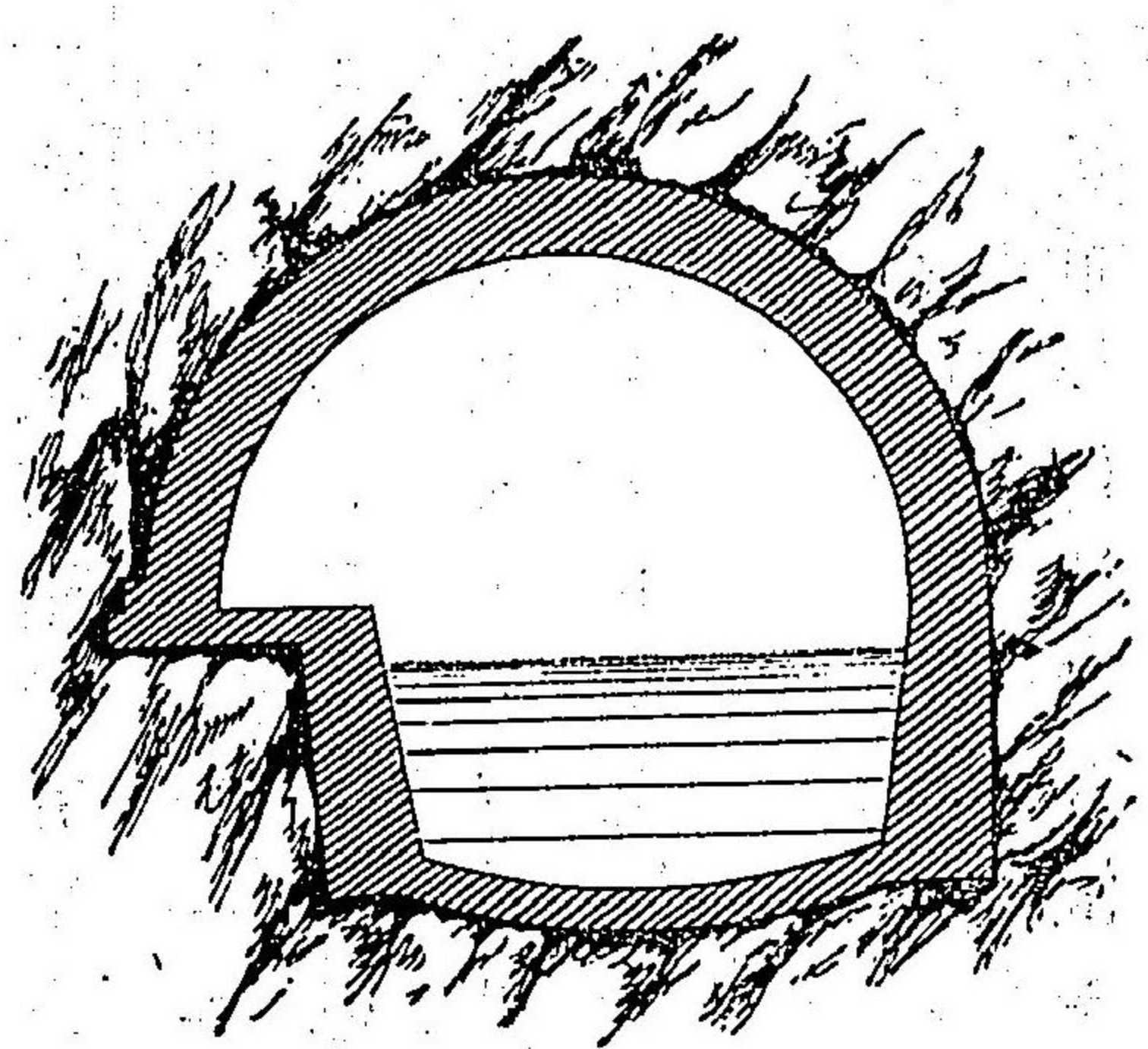
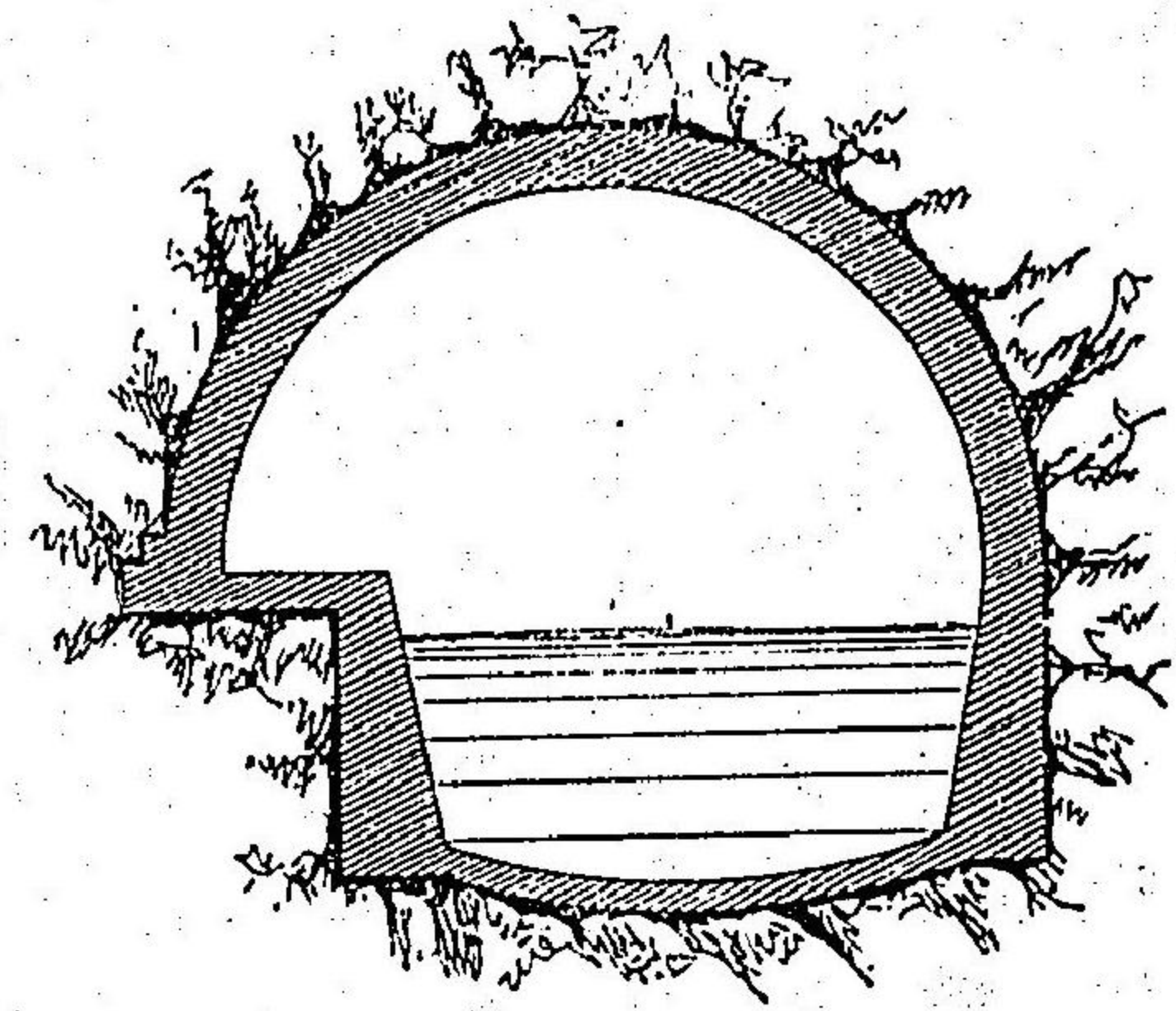
前陳ノ如ク古關越山岩質ハ粘板石及花崗石ヨリ組成シ又南禪寺越山ハ全長粘板石ヲ貫カサルヲ得サルカ故ニ兩隧道全長トモニ煉瓦石等ヲ以テ支保工ヲ施ス見込ニテ起工セサルヲ得ス

抑粘板石質ニ硬軟ノ差アリト雖モ何レモ水脈甚多クシテ隧道工ニハ最モ困難多シ既ニ逢阪山鐵道開鑿工事モ此粘板石ヲ貫クニ當リ出水ノ患ハ幸ニシテ尠ナカリシモ壓力ノ強キニ堪ヘサルカ故煉瓦工ヲ施サ、ルヲ得サリシナリ又江州柳ヶ瀬山隧道モ石質ハ古關越山等ト同質ニシテ悉ク粘板石ナリシカ故岩石ノ壓力ニ堪ヘス地水モ多ク工事上甚困難ナリシ柳ヶ瀬山隧道ノ幅ハ疏水路隧道ト同ク拾七尺ナリ穹窿ノ厚サ平均壹尺五寸ナリシト雖モ岩石ノ壓勢最強ニシテ厚サ貳尺ノ穹窿ヲ要セシ所モアリシ

此度新水路ヲ貫カントスル古關越ハ中ニ花崗石ノ所ニ於テハ其質同性ホモニシテ硬石ナルキハ京都府ノ撰定スル工法ヲ以テ十分トシ得ルト雖モ是亦前以テ假定シ得サルナリ其花崗石ノ山ノ上面ニ顯ル、ハ多クハ石質惡シキヲ以テ到底穹窿工ヲ施サ、ルヲ得サルヘキカ如キト雖モ上面ノ質ノミヲ以テ論シ難ケレハ隧道ヲ貫ク處マテ下ラハ花崗石ノ質硬クシテ同性ナルモノアルモ測リ難シトス粘板石ノ個所ハ上面ノ石質ニ據レハ硬クシテダイナマイトヲ以テ爆發スルニハ多ク費用ヲ要スト雖モ層石ナルカ故ニ解落シ易ク到底穹窿工ヲ施サ、ルヲ得ス隧道工ニハ不適當ナル岩石ナリ加之ニ古關越谷ヲ負ヒ其ノ谷水ハ粘板石ノ脈ヲ追ヒ岩ヲ横縦斷スルカ故ニ此ノ岩石ヲ貫クニ至リ其地水ノ爲メ工事ノ困難甚シカルヘシ

古關越ノ隧道ハ右陳述ノ如ク到底延長百間ノ穹窿工ノミ
ニテ十分トナシ難キニ依リ全長トモニ煉瓦工ヲ施スヲ以
テ目的トセサルヲ得ス尤モ四百間花崗石ノ分ハ薄キ穹窿
工ヲ施スモノトス
南禪寺ノ隧道モ同ク全長トモニ粘板石ナルカ故ニ京都府
ノ見込全長五百三拾五間ノ内貳百間丈煉瓦石ヲ以テ支保
工ヲ施スノミニテハ十分トセス全長トモ穹窿工ヲ施行ス
ヘシ兩隧道トモニ上ニ岩石ノ壓力ヲ支フル穹窿ヲ要スル
ノミナラス水路ノ床及兩岸モ水流ニ抵抗シ得ル爲メ煉瓦
ヲ以テ卷カサルヲ得サルナリ如何トナレハ隧道中ノ水流
速力一秒時間四尺餘ニシテ是レ軟質粘板石兩岸河床ハ穹
窿ヲ支保シ岩石ノ壓力ヲ穹窿ヨリ下ノ岩石ニ傳ル者ナル
カ故ニ其裝置堅固ナル様注意セサルヘカラス故ニ床ハ敷

石ヲ以テシ兩岸ハ側壁ヲ以テ水勢ニ抵抗シ得ル様構造ス
ヘシ
右ノ理由ニ付得ル所ノ隧道橫斷面左ノ如シ



隧道開鑿ノ積面貳百九拾五立方尺
粘土石之分
花崗石之分

穹窿積面四拾三平方尺五七、穹窿積面三拾壹平方尺二五、側壁積面貳拾六平方尺四五、側壁積面貳拾壹平方尺。下穹窿敷石積面五平方尺。下穹窿敷石積面五平方尺。隧道工ノ外京都府ノ計畫ニ對シテ難スル件ハ第一ニ疏水路水流ノ速力ナリ此レ川床ノ水ニ洗ハレ破壊スル患ヲ有スルノミナラス隨テ修繕費ノ増加ヲ要セサルヲ得サルカ故ニ其川床ノ低下ヲ防クニハ捨石ヲ以テシ其工法ノ堅全ヲ欠ク所ヲ補フモノトス。

疏水工事ノ如ク一定水量ヲ保タシムヘキ水路ニ於テハ兩側ニ惡水溝ヲ通セサルヲ得ス是亦此ノ側溝ヲ脱漏シタルハ京都府計畫ノ不十分ナル所ナリ。

前陳ノ通り新水路ハ處々山ノ斜面ヲ追ヒ山麓ヨリ八拾尺モ高キニ居ル所アリ斯ノ如キ個所ニ於テ他ヨリ流入スル

爲メニ流過スル水量其度ヲ過キサル様注意セサレハ流水ハ水路ヨリ溢出シ堤防ヲ破壊シ大水害ヲ醸スコアルヘシ依テ運河ノ爲メニハ側溝ハ避ク可ラサル必用ノ附屬工事ナリ尤モ側溝ハ深サ壹尺床幅壹尺兩岸ノ勾配四拾五度トシ其溝渠ノ兩側ニ設ケサルヲ得ス。

新水路ハ道路等ヲ横斷スルコト屢ナルヲ以テ其個所毎ニ橋梁ヲ架セサルヲ得ス是亦京都府設計ニ漏脱シタル所ナリ。右ノ如ク原設計盡サ、ル所アルカ故ニ其欠ク所ヲ補ヒ工法ヲ完全シ新ニ其工費ヲ概算スルニ別冊概計畫ノ通ニシテ京都府豫算ト一倍餘ノ差ヲ生スルニ至レリ。

概算說明

琵琶湖疏水工費概算ハ其大体ハ京都府ノ計畫ニ基キ隧道工事ノ如キハ其堅固ナラシコトヲ要スル爲メ煉瓦工ヲ設計シ

併セテ側溝道路木橋等不得已附屬工事ノ計算ヲ立タルモ
 ノニシテ新水路即チ琵琶湖大津三保崎ヨリ西京小川頭迄
 開鑿工事ニ係ル費額ノミヲ舉ルモノトス故ニ田地灌漑ヲ
 始メ水車其他製造所等ニ供スヘキ用水路引入口等ノ費用
 及小川堀川筋改良工及堀川東高瀬両川間横運河等ノ費用
 都テ之ヲ除キ單ニ京都府ノ豫算書中ハ唯新水路開鑿工費
 ノミナラス其他小川堀川筋改良工事ニ要スル開門等ノ費
 額モ算セシモノナルカ故ニ該概算ハ京都府ノ豫算書トハ
 符合セサルナリ

隧道工費ハ今年四月初ニ落成セシ柳ヶ瀬山隧道工費ニ基
 キ開掘費中粘板石ノ分ハ一立方尺ニ付拾五錢花崗石ノ分
 貳拾錢ト算セシ者ニシテ其内ダイナマイト導火等都テ附
 屬品ヲ含ミタル者ニ付乃チ一立方尺開掘セシ個所モアリ

ト雖モ如斯處ニハ地水多キカ爲メ工事ニ困難甚シク地水
 及岩石壓勢防禦ノ爲メ巨多ノ工費増額ヲ要セリ又石質硬
 キ所ニ於テハ一立方尺貳拾五錢ヲ費セシテ屢アリシ
 古關越隧道ノ内花崗石ノ分四百間ハ一立方尺開鑿費貳拾
 錢其他九百間ハ一立方尺ニ付拾五錢又南禪寺越隧道開掘
 費ハ都テ一立方尺ニ付拾五錢ト見積リシナリ
 第一隧道ノ内西九百間ハ水下ヨリ東四百間ハ水上ヨリ堀
 鑿スル者ト假定スルルハ大津方ノ工事ハ滯水ノ爲メニ困
 難ヲ加フルト雖モ水路ノ勾配緩ナルカ故ニ汲水器水車等
 ナ以テ之ニ勝フヘキヲ信ス新水路ノ勾配一間ニ付三厘五
 毛四ナルカ故ニ汲水極度ノ高サ直立壹尺四寸ナリ東西工
 事共ニ土砂運送距離平均六百間トスルルハ輕便ナル運送
 鐵道ニ因テ運送スルト見做シ壹坪ノ土砂運送賃貳圓ト積

レリ尤モ岩石壹坪ヲ開掘シ壹坪半ノ岩屑ヲ得ル見込ナリ
 第二隧道東西折半ニシテ每二百六拾七間半ヲ開掘ト平均
 運送距離三百間岩屑壹坪ニ付運送賃壹圓五拾錢ナリ
 隧道ノ横断面ハ第一第二隧道トモニ粘板石ノ分ハ既ニ隧
 道説明中ニ載セシ第一横断面ノ如シ第一隧道花崗石ノ分
 ハ第二横断面ノ如シ
 煉瓦ノ形長七寸五分幅三寸五分厚サ二寸
 モルタルノ混合ハ壹セメント三砂ノ割合
 煉瓦工壹坪ニ付穹窿ノ分壁石夫三人壹人ニ付助工夫三人
四拾五錢
 側壁ノ分壹坪ニ付二人八壁工夫三人四ノ助工夫ヲ要ス
 煉瓦ノ代價百本ニ付壹圓セメント壹樽ニ付六圓砂壹坪
 ニ付三圓

隧道開鑿ニ付最要用ナルハ木匡ノ假支保工是ナリ開鑿工
 ノ進ムニ隨ヒ直ニ穹窿ヲ施スハ工事上自然ノ順序ナリト
 雖モ普通其運ヒニ至リ難キヨリ假ニ木匡ヲ以テ岩石ノ崩
 落ヲ支ヘ岩石ノ壓勢甚キ處ニ於テハ木匡ノ材木ハ悉ク裂
 催シ再用シ得ラレサルヲ屢アリ其材木及職工費トシテ隧
 道長サ壹間ニ付拾五圓ヲ算ス
 川路開鑿工費ヲ算スルニ掘割土砂ノ分ハ壹坪三拾錢岩石
 ノ分ハ壹坪七拾五錢築立ノ分ハ三拾錢堤防ノ如キ高キ築
 立ノ分ハ七拾錢運送費ハ其距離貳拾間ヨリ四百間迄ハ土
 砂岩屑壹坪ニ付三拾七錢五厘ヨリ壹圓五拾錢ヲ積レリ
 道路木橋ハ上面壹坪ニ付四拾圓ニ算ス
 水床ノ捨石ハ一平坪ニ付壹圓即チ豫算中ニ敷石費ト名
 クル者ナリ

其他水路石橋隧道洞門閘門高野川鴨川横堰石等ノ計算
 ハ主ニ京都府豫算ニ基キシ者ナリ
 土砂運送鐵道ハ長サ壹間ニ付金五圓ト算セシ者ニシテ
 第一隧道ノ土砂運送鐵道ノ全長貳千貳百間第二隧道ノ
 分全長七百間ト見積レリ
 設計外ノ附屬工事

右疏水工事ハ其起工ノ目的ヲ達セント欲セハ左ノ附屬工
 事ヲ施サ、ルヲ得ス

- 一 第三工事ノ内山科平地灌溉ノ爲メニ二箇所ニ於テ分
 流スヘキ數千間ノ用水工及其分流口ニ要スル樋門工
- 二 若王寺村ニ於テ百四個ノ水量ヲ分流シ其水力ヲ工業
 ニ供スル爲メ爰ニ要スル用水路及其引入口ノ樋門工
- 三 第六工事ノ内白川太田川流域灌溉ノ爲メニ二箇所又

高野川鴨川間ノ平地ニ灌ク爲メニ要スル壹箇所ノ用
 水路工及其分流口ノ樋門工

四 東高瀬川ヘ水量四拾六個ヲ流送スル支水路工
 五 京都市中ノ飲水ニ供スル爲メ三拾個ヲ御所用水ニ流
 ス分流口及御所用水路ノ改良工

七 堀川ヨリ東高瀬川ヘ通スル數百間ノ横運河工
 右諸工事ニ要スル費額ノ概算ハ京都府ニ於テモ未タ調出
 無之カ故ニ之ヲ除ク
 琵琶湖疏水工事計畫改良

水路ノ勾配

京都府計畫ノ線路ハ勾配甚々急峻ニシテ水流速力一秒時
 間四尺四寸ニ至ル所アリ之レ流水積面ノ平均速力ニシテ
 流水中心ニ於テハ五尺ヨリ五尺五寸ノ速力ヲ有スヘシ斯

ノ如キ流速ニ向テハ非常ニ勞力ヲ費サ、レハ容易ニ曳船
 シ能ハサルナリ加之地質硬石ナラサル處ニ於テハ兩岸川
 床ハ水流ニ抵抗シ得スシテ凹鑿セラレ巨多ノ修繕費ヲ要
 セサルヲ得サルナリ

府ノ計畫ハ西京東高瀬川ニ基キ其流水速力凡ソ四尺ナル
 カ故同速力ヲ新運河ニ用ヒ得ルト見做セシ者ナリト雖
 東高瀬川ハ深壹尺以下ナルカ故ニ其平均速力四尺ヲ中心
 速力ト見做シ得ルノミナラス航通ノ船ハ吃水僅カ四五寸
 ナルカ故到底高瀬川ノ比例ヲ以テ新水路ノ曳船ニ對スル
 抵抗力ヲ能ク量リ得サルモノナリ加之東高瀬川ハ曳船ノ
 爲メニ多分勞力ヲ費スカ故ニ其運送賃他ノ船運ト比較ス
 ルキハ高價ニシテ新水路ノ如キ大工事ノ模範トスヘキ運
 河ニハアラサルナリ勾配ヲ緩ニ得ル所ノ利益ハ唯修繕

費ヲ節儉スルノミナラス京都地ニ於テハ灌溉ノ流域ヲ増
 シ且ツ運河ノ運送賃ヲ減シ得ルヘキヲ信ス

新運河流水速力ハ最速四尺ヨリ急ナル處無カラシムヘシ
 然ルキハ流水積面平均速力ハ大凡三尺ナリ

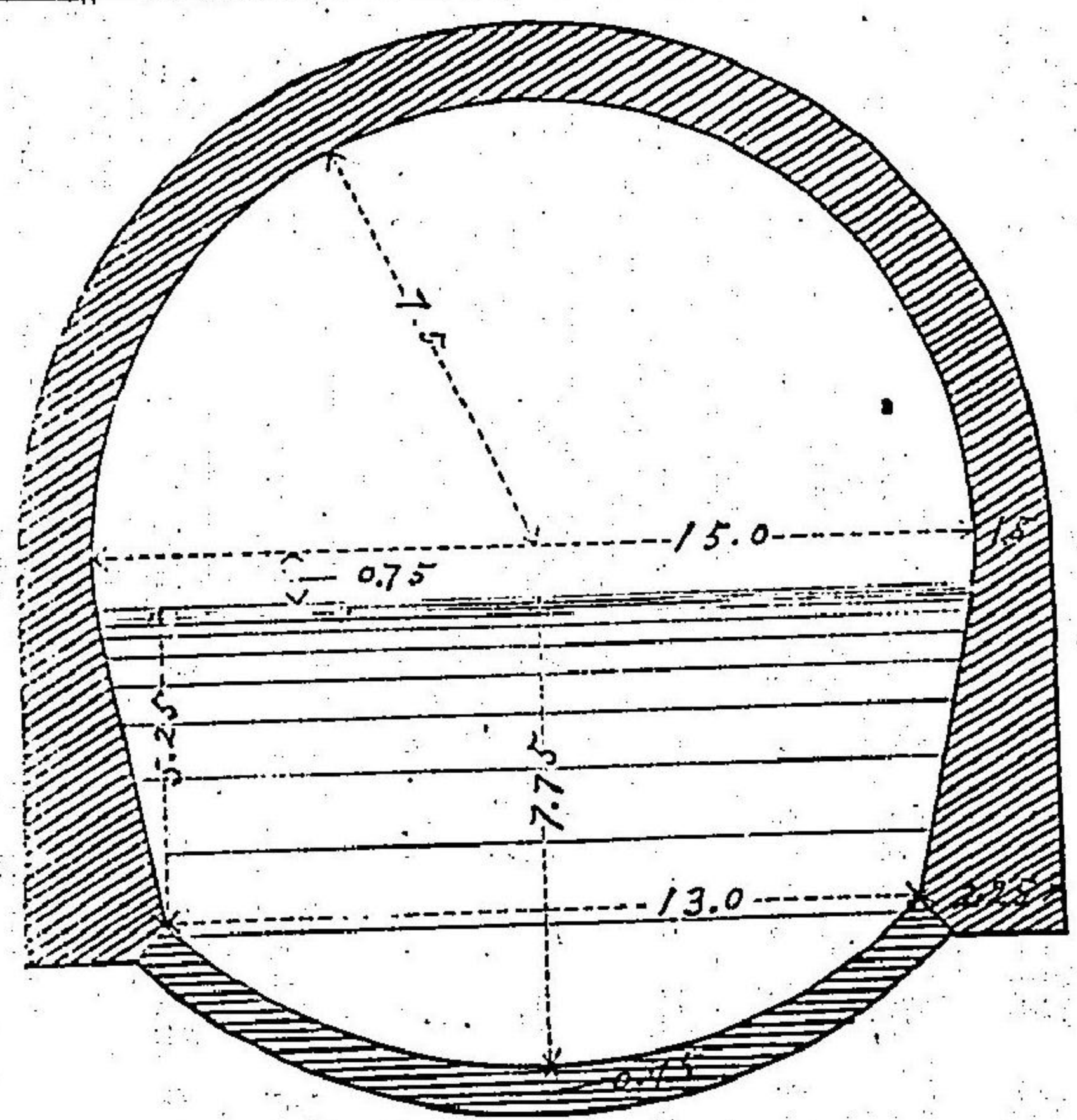
隧道ノ横斷面

府ノ計畫横斷面ハ粘板石等ノ隧道工ニハ到底施行シ難キ
 カ故ニ其欠ク所ノ堅全ヲ補ヒ隧道工費概算ノ基タラシメ
 シ者ナリシカ工費節儉ノ点ニ向テハ尙更ニ左ノ改良ヲ加
 フルヲ得策トス抑隧道工費ハ其開鑿スル積面ニ依ル者ニ
 シテ水路幅ノ最小ハ隧道ヲ通航スル船ノ幅ニ基ク者ナル
 カ故ニ船幅六尺深三尺ト見做シ昇降兩船相并テ通航スル
 ヲ目的トナシ兩岸及船ノ間每距離一尺ヲ要スレハ船路ノ
 幅狭クモ十五尺ヲ必要トス又舟便ノ改良ヲ加ヘ修繕費ヲ

減スル爲メニ流水ノ速力ヲ三尺ニ減少スルニ於テハ三百立方尺ノ水量通過ノ爲メニ百平方尺ノ積面ヲ要ス。府ノ計畫ニ依レハ幅三尺ノ驅道ヲ隧道内ニモ設置スル者トスト雖_レ之ヲ省ク爲メニ驅道ニ從ヒ艇ヲ牽ク慣習ヲ廢シ隧道中ノミハ舟路ニ沿テ常ニ一本ノ綱ヲ備ヘ置キ艇中ニ居ナカラ此綱ニ頼リテ艇ヲ牽キ上ケ得ル方法ヲ設ケハ隧道内ノ驅道ハ廢シ得ルナリ。

右ノ考案ニ基キ得ル所ノ隧道ノ横斷面ハ第一横斷面ノ如クニシテ隧道開鑿ノ積面貳百七拾五平方尺ナリ概算ノ基タル隧道横斷面ト比較スレハ貳拾方平方尺ノ積面ヲ減スルニアリ右ノ改良ヲ加ヘハ第一隧道ノミニシテ大凡四萬圓ノ工費ヲ節儉スルノミナラス支保工ハ堅固ヲ増スカ故ニ修繕費モ減少スル者ナリ。

水路ノ横斷面ハ壹〇〇五平方尺ニシテ三百個ノ水量ヲ流過セシメント欲セハ速力ハ貳九九五トナル兩岸川床煉瓦石ナルヲ斟酌シ左ノ公式ノ内摩擦係數_mチ一〇ト見做シ

$$V = \frac{100R}{m + \sqrt{0.3R}} \sqrt{y}$$


Rハ動水學的平均深(ハイドラウリックミンドゥプス)ニシテ三九六ナルカ故ニ

$$\text{勾配 } y = \left(\frac{m + \sqrt{0.3R}}{100R} \right)^2 = 0.0001114$$

即チ壹間ニ付壹厘三毛五ノ水面落差ナリ

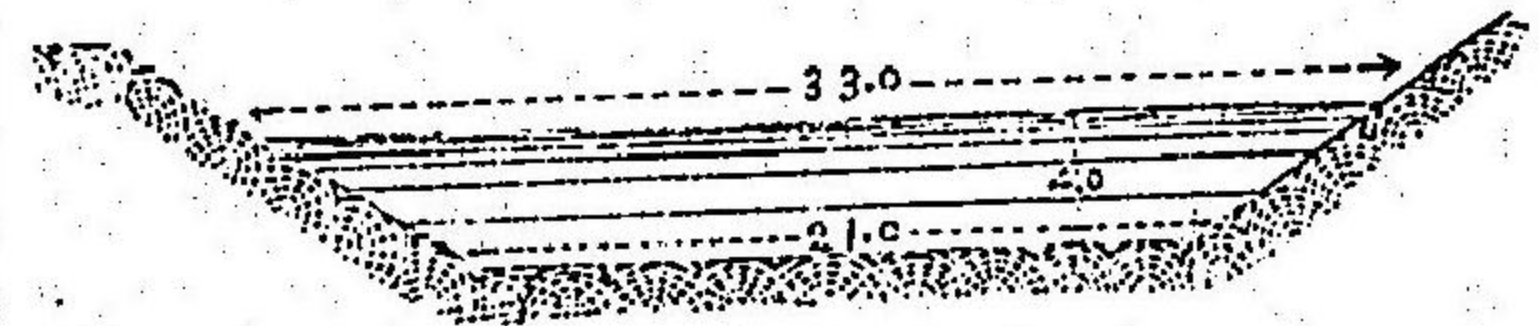
第一隧道ノ位置

第一隧道ハ小關越ノ下ヲ貫クヨリ外良好ノ方向ナキト雖
 且隧道ノ長短ノミニ着目シテ其位置ヲ撰定セシ者ニシテ
 恐クハ技術上困難甚シカルヘシ何トナレハ府ノ計畫ノ線
 路ハ西部ニ於テハ小關谷小川ノ下ニ沿フカ故ニ岩石ヨリ
 出水甚シカルヘケレハナリ第一隧道ノ東門ヲ府ノ計畫ヨ
 リ凡百間西門ヲ凡五拾間北方ニ設ルヲ以テ最良ノ方向ナ
 リト信ス其爲メニ隧道ノ伸長スル丁凡五拾間ナリト雖且
 多少岩石ノ滯水ヲ避ルト隧道中花崗石ノ分ヲ伸長シ從テ
 工事困難ナル粘板石ノ分ヲ減縮スルカ故ニ巨多ノ工費ヲ
 節儉シ得ルヘキト思考ス此点ニ向テ要スル所ノ地質ノ調
 ハ更ニ熟練ナル地質家ニ依リテ調査ヲナサシメ然ル後線
 路ヲ撰定スヘシ

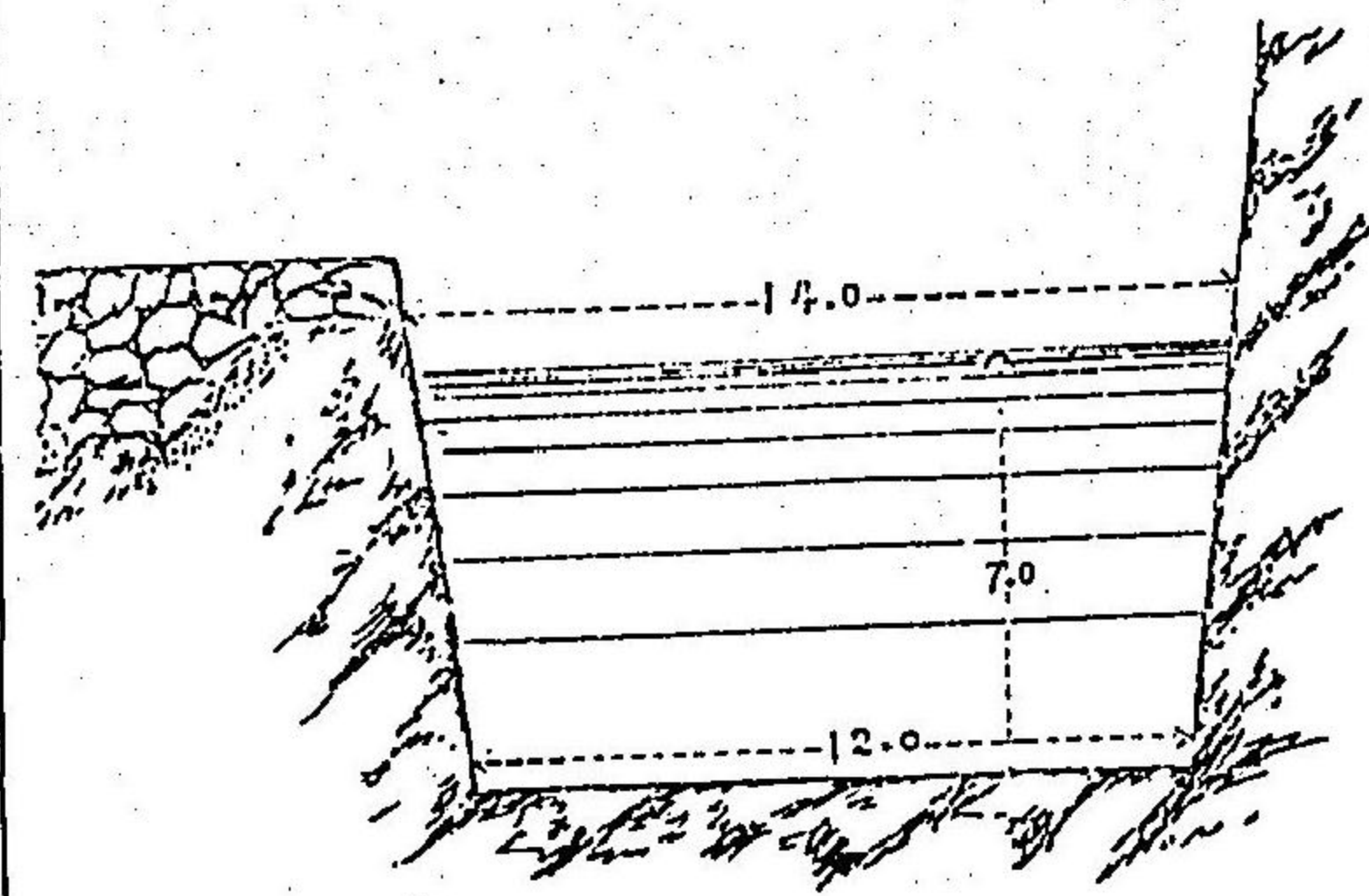
水路ノ断面

平坦又ハ勾配緩ナル所ニハ水路ノ面積不十分ナルヲ以テ
 艇ノ運動ニ抵抗ヲ増加セシメサル様十分ノ截断面ヲ與ル
 ナ要ス其ノ最小面積ハ船ノ截断面ヲ六倍スル通則ニ由リ
 得ル處ノ断面第二横断面ノ如シ

第二横断面



第三横断面



斷面積ハ百八平方尺ニシテ川床土質ナルカ故ニ摩擦係數
IIIチ一、五ト見做シ

三百個ノ水量ヲ流過セシメントスレハ水ノ平均速力貳、
七八尺ナルカ故ニ

勾配 $y \parallel \text{〇〇〇}$ 五チ得ル

三百個ノ内三拾個ヲ分流セシ後ニハ水ノ速力二五ナル
カ故ニ

勾配 $y \parallel \text{〇〇〇}$ 四チ得ル

山ノ斜面石質ナル所ニハ水路ヲ第三横断面ノ如ク開鑿ス
ヘシ山科地ノ如ク貳百八拾個ノ水量ヲ流過セシメントス
レハ速力二九ナルカ故ニ摩擦係數IIIチ壹、五ト見做セバ
勾配 $y \parallel \text{〇〇〇}$ 四チ得ル
工費節儉ノ爲メ運河ノ短部分ヲ狭小ニシ一艇ヲ通スルニ

足ル程ノ廣サトナスモ妨ケ無ケレト一般ニ二艇十分ニ航
通シ得ル様断面ヲ撰フヘシ幅六尺深三尺ノ艇ヲ容易ニ通
シ得ルカ爲メニ深サハ四尺ヨリ小ナラシムヘガラス

第二隧道ノ位置

水路ヲ山科地ヨリ京都地ニ通スルニ府ノ計畫ニ基キ南禪
寺越下ヲ貫ケハ五百三拾五間ノ隧道ヲ要ス日ノ岡下ヲ貫
カント欲セハ開展水路ハ伸長スルト雖ト隧道ハ大ニ減縮
スルナリ兩計畫ノ工費ヲ比較スル左ノ如シ
南禪寺越隧道東門前第三七〇〇点ヨリ南方ヘ周行シテ三
條街道日ノ岡阪ニ至ル全長六百拾間爰ニ長サ三百三拾間
ノ隧道ヲ貫キ京都地ニ出テ南禪寺背ヘ周行スルニ山ノ斜
面ヲ追フ一貳百三拾五間爰ニ又百拾間ノ隧道ヲ貫キ府ノ
計畫水路第四五五〇点ニ達スルニ尙百貳拾間ノ開展水路

ヲ要ス全長千四百拾五間ニシテ其内隧道ノ全長四百四拾
間開展水路九百七拾五間ナリ隧道工費ハ南禪寺越隧道工
費ノ比較ニヨリ凡貳拾萬圓開展水路ノ分ハ第三工事工費
ニ基キ貳萬圓ト見做ハ合計金貳拾貳萬圓ノ工費ヲ要ス之
ニ反シ府ノ計畫水路第三七〇〇点ヨリ第四五五〇点長ハ
百五拾間其内五百三拾五間ハ隧道ニシテ三百拾五間ハ開
展水路ナリ隧道工費貳拾四萬六千圓餘ニシテ三百拾五間
ノ開鑿工費ヲ第三工事ノ比較ニヨリ六千五百圓ト見積レ
ハ合計工費貳拾五萬貳千五百圓トナル依テ日ノ岡坂隧道
ヲ以テ工費ヲ減少シ得ルヲ三萬貳千五百圓ナリ加之日ノ
岡坂ハ石質軟ナルノミナラス岩石中ノ滯水ナキ力故ニ隧
道ヲ容易ニ開鑿シ得ルノ利ヲ有スルナリハ
京都地ノ水路撰定

府ノ計畫水路ハ南禪寺ヨリ北方ニ周行シ二里餘ノ迂路ヲ
以テ漸ク西京北小川頭ニ達ス其目的ハ途中運河ノ水ヲ分
流シテ通行スル土地ノ灌溉用ニ供セントスルニアリ然リ
ト雖モ灌溉用水路ノ爲メニ運河水路モ共ニ斯ク迂回セシ
ムルハ得策ナリト信セサルナリ新水路ノ目的ハ主ニ運送
ノ水路ト用水路ノ二ニアリ其目的ヲ十分ニ達セシト欲セ
ハ水路一度京都地ニ出テ後ニハ之ヲ二分チ一ハ運送ノ
用ニ供シ閘門ヲ以テ直チニ京都平地ニ降り東高瀬川ニ接
スルヲ以テ目的トスヘシ一ハ大凡府ノ計畫線路ニ從セ尙
用水路ノ勾配ヲ可成緩ニシ灌溉用水ノ流域ヲ大ニスルニ
アリ運河ノ線路ハ日ノ岡隧道ヲ出テシ後直ニ三四ノ閘門
ヲ以テ山ノ麓ニ降り平地ニ於テ北方ニ周行シ吉田山南ノ
麓ニ從ヒ鴨川ヲ横斷スルニ水路橋ヲ以テシ東高瀬川ニ接

スルヲ最良方向トス然ルキハ日ノ岡隧道西門ニ於テハ些少ノ水量ヲ分流シ水路漏口蒸發等ヨリ耗失ト船ヲ送ルニ開門ヲ開ク爲メニ起ル消費ノ給水ニ用ヒ用水路ヨリ若王子ニ於テ分流シ其水力ヲ工業ニ供セシ百個餘ノ水量ヲ更ニ運河ニ流入セシメ得ルヘシ用水路ノ分ハ屈曲ヲ厭ハス地形ニ隨ヒ水路ヲ開掘シ且又水路ノ幅ヲ減シ得ルノミナラス日ノ岡坂隧道ヨリ南禪寺ニ至ル間ノ長百拾間ノ隧道モ用水路ノミナラス開展水路ヲ以テ代テシメ得ルカ爲メニ多分ノ工費ヲ節儉シ得ルナリ故ニ日ノ岡坂以下ハ水路ヲ運送用水兩路ニ分ツト雖巨多ノ増額ハ要セサルヘシト思考ス

溜池

水路ノ谷ヲ横斷スル所ニ於テ築立ノ高サヲ減スル爲メニ

谷ヲ直線ニ横斷セシテ谷上ニ屈曲スルヲ屢アリ斯ノ如キ谷ノ多分ノ土砂ヲ洗出スル恐ナキ所ニ於テハ直線ニ横斷シ谷下ノ方ヘ向キ堤防ヲ築キ谷ヲ溜池ニ化シ得ルヘシ然ルキハ其ノ溜池ハ水流ノ節制池トナリ水路ノ爲メニ益スルト多キノミナラス工費モ減少シ得ルヘシ

水量測定ノ方法

水路ノ水源ニ於テ一定水量ヲ分流スルハ水下安全ノ爲メニ最モ必要ナル件ナルカ故ニ其量水ノ方法ハ注意ヲ要スル点ナリ府ノ計畫ノ堰ヲ廢シテ水閘ノ流口ヲ擴搾スル方法ヲ設クヘシ

琵琶湖疏水工事工費概算

一金百貳拾五万六千七百三拾五圓 工事費額

滋賀縣下大津三保崎ヨリ京都府下愛宕郡小山山村ニ至ル運河ノ距離九千五百間

此譯

第一工事 天津三保崎ヨリ第一隧道東門ニ至ル

金壹万八千九百九拾圓 土工費

金三千五百七拾圓 木橋費

金七千五百六拾圓 開門費

金貳千六百圓 石垣費

金七百三拾圓 敷石費

小計金三萬三千四百五拾圓

第二工事 第一隧道

金四拾壹萬貳千七百七拾五圓 土工費

金拾九萬貳千八百五拾圓 煉瓦工費

金壹萬九千五百圓 材木工費

金千四百圓 隧道東西兩門費

小計金六拾貳萬六千五百貳拾五圓

第三工事 第一隧道西門ヨリ第二隧道東門ニ至ル

金貳萬八千三百五拾圓 土工費

金三千三百六拾圓 木橋費

金貳千貳百四拾五圓 水道石橋費

金六百三拾圓 暗溝費

金九千百四拾圓 敷石費

金四千九百五拾圓 石垣費

小計金四萬八千六百七拾五圓

第四工事 第二隧道

金拾五萬貳千五圓 土工費

金八萬四千六百四拾圓 煉瓦工費

金千四百圓 隧道兩門費

金八千貳拾五圓	材木工費
小計金貳拾四萬六千七拾圓	
第五工事 第二隧道西門ヨリ鹿ヶ谷村ニ至ル	
金五千八百六拾圓	土工費
金八百四拾圓	木橋費
金貳千圓	石垣費
金四百八拾圓	暗溝費
金貳千拾圓	敷石費
小計金壹萬千九拾圓	
第六工事 鹿ヶ谷村ヨリ小山村小川頭ニ至ル	
金九千七百貳拾五圓	土工費
金壹萬千七百六拾圓	木橋費
金七千百六拾圓	水道石橋費

金五千八百三拾圓	暗溝及算費
金千貳百圓	高野鴨而川横堰費
金壹萬五千六百五拾圓	敷石費
小計金五萬千三百貳拾五圓	
金壹萬五千圓	土地買上費
金拾五萬圓	工事準備費
金五萬圓	工事機械費
金壹萬四千五百圓	鐵軌 <small>土砂運送用</small> 費
金壹萬圓	土砂運送車費
小計金貳拾三萬九千五百圓	
明治十七年六月	土木局
同月七日内務省少書記官南一郎平來テ疏水線路ヲ巡檢ス	
上下京聯合區會	

番外三百六拾六號

上下京兩區役所

琵琶湖水京都ニ疏通事件其筋へ及稟議候處今般指令ノ旨モ有之直ニ聯合區會ノ評決ヲ要シ候ニ付不日議案下附可致候條至急開會ノ準備可取計此旨相達候事

明治十七年七月九日

京都府知事北垣國道

同月十日上局中ニ疏水係ヲ置キ一等屬森本後洞二等屬板原直吉三等屬多田郁夫全片山正中四等屬野村永保五等屬嶋田道生及ヒ准判任御用係田邊朔郎全細田信道准等外御用係山田忠三ニ疏水係兼務ヲ命ス而シテ特ニ上京區長杉浦利貞下京區長竹村藤兵衛ニ命シテ本務ノ傍ヲ疏水事務ヲ取扱ハシム

同月十八日上下兩京區長ハ京都中學講堂ニ於テ上下京聯合區會ヲ開ク議會ハ莊林維英ヲ議長ニ中村榮助ヲ副議長

ニ撰擧ス

議案

- 第一項 琵琶湖疏通計畫ハ内務省土木局調製ノ設計書ニ據ラサルヲ得ス隨テ工費増額金六拾五萬六千七百三拾五圓ヲ要ス依テ之ヲ上下兩京區内ニ於テ負擔シ年々支出ノ金額等ハ毎年度議定スルモノトス
- 第二項 將來修繕ハ上下兩京區内ニ於テ負擔シ年々支出ノ金額等毎年度議定スルモノトス
- 第三項 工事ハ着手ノ月ヨリ七十二ヶ月即チ六ケ年ヲ期シ成功セシムルモノトス

參考書

琵琶湖疏通工費

内務省
本府

豫算増減比較表

員數ノ、印ハ千位
ノ印ハ圓位トス

費目	内務省豫算	内務ノ方増	理由
掘削及堤防堰費	六四、一三五、〇〇〇 六一、五九四、一五〇	二、五三〇、八五〇	内務省ニ於テハ流水速力ノ損壞ニヨリ川幅ヲ廣クシテ見込ヲ以テ掘削面積增加ノ積リヲナスニヨリ増ス
隧道開鑿費	九四七、〇九五、〇〇〇 三五五、三三五、八二〇	五九一、七五九、一八〇	本省ニ於テハ鑿瓦ヲ卷クノ積チナスニヨリ増ス
閘門建築費	七、五六〇、〇〇〇 四四、二二五、九二〇	〇	本府ニ於テハ小川頭ヨリ堀川筋へ四箇所ノ閘門ヲ設クルノ見込ナルニヨリ増ス
石垣築造費	九、五五〇、〇〇〇 一一、七三七、〇〇〇	〇	本府ニ於テハ閘門ノ敷石ニ此石垣費ニ紐入レアルニヨリ増ス
橋梁及暗溝費	三、五八七、五〇〇 一〇、一六七、四六〇	二、五、七〇七、五五〇	内務省ニ於テハ水拔暗溝ノ敷チ増スノ見込ナルニヨリ増ス
土地買上費	一五、〇〇〇、〇〇〇 一六、九五八、二〇五	〇	本府ニ於テハ土地ヲ十分ニ見込ミタルニヨリ増ス
敷石費	二七、五三〇、〇〇〇	二七、五三〇、〇〇〇	内務省ニ於テハ土砂流流ノ患ナカラシムル爲メ川床ニ敷石ヲナスノ積リヲ以テ増ス

準備金	合計
一五〇、〇〇〇、〇〇〇 九九、九九三、四四五	一、二五六七、三五〇 一、二五六七、三五〇
五〇、〇〇六、五五五	六、九七三、三四、一二五 七〇、七九八、二二五

差引金六拾五萬六千七百三拾五圓也 内務省ノ方増

参考書

内務省設計書 本書費目ト最前議案ニ掲ケタル本府費目ト込費目モ亦異ナルヲ以テ下段ニ本府費目ヲ掲ケテ参照ノ便トナス

琵琶湖疏水工事費概算

一金百貳拾五萬六千七百三拾五圓 滋賀縣下大津三保崎ヨリ京都距離九千五百間 府下愛宕郡小山村ニ至ル運河

此譯

第一工事 大津三保崎ヨリ第一隧道東門ニ至ル 土工費 掘削及堤防堰費 金壹萬八千九百九拾圓

金三千五百七拾圓 木橋 費橋梁及暗溝費

金七千五百六拾圓 開門 費開門建築費

金貳千六百圓 石垣 費石垣築造費

金七百三拾圓 敷石 費

小計金三萬三千四百五拾圓

第二工事

金四拾壹萬貳千七百七拾五圓 土工 費

金拾九萬貳千八百五拾圓 煉瓦工 費

金壹萬九千五百圓 材木工 費

金千四百圓 隧道東西兩門 費

小計金六拾貳萬六千五百貳拾五圓

第三工事 第一隧道西門ヨリ第二隧道東門ニ至ル

金貳萬八千三百五拾圓 土工 費掘削及堤防費

金三千三百六拾圓 木橋 費橋梁及暗溝費

金貳千貳百四拾五圓 水道石橋 費全上

金六百三拾圓 暗溝 費全上

金九千百四拾圓 敷石 費

金四千九百五拾圓 石垣 費石垣築造費

小計金四萬八千六百七拾五圓

第四工事 第二隧道

金拾五萬貳千五圓 土工 費

金八萬四千六百四拾圓 煉瓦工 費

金千四百圓 隧道兩門 費

金八千貳拾五圓 材木工 費

小計金貳拾四萬六千七拾圓

第五工事 第二隧道西門ヨリ鹿ヶ谷村ニ至ル

金五千八百六拾圓	土工	費	隧道及
金八百四拾圓	木橋	費	橋梁及
金貳千圓	石垣	費	石垣築
金四百八拾圓	暗溝	費	橋梁及
金貳千拾圓	敷石	費	暗溝費
小計金壹萬千九拾圓			
第六工事 鹿ヶ谷村ヨリ小山村小川頭ニ至ル			
金九千七百貳拾五圓	土木	費	掘削及
金壹萬千七百六拾圓	木橋	費	橋梁及
金七千百六拾圓	水道	費	石橋費全上
金五千八百三拾圓	暗溝	及	寬費全上
金千貳百圓	高野鴨	兩川	横堰費
金壹萬五千六百五拾圓	敷石	費	

小計金五萬千三百貳拾五圓	土地	買上費
金壹萬五千圓	工事	準備費
金拾五萬圓	工事	機械費
金五萬圓		隧道開
金壹萬四千五百圓	土砂	運送用鐵軌費
金壹萬圓	土砂	運送車費
小計金貳拾三萬九千五百圓		

参考書
 此工事竣工ノ後得ル所ノ利益枚舉ニ違アラサルヲ以テ最
 前會議ノ節ニハ其ノ最モ著シキモノ即チ機械運轉ニ水力
 ナ用ヒ石炭ニ換フルノ利益拾貳萬圓舊來三條街道及ヒ氣
 車便ニ依リ京津間ヲ往來セル物貨ヲ新運河ニ依テ運送ス
 ルノ利益八萬圓宇治外三郡中田畑灌溉ノ爲メ實收増穫ノ

利益九萬七千圓都合貳拾九萬七千圓ヲ以テ參考書ニ掲ケ
 タリキ爾來上州桐生地方ニ於テ擦糸ニ水車ヲ用フルノ利
 益ヲ算スルニ概略左ニ掲クルカ如シ尤モ右ハ推算法ヨリ
 得タル數ナレハ實際或ハ如此多カラサルモ知ル可ラス因
 テ姑ク其半額ヲ利益ト見ルモ尙拾五萬圓ノ多キニ騰ル可
 シ故ニ今西陣ニ水利ヲ與ヘ彼ノ如ク水車ニヨラシメハ此
 金額ハ即チ西陣ノ利益トナルヘシ
 金三拾萬圓也

是ハ上州桐生地方擦糸水車凡ソ五百個一個一日擦上高平
 均壹貫目一ケ年中三百日就業ト見テ三百貫目トナル水車
 五百個ノ出來高一ケ年即チ拾五萬貫目ナリ而シテ擦糸賃
 ハ平均壹貫目ニ付金壹圓ト云フ然ラハ一ケ年ノ賃金總額
 ハ拾五萬圓ナリ京都ニ在テハ一把三百ノ擦賃壹圓餘一把六拾

錢位ノモノモアリ其ナレハ壹貫目ニ付先三圓トシ算スレハ右
 時々高下アレハ平均
 拾五萬貫目ノ擦賃ハ四拾五萬圓トナリ桐生ノ方減少スル
 一本文ノ如シ則チ水車ノ利益ト云可シ

諮問案

今回議定セシ琵琶湖疏通工費増額金六拾五萬六千七百三
 拾五圓ハ實際徵收ヲ要スルニ當テハ之ヲ地價戸數營業ノ
 三種ニ賦課スヘキカ且ツ其徵收ハ工事着手ノ次年度ヨリ
 スルカ豫メ意見ヲ問フ

上下京聯合
區會

上下京聯合區會

明治十七年七月十八日中學校內講堂ニ於テ開會

出席議員五拾四名

議員姓名ハ前會ト同一ナルヲ以テ畧ス

欠席議員八名

北垣府知事ハ本會々場ニ臨テ曰昨年各議員ト此場ニ會シ

テヨリ既ニ九ヶ月ノ久シキヲ經タリ然ルニ此間タルヤ互ニ疏水工事ノコニ付テハ寸時モ之ヲ心ニ放タス今年ニ至ラハ必允許ヲ蒙リ忻然トシテ本會ニ報告シ各員ト俱ニ工事着手ノ順序ヲ謀ラント豫期セシニ思キヤ茲ニ復工費増額ノ議案ヲ提ケテ再ヒ各員ヲ勞セシメントハ是レ全ク國道カ思慮淺ク識見足ラサルヨリ致スモノナレハ亦奈何トモスヘカラス只之ヲ謝スルノ外ナキナリ抑今回ノ議案ハ昨年ノ決議額ヨリ増スト一倍即チ百貳拾五萬圓ノ費額トナレリ去リナカラ是レ亦大ニ故アリ國道曩ニ此伺書ヲ携ヘ其ノ筋へ稟請スルヤ其ノ筋ニ於テハ内閣ノ議ヲ開カレ其ノ結局京都將來維持ノ方按ハ此工事ヲ措テ他ニ之アルコトナク京都ヲシテ繁榮隆盛ナラシメンニハ必此工事ヲ起サシメサルヘカラスト遂ニ之ヲ奏上セラレタリヤニ承ル

右決定ノ後其ノ計畫ノ如何ヲ再議セラレタルニ其ノ主務タル内務卿ハ益京都將來維持ノ爲メ此工事ヲ興サハル可カラスト確信セラレ又其ノ之ヲ興ス以上ハ前途毫モ蹉跌ナキヲ保タサレハ中道ニシテ如何ナル困難ヲ生スルヤモ料リ難シ如此大工事ヲ起スニ當テ聊タリモ顧慮スル所アルハ未タ完全ノ策ト謂フヘカラス然ルニ専門工師ノ調査ニ因レハ地質ノ如キハ量定尤モ難ク疎忽ニ附スヘカラス運河ノ速力モ亦較急ニ過クト故ニ此等ノ困難ヲ避ケ此等ノ豫防ヲナサントスレハ京都府ノ經畫即チ六拾萬圓ハ未タ以テ十分ノ見込トナス可カラズ十分ノ見込ヲナサントセハ六拾五萬餘圓ヲ増加セサルヲ得ス然ルニ此増加ハ京都聯合區會ニ於テ議決セサレハ或ハ工事半途ニシテ中止スルノ恐アリ斯ル大事業ヲ計ルニ如此懸念アル以上ハ決

百五十六
シテ工事ニ着手セシムヘカラス必起ス可キノ事業ハ必遂ク可キノ計畫ナカルヘカラスト遠ク此工事ノ爲メニ前途ヲ慮テ論斷セラレ閣議終ニ茲ニ一決シ今般ノ指令ヲ蒙リタル次第ナリ斯ク内閣ニ於テ深ク評議ヲ盡サレタル趣ヲ承レハ實ニ國道カ當時費用ノ節約ヲ主旨トシ却テ姑息ノ情ニ誤ラレ不充分ナル計畫ヲ以テ上ハ大政府ニ呈シ下ハ議會ニ附シタルハ洵ニ千悔モ及ハサルナリ然リト雖モ千悔萬懼此ニ至テ起工ノ精神ハ益銳トク愈奮テ此大任ヲ了セント欲ス何トナレハ此工事ニ由テ興ル所ノ公益ハ京都將來ノ盛隆ヲ致ス原素タルヘキハ益信シテ疑ハサレハナリ看ヨ嚮キニ諮問會之ヲ信認シ聯合區會之ヲ議定シ大政府之ヲ是認シ内外紳士之ヲ贊稱セリ此ノ如ク上下内外之ヲ確信セシモノナレハ之ヲ信セスシテ復何ヲカ信センヤ

是起工ノ精神ハ益銳トク愈奮テ此大任ヲ了セント誓ヒシ所以ナリ素ヨリ六拾五萬圓ノ増費ハ敢テ小額ニ非スト雖モ京都將來維持ノ方按之ヲ措テ他ニ是ナシトセハ復驚クニ足ラス又千年ノ舊都此一工事ニ由テ盛衰興廢ニ係ルトセハ百貳拾萬圓ノ費額亦高價ニモ非ル可シ況ンヤ其ノ徵收支出ノ点ニ至テ之ヲ一時ニ收支スルモノニアラサルオヤ且幸ニ地質堅牢緻密ニシテ悉ク煉瓦及敷石等ヲ用ルニ及ハサルカ如キアラハ幾分ノ工費ヲ減スルモ亦知ル可ラス然リト雖モ個ハ是レ未必ノ事ニシテ決シテ豫期スヘキモノニ非ス故ニ之ヲ遂ケント欲セハ必百貳拾五萬圓ノ費額ヲ投スルト決心セサル可ラス必起ス可キノ事業ハ必遂クヘキノ計畫ナカル可ラスト内務卿ノ一語ハ此疏水工事ノ格言ナリ各員宜シク思慮熟考セラレ大政府財政多端

ノ際チモ顧ミス巨額ノ金員ヲ補助セントセラル、ノ厚キ
 ナ思ヒ又將來一府ノ幸福ニ止ラス此京都繁榮ノ維持ハ延
 ヒテ全國ノ幸福ニ係ルヘキヲ慮リ能ク審議アルヘシ大政
 府ノ審議ヲ盡サレ内外紳士ノ稱賛シテ止マサルモノハ抑
 何ノ結果ソヤ即チ京都府民ノ熱心ノ致ス所其ノ精神ノ貫
 徹スル所ナリ各員爾來盡力ノ奏功ハ即チ本會ノ一場ニア
 リ一府ノ爲メ全國ノ爲メ又ハ各自子孫ノ爲メ詳悉審議其
 ノ得失ヲ決スヘシ
 議長莊林維英ハ本會ノ第一次會ヲ開キ書記ヲシテ朗讀セ
 シム續テ議案ノ質議アリシニ五拾四番木村與三郎ハ本日
 ハ議案ヲ領シ直ニ質問セシ故或ハ岐路ニ涉ラントチ恐ル
 熟考ノ上明日詳細質問セントノ建議ニ滿場同意セシニ因
 リ議長ハ本日ノ會ヲ閉ツ

同月十九日午前九時開會出席議員五拾壹名

議長莊林維英ハ前會ノ議ヲ續キシニ議案ノ質問盡タルヲ
 以テ本按總休ニ就キ意見アラハ提出スヘキ旨ヲ陳告ス
 五拾九番東枝吉兵衛曰本案大休ニ就テ要スル所ノ主眼ハ
 増費金六拾五萬餘圓ヲ區民ニ負擔セシムルニ在リテ工事
 ノ廢起ハ昨年既ニ論結シタレハ最早喋々ノ辨ヲ要セス故
 ニ此六拾五萬餘圓ヲ區民ノ頭上ニ割當ルハ實ニ輕々ナラ
 サル問題ナリ假リニ一組ニ壹萬圓平均一組ヲ貳拾五箇町
 ト見做セハ一箇町ノ負擔額ハ即チ四百圓是實ニ賦課スル
 ニ忍ヒサル巨額ナリ此忍ヒサルノ賦課額ヲ議定スルハ我
 輩代議士ノ苦慮ニ耐ヘサル所ナレ目下ノ困難ハ反テ將
 來ノ繁盛ヲ購フモノトセハ復耐ヘサルニモ非ル可シ一言
 此意ヲ述テ本案ヲ賛成ス

拾番中村榮助曰本案ニ就テハ五拾九番カ述ル如ク目下此巨額ノ金ヲ區民ニ負擔セシムルトハ深ク苦慮スル所ナレ
 起工上ニ對シテ一般ノ景況ヲ觀察スルキハ冀望ハ益汎クナリ厚クナリ確クナリ其ノ志ハ愈切ナリ最早今日ニ至テハ一日モ早ク工事ニ着手セサル可カラサル氣運ニ迫レリ固ヨリ之ヲ議スルノ當初一起不願ノ精神ヲ以テ業ニ已ニ決定シタルニ非スヤ彼ノ忽チニ進ミ忽チニ退カ如キハ本員ノ取ラサル所ナリ況ンヤ内外人ノ共ニ美舉トシテ稱贊スルノ事業ナルニ於テオヤ且ツ京都ノ繁榮ヲ維持シテ遠大ノ利益ヲ圖ルハ此ノ事業ヲ措テ決シテ他ニ有ラサルヲ信ス是レ六拾五萬餘圓ノ増額議案ニ對シ賛成スル所以ナリ
 三拾八番富田半兵衛曰原案ヲ賛成スルトハ甚々易シ然レ

由故ナクシテ之ヲ賛成スルニ非ス抑古來京都隆替ノ由テ來ル所ヲ考フルニ桓武帝御遷都以來種々ノ變更アリト雖
 商工業ハ概シテ世々繁盛ヲ極メ實ニ帝都ノ名目ヲ表ハセシニ
 今上帝御東遷ノ後ハ衰頽日ニ迫リ殆ト危急ノ秋ニ立到レリ荏苒坐シテ死ヲ俟ンヨリ寧口奮テ回復ノ策ヲ求メサル可カラス今増費六拾五萬圓ハ實ニ驚ク可キ多額ノ金ナレトモ此際非常ノ大土工即チ琵琶湖疏通ノ事業ヲ起シ以テ將來維持ノ方法ヲ設クルハ正ニ當然ノ良策ナリトス或ハ聞ク政治家ノ中ニモ大ニ此舉ヲ贊稱セル人アリト誠ニ疏水ノ成否ハ京都ノ存廢ニ關係スト言フモ敢テ過言ニ非サルナリ然ラハ六拾五萬圓ノ増費モ徵收方法其ノ宜ヲ得ハ何ソ驚クニ足ラン速ニ起工ノ特許ヲ得テ將來維持ノ基礎ヲ確立セントテ希望ス

五拾四番木村與三郎曰本員ハ故ラニ理由ヲ述ヘテ賛成ノ語ヲ粧ハス何トナレハ假令向キニ六拾萬圓ニテ起工ノ特許ヲ得ルモ若シ工事着手ノ半途ニシテ圖ラサルノ難事ニ遭遇シ幾拾萬圓ノ増費ヲ要スルモ確乎不撓ノ精神ヲ以テ一旦起工ヲ決議シタル以上ハ何ソ事新ラシク喋々ノ辨ヲ要センヤ万々一之ヲ否決セントスルナレハ先ツ向キノ決議モ亦取消サ、ルヲ得ス又六拾五萬圓ハ多額ナリト雖モ民力ニ堪ヘサル程ノトハ決シテアルトナシ諸君モ記憶セラル、ナラン先年伏見稻荷ノ正遷宮ノ如キ某組ニ於テハ數千圓ノ大金ヲ一時ニ浪費セシト此ノ如キ事態ヲ以テ觀レハ未タ民力ニ堪ヘサルニモ非サルヘシ本員ハ只會議法ニ依リ原案賛成ト一言スルノミ

三拾九番大澤善助曰譬ヘハ六拾萬圓ヲ以テ起工スルト百

貳拾五萬圓ヲ以テ起工スルト其ノ精神ニ至テハ實ニ霄壤ノ差アリ向キノ決議六拾萬圓ハ間接ノ負擔ニシテ人民ノ感覺モ甚疎ナリ故ニ決議スルトモ從テ容易ナリト雖モ今回ノ増費六拾五萬圓ハ直接ノ負擔ニシテ早晚之ヲ人民ノ膏血ヨリ絞出セサルヲ得サルモノナレハ決議ノ難易復同日ノ談ニ非ルナリ然レモ一度滿場ノ輿論ヲ占メ起工ヲ決議スル以上ハ天ニ誓テ其ノ精神ヲ貫徹シ飽迄之ヲ成就セシメサル可ラス且ツ此度ノ工事ニ就テ京都人民ノ汚名ヲ回復スルノ好機アリ是迄他縣人カ京都人民ヲ因循ナリ姑息ナリト冷評セシモ今幸ニシテ此増費ヲ可決シ當初ノ目的ヲ貫徹セシナハ一ハ皮想ノ世人ヲシテ我京都人ノ活潑心ヲ知ラシメ又隨テ指笑ノ冷評ヲモ消滅シ反テ大ニ尊崇心ヲ發セシムルニ至ルヘシ誠ニ此工事ハ實ニ京都人民ノ汚

名ヲ回復スルノ一大機會ナリ若シ此場合ニ於テ本案ヲ否決シ工事ヲ中止スルカ如キアラハ世人ハ益我府民ヲ指笑シ遂ニハ交際ヲモ絶ツニ至ラン六拾五萬圓ハ巨額ナリト雖モ府民ノ面目ヲ一洗スルノ資本ト見做セハ敢テ負擔ニ堪ヘ難シトセス矧ヤ目前ニ大利益ノ生スルニ於テオヤ故ニ本員ハ飽迄原案ヲ賛成ス速ニ第二次會ヲ開カレタシ一番河野通經九番清水吉右衛門モ本案ヲ賛成ス議長ハ是ニ於テ本案ノ爲メ第二次會ヲ開クヘシトスルモノヲ起立セシメシニ全員起立第二次會ヲ開クニ決ス議長ハ第二次會ヲ開キシニ議案第三項(工事ハ着手ノ月ヨリ七十二箇月即チ六箇年ヲ期シ成功セシムルモノトス)ニ至リ五十六番荒木重兵衛ハ工事着手ノ半途ニシテ如何ナル難事ヲ生スルヤモ計リ難キヲ恐レ(但シ工事ノ都合ニ依

リ伸縮スルヲ得)トノ但書ヲ加フルノ第一動議ヲ發シ又五拾四番木村與三郎ハ(但年ノ景況ニヨリ伸縮スルヲアルヘシ)ト但書ヲ加ント第二動議ヲ發ス其ノ他但書ノ文字ヲ修正スルモノ或ハ原案ヲ賛成スル者等議論錯出シ第一動議第二動議ハ賛成者ヲ得テ問題トナレモ可否ヲ決スルニ至テ起立者少數ナルヲ以テ否決シ原案賛成者三拾壹名ニシテ其ノ多數ナルヲ以テ遂ニ原案ニ可決ス議長ハ全會ノ同意ヲ以テ引續キ第三次會ヲ開キシニ五拾四番再ヒ但書ヲ加フルノ説ヲ提出シ九番及五拾六番ノ賛成ヲ得テ遂ニ問題トナレモ起立者拾四名少數ニシテ否決シ原案賛成者過半数ナルヲ以テ第三次會全ク原案ノ通り確定シ左ノ具申書ヲ呈ス
今般本會へ發附相成候別紙議案總テ原案ノ通全會ノ意

見ニヨリ決議致候條仍テ及具申候也

明治十七年七月十九日 上下京聯合區會議長莊林維英

上京區長杉浦利貞殿

下京區長竹村藤兵衛殿

同月二十日上下京兩區長ハ左ノ上申書ヲ呈ス

今般御下附相成候琵琶湖水疏通事件ニ係ル工費増額議案上下京聯合區會へ附議仕候處總テ原案ノ通り致評定候趣別紙ノ通り議長ヨリ申出候條最前ノ評決ト併テ可然御處分被成下度此段及上申候也

明治十七年七月廿日 上京區長杉浦利貞

下京區長竹村藤兵衛

京都府知事北垣國道殿

同月二十一日議長莊林維英ハ前キニ疏水工費増費額議案

ト與ニ下附セラレタル工費徵收方法ノ諮問會ヲ開ク

諮問會 案ハ前ニ記セシ
ヲ以テ之ヲ畧ス

議長莊林維英ハ假リニ會議規則ヲ用ヒ第一次會ヲ開キ諮問案ニ就キ疑義ヲ質問セシメ續テ第二次會ヲ開キ之ヲ審案セシメシニ五拾貳番井上重三郎三拾九番東枝吉兵衛意見ヲ提出シタレト賛成者ナキヲ以テ自然消滅シ三拾八番富田半兵衛ノ一年乃至一年半向フノ下ヲ議定スルハ甚々難事ナリ因テ毎年度ニ徵收方法ヲ議定スルノ說ニ起立者十名三拾九番大澤善助ノ委員ヲ撰ミ答議書ヲ作ルノ說ニ起立者七名六番安田善兵衛ノ徵收法ハ戸數割ト定メ上下京各組へ割當各組適宜ニ徵收セシメントノ說ニ起立者貳名孰レモ少數ナルヲ以テ否決シ原案ヲ可トスル者起立者貳拾貳名過半數ニ因リ可決ス續テ議長ハ全會過半數ノ同

意ニ依リ別ニ第三次會ヲ開カスシテ此儘確定スル旨ヲ陳告シ左ノ答議書ヲ呈ス

今般御諮問相成候琵琶湖疏水工費増額金六拾五萬六千七百三拾五圓ハ御諮問ノ通地價戸數營業ノ三種ニ賦課シ工事着手ノ次年度ヨリ徵收相成度全會ノ意見ニヨリ答議仕候也

明治十七年七月廿一日上下京聯合區會議長莊林維英

上京區長杉浦利貞殿

下京區長竹村藤兵衛殿

同月廿五日上下京兩區長ハ左ノ上申書ヲ呈ス
今般上下京聯合區會ニ於テ議定致シタル琵琶湖水疏通工費増額金賦課及ヒ徵收方ハ御諮問ニ對シ同會議長ヨリ別紙寫ノ通り答書差出候ニ付此段及上申候也

明治十七年七月廿五日

上京區長杉浦利貞

下京區長竹村藤兵衛

京都府知事北垣國道殿

同月十八日府知事ハ既ニ疏水工費増額議案ノ議事結了セシテ以テ左ノ上申書ヲ内務卿ニ呈ス

琵琶湖疏通工費増額金聯合區會議決ノ儀ニ付上申
琵琶湖疏通工事ノ義本年六月廿七日付御指令ノ旨ニヨリ上下兩京區長ヲシテ去月十八日ヨリ聯合區會ヲ開カシメ工費増額金六拾五萬六千七百餘圓并ニ將來修繕費等別紙甲印議案ヲ以テ附議セシメ候處始終無異議翌十九日全會一致原案ノ通可決致候依テ更ニ乙印ノ通徵收年度及ヒ賦課ノ方法等諮問案ヲ發シ審議セシメ候末諮問ノ通リヲ可トシ答議致候右會議ノ景況議論等ハ別紙議事略記ノ通有

之只管京都ノ衰頹ヲ憂ヘ之ヲ挽回スルノ策此工事ヲ捐テ
他ニ良策ナキヲ確信シ一日モ速カニ實地工事ニ着手シ萬
世不朽ノ利源ヲ此地ニ開カントスルノ精神ニシテ其ノ希
望ノ切ナル復前日會議ノ時ノ比ニアラサルハ議事ノ景況
ニ依テ明白ナル儀ニ有之候條追テ更ニ起工ノ儀伺出候節
ハ速カニ御許容相成候様豫テ御評議有之度此段上申候也

甲印乙印及議事略記ハ前ニ
掲出セシヲ以テ之ヲ畧ス

明治十八年八月十八日 京都府知事北垣國道

内務卿山縣有朋殿

同年九月廿六日府知事ハ二等屬板原直吉准判任御用係田
邊朔郎五等屬嶋田道生及六等屬巖本範治ヲ隨ヘ東上セリ
同年十月三日琵琶湖疏水起工ノ儀ニ付左ノ再伺書ヲ呈ス
琵琶湖水ヲ京都へ疏通スル事業起工ノ儀再伺

先般琵琶湖水ヲ京都へ疏通スルノ事業起工ノ儀ニ付別紙
前號ノ通伺出候處本年六月廿七日付伺ノ趣ハ御省土木局
調製設計書ニ據リ増費并ニ將來修繕ニ要スル費途支辨ノ
方法等ハ取調當府聯合區會ノ議決ヲ取り更ニ伺出ヘキ旨
御指令ニ因リ當時拙官上京中ニ付一ト先ッ歸府致シ去七
月十八日ヨリ上下京聯合區會ヲ開キ工費増額金并ニ將來
修繕方法等ヲ審議セシメ候處翌十九日全會無異議原案ノ
通り可決致シ次テ更ニ徵收年度及賦課ノ方法等諮問セシ
メ候處是亦諮問案ノ通答議致候其ノ決議ノ速ニシテ冀望
ノ切ナルノ狀況即チ後號八月十八日付上申書中ニ詳明ナ
リ右ハ只管帝都ノ繁盛ニ赴カントスルヲ嘆キ不朽ノ工業
ヲ起シ以テ此地ノ永々繁盛維持ヲ企圖スルノ外ニ出サル
儀ニ有之如此時機ヲ空過シ萬一物情再ヒ振ハサルノ場合

ニ至リ候テハ實ニ

御歴代ノ神蹟ニ對シ奉リ恐懼ノ至ニ候因テ去ル六月廿七日御指令ニ基キ本書寫并ニ附屬書類相添此段更ニ相伺候條前後ノ情狀御洞察ノ上特別御詮議ヲ以テ前號伺書條々速ニ御許可相成度候也附屬書類へ前ニ掲出セシヲ以テ之ヲ略ス

明治十七年十月三日 京都府知事北垣國道

内務卿山縣有朋殿

同月八日府知事ハ御用係田邊朔郎五等屬嶋田道生及六等屬巖本範治ヲ從ヘ東京ヨリ神奈川靜岡兩縣下ニ係ル箱根芦湖疏水線路ヲ巡視ス

同年十二月廿七日府知事歸廳ス是レ大坂府滋賀縣ヨリ上申ノ旨ニ由リ閣議遷延スルヲ以テナリ

明治十八年一月八日甲第壹號ヲ以テ左ノ通布達セラル

上下京聯合區會

疏水事件ニ付上下京區ヲ區域トシ聯合區會開設ス此旨上下京區内一般へ布達候事

明治十八年一月八日 京都府知事北垣國道

同日客年五月太政官第拾四號達區町村會法及六月本府甲第五拾七號達同會規則ニ基キ下京區長ヲシテ今回開設スル臨時聯合區會ノ管理ヲナサシメ且ツ議案ヲ下附ス

議案

琵琶湖疏水工事成功ノ後若シ滋賀大阪兩府縣下ニ水防工事ヲ施スヲ至當ト認ル場合ニ於テハ該工事ニ要スル相當ノ金額ハ上下兩京區内ニ於テ負擔スルモノトス

參考書

一金拾貳萬圓以内

滋賀大阪兩地方水防工費見込高

同月九日上下京兩區長ハ府廳内ニ於テ上下京聯合臨時區

會ヲ開キ下京區長竹村藤兵衛ハ之ヲ議長タリ

議員

一	番	東	枝	吉	兵	衛
二	番	河	村	清	七	
三	番	安	本	勝	次	
四	番	田	中	善	右	衛
五	番	下	間	庄	右	衛
六	番	中	村	榮	助	
七	番	井	上	重	三	郎
八	番	畑	道	名		
九	番	川	端	正	作	
拾	番	莊	林	維	英	
拾	壹	河	野	通	經	

拾	貳	番		
拾	三	番		
拾	四	番		
拾	五	番		
拾	六	番		
拾	七	番		
拾	八	番		
拾	九	番		
貳	拾	番		
答	辯	委	員	
全				
全				
全				

古	河	爲	三	郎
栗	山	敬	親	
大	澤	善	助	
朝	尾	春	直	
木	村	與	三	郎
富	田	半	兵	衛
古	川	吉	兵	衛
兒	島	定	七	
高	木	文	平	
板	原	直	吉	
御	用	係		
田	邊	朔	郎	
五	等	屬		
嶋	田	道	生	
上	京	區	書	記
青	山	長	祐	

全

下京區書記 增 田 正

北垣府知事ハ議場ニ臨ミ議員ニ告テ曰琵琶湖疏水工事ノ
 一ニ付テハ客年來再三會議ヲ開キ屢各員ヲ勞シ今日ニ至
 テハ最早此等ノ議事ハ要セザラント思惟セシニ豈圖ラン
 ヤ隣地方ノ關係上ヨリ不得止今復本會ヲ開クニ至リ殊ニ
 歳首嚴寒ノ際各員ヲ勞セシハ他ニアラス各員モ聞知シナ
 ラン舊臘彼ノ朝鮮事變ノ俄カニ起リシ以來内閣ノ多事ナ
 ル内務卿モ事宜ニ依テハ何時何レノ地方ニ出張セラル、
 ヤモ計リ難キ有様ナリ果シテ然ラハ此等ノ詮議モ亦如何ナ
 ルヤモ謀リ難シ是レ此ノ嚴寒ヲ避ケス歳首ヲモ顧リミス
 本會ヲ開ク所以ニシテ實ニ一日ヲ争フノ秋ナレハ各員此
 旨ヲ諒セラレ議事ノ結了アラントヲ望ム而シテ某ハ此議
 事完結セハ直ニ東上シテ區民ノ此事業ニ熱望ノ切ナル情

況ヲ陳述シ速ニ裁可ヲ仰クノ精神ナリ抑此會タルヤ疏水
 工事最後ノ議事ナレハ各員罷勉努力速カニ本工事ノ目的
 ヲ達スヘキ一切望ニ堪ヘサルナリ

議長竹村藤兵衛ハ本議ヲ開キ甲乙數回質問ノ上一番東枝
 吉兵衛ハ本按ヲ諮問案トシテ議センコトヲ建議セシモ議場
 ニ採用セラレス

拾一番河野通經ハ議員中ヨリ二名ノ東上委員ヲ撰擧シテ
 府知事ノ東上ニ隨行セシメント建議シ及ヒ拾八番古川吉
 兵衛ハ可否ノ採決ハ明日ニ延サレンコトヲ建議シ賛成者ア
 ルヲ以テ之ヲ起立ニ問ヒシニ各三名ノ同意者大ルヲ以テ
 消滅ス

拾貳番古川爲三郎拾四番大澤善助二番河村清七七番井上
 重三郎ハ原案ヲ賛成ス

拾八番古川吉兵衛ハ参考書ニアル拾貳萬圓ヲ原案ニ挿入シテ但書トナサントノ修正説及ヒ拾七番富田半兵衛ノ本案廢棄ノ動議孰レモ賛成者ナキヲ以テ消滅ニ付シ原案賛成者ヲ起立セシメシニ起立者拾六名過半數ナルヲ以テ確定シ本日ノ會ヲ閉ツ

同月十日上下京區長ハ本會結了及ヒ議決ノ旨ヲ上申ス議決原案ノ通ナルヲ以テ畧ス

同日府知事ハ直ニ一等屬板原直吉御用係田邊朔郎五等屬島田道生及ヒ六等屬巖本範治ヲ隨ヘ東上ス

同月十二日琵琶湖疏水工事ノ儀ニ付左ノ追伺書ヲ出ス
琵琶湖疏水工事ノ儀ニ付追伺

客年十月三日付ヲ以テ再度伺出候琵琶湖水ヲ京都へ疏通スル事業起工ニ付去ル九日聯合區會ヲ開キ滋賀大阪兩府

縣下ニ要スル水防工費本府ニ於テ負擔ノ儀別紙寫ノ通り附議セシメ候處即日可決候ニ付該工事成功ノ後水防工費ヲ要スル場合ニ於テハ豫テ兩府縣ヨリ上申有之候工費金額ハ本府ニ於テ負擔可致候右ニ付疏水工事ハ當府ニ於テ擔當成功致度一般人民冀望ニ有之既ニ今回聯合區會ニ於テ右邊吳々申立候次第モ有之最前決議ノ精神モ本府ニ於テ擔當成功セシムルニ在リ故ニ若シ土木局直轄ト相成候テハ民情ニ關スル儀不少候ニ付今般滋賀縣令へハ委曲申談大阪府知事へモ詳細書面ヲ以テ申入置候條客年十月右兩府縣連署ヲ以テ上申及置候義ハ御取消更ニ御省ノ御監督ヲ得テ萬事府廳ニ於テ取扱候様致度依テ同月三日付再度伺出候書面相添此段相伺候速ニ御裁可相成度候也本文

帶ノ書面ハ前ニ掲出セシヲ以テ之ヲ畧ス

明治十八年一月十二日 京都府知事北垣國道

内務卿山縣有朋殿

同月廿九日内務卿ヨリ左ノ指令アリ

起功特許

書面之趣聞届候事

但大阪府下ニ要スル豫防工費拾萬三千九百貳圓滋賀縣下ニ要スル豫防工費貳萬六千五百九拾八圓ハ追テ起工ノ期ニ至リ其ノ府ヨリ該府縣へ交附スヘシ

明治十八年一月廿九日 内務卿伯爵山縣有朋

同年二月五日府知事ハ琵琶湖疏水工事伺ノ通特許ヲ得テ歸應ス

同月七日御用係田邊朔郎五等屬嶋田道生ヲ山口縣ニ遣ハシ同縣ノ鯖山隧道工事及勝坂ノ實況ヲ調査セシム

同年三月五日既ニ本工事業起工ノ儀ニ付内務卿ノ指令アリ

起功達

ルヲ以テ上下京區長及各郡役所郡區戸長役場へ左ノ通り達ス

上京區長杉浦利貞

下京區長竹村藤兵衛

疏水起業之儀ニ付一昨十六年十一月及ヒ昨十七年七月本年一月聯合區會ノ評定ヲ取リ上申ノ次第ニヨリ其ノ筋へ追次伺出候處今般左ノ通許可ノ指令有之候條此旨相達候事

但大阪府下ニ要スル豫防工費金拾萬三千九百貳圓滋賀縣下ニ要スル豫防工費金貳萬六千五百九拾八圓ハ追テ起工ノ期ニ至リ該府縣へ交附スヘキ旨併テ指令有之尤モ其ノ豫算差額等ハ其ノ期ニ臨ミ何分ノ詮議ヲ遂ケ相達スヘシ

明治十八年三月五日

京都府知事北垣國道

- 一琵琶湖水ヲ京都ニ疏通スルノ土功ヲ起シ其ノ水利ヲ上下京區ノ共用トスルヲ
- 一川床及ヒ堤防敷地并ニ附屬地等官有ニ係ルモノハ無借地料貸渡ノヲ
- 一同上民有ニ係ルモノ買上ノキハ公用土地買上規則ニ準スルヲ
- 一川床及ヒ堤防敷地ニ屬スル土地ハ國稅免許ノヲ
- 一疏水起業ニ對シ特別ヲ以テ補助金拾五萬圓ヲ三ヶ年ニ割合セ國庫ヨリ下ケ渡ノヲ
- 一同上補助金拾五萬圓ヲ其ノ總費額ニ割合ヒ毎年支出ノ工費ニ應シ府廳ヨリ下ケ渡ノヲ
- 一此工事ハ府廳ニ於テ擔任シ施行スルヲ

乙第三拾壹號

各郡役所

郡區戸長役場

琵琶湖水ヲ京都へ疏通スル土功ヲ起シ其ノ水利ヲ上下京區ノ共用トナスへキ爲メ疏水起工ノ儀ヲ上下京聯合區會ノ評定ヲ取り兩區々長ヨリ先般來上申ノ次第ニヨリ其ノ筋へ追次伺出候處今般許可相成候ニ付其ノ趣兩區々長へ相達候條爲心得此旨相達候事

明治十八年三月五日

京都府知事北垣國道

琵琶湖疏水要誌卷之一終

年表

明治十四年二		
月 十	月 七	月 三
測量畧圖成ル	府知事猪苗代疏水 工事ノ實況ヲ視察ス	北垣府知事本地ニ 赴任ス
月 一 十	月 七	月 三
府知事上京シテ初 メテ本事業ヲ農商 務省ニ議ル	熊本縣六等屬蝦田 道生ニ委嘱シテ疏 水線路ヲ調査セシム	
	月 八	月 四
	滋賀縣下三保崎ニ 量水標ヲ建設ス	七等屬角田利永等 外二等出仕飯田宇 一雁石崎長裕ニ命 ジ初メテ京津間ノ 高低ヲ測量セシム
	月 八	月 五
	角田七等屬等外二 等出仕石崎長裕疏 水線路ヲ測量ス	府知事本事業ヲ伊 藤參議松方内務卿 ニ議ル

同十五年			
二月	四月	六月	十二月
農商務省一等屬南 水線路ヲ踏査ス六 等屬高屋郡信田 七等屬履細田信田 嚮導ス	渡邊御用係細田御 用係及原野原萬喜 ヲシテ測量ニ從事 セシム	高屋六等屬ヲ滋賀 縣ニ差ス	府知事上京ス四等 屬板原直吉六等屬 巖本純治同高屋郡 憤隨行ス
南一等屬意見書及 水利目論見表ヲ府 知事ニ呈ス	府知事上京翌月歸 府ス	滋賀縣高島郡田中 村安原權兵衛工費 トシテ玄米二百俵 ヲ献納ス工費未着 手ナルヲ以テ受ケ	島田六等屬ノ擔當 セシ測量測量終リ 實測全圖成ル
府知事疏水線路ヲ 巡視ス高屋六等屬 角田七等屬御用係 渡邊樵華履細田信 道隨行ス	高屋六等屬ヲ滋賀 縣ニ差ス	雁尾形銀之助ヲ三 保崎景水觀測人ト ナス	工學士田邊勲郎ヲ 准判任御用係トナ シ疏水工事ヲ擔當 セシム
高知縣六等屬島田 道生ヲシテ線路ヲ 測量セシム	高知縣六等屬島田 道生本府六等屬ニ 兼任ス	七等屬林成清ヲシ テ福島縣安積疏水 ヲ開通式ヲ視察セシ ム	府知事上京シテ再 ヒ農商務省ニ稟議 ス板原三等屬島田 六等屬巖本六等屬 及細田准等外御用 係隨行ス
我カ出張官農商務 省ト協議セシ疏水 設計書ニ成ル	府知事上京シテ再 ヒ農商務省ニ稟議 ス板原三等屬島田 六等屬巖本六等屬 及細田准等外御用 係隨行ス	田邊御用係島田五 等屬細田御用係ヲ シテ線路近傍地ヲ 測量セシム	同

同十六年			
一月	九月	五月	一月
農商務省一等屬南 水線路ヲ踏査ス六 等屬高屋郡信田 七等屬履細田信田 嚮導ス	府知事滋賀縣柳ケ 瀬陸道ヲ視察ス田 邊御用係島田五等 屬隨行ス	島田五等屬ヲ福島 縣猪苗代宮城縣野 蒜港ニ差ス	府知事上京ス四等 屬板原直吉六等屬 巖本純治同高屋郡 憤隨行ス
南一等屬意見書及 水利目論見表ヲ府 知事ニ呈ス	府知事上京翌月歸 府ス	滋賀縣高島郡田中 村安原權兵衛工費 トシテ玄米二百俵 ヲ献納ス工費未着 手ナルヲ以テ受ケ	島田六等屬ノ擔當 セシ測量測量終リ 實測全圖成ル
府知事疏水線路ヲ 巡視ス高屋六等屬 角田七等屬御用係 渡邊樵華履細田信 道隨行ス	高屋六等屬ヲ滋賀 縣ニ差ス	雁尾形銀之助ヲ三 保崎景水觀測人ト ナス	工學士田邊勲郎ヲ 准判任御用係トナ シ疏水工事ヲ擔當 セシム
高知縣六等屬島田 道生ヲシテ線路ヲ 測量セシム	高知縣六等屬島田 道生本府六等屬ニ 兼任ス	七等屬林成清ヲシ テ福島縣安積疏水 ヲ開通式ヲ視察セシ ム	府知事上京シテ再 ヒ農商務省ニ稟議 ス板原三等屬島田 六等屬巖本六等屬 及細田准等外御用 係隨行ス
我カ出張官農商務 省ト協議セシ疏水 設計書ニ成ル	府知事上京シテ再 ヒ農商務省ニ稟議 ス板原三等屬島田 六等屬巖本六等屬 及細田准等外御用 係隨行ス	田邊御用係島田五 等屬細田御用係ヲ シテ線路近傍地ヲ 測量セシム	同

疏水要誌卷一 〇年表

同 十八年			
月 同	月 一	月 八	月 同
府知事上京ス板原 一等屬田邊御用係 島田五等屬巖本六 等屬隨行ス	七日內務卿ヨリ起 功伺書ニ對シ大阪 府及滋賀縣下ニ係 ル水害豫防工費ヲ 負擔セハ補助金拾 五萬圓ヲ下渡スヘ キ指令アリ	十八日聯合區會ニ 於テ工費増額決議 ノ旨ヲ上申ス	九日疏水工費増額 ノ爲メ上下京聯合 區會ヲ開設スヘキ 旨ヲ上下京區役所 ニ達ス
月 同	月 同	月 九	月 同
十二日疏水起功ノ 追伺ヲ內務卿ニ呈 セシニ同廿九日許 可ノ指令アリ	八日上下兩京ヲ區 域トシテ聯合區會 ヲ開設スヘキ旨ヲ 上下區役所ニ達ス	府知事上京ス板原 二等屬田邊御用係 島田五等屬巖本六 等屬隨行ス	十月初メテ府廳上 局中ニ疏水係ヲ置 キ森本一等屬外八 名ニ疏水係ヲ兼務 セシメ又上下兩區 長ニ特ニ同事務ヲ 取扱ハシム
月 二	月 同	月 十	月 同
田邊御用係島田五 等屬山口縣ニ遣 シ鯖山隧道工事ヲ 調査セシム	九日大阪府滋賀縣 ニ係ル水害豫防工 費決議ノ爲メ府廳 內ニ上下京聯合區 會ヲ開キ翌日閉會 ス	三日琵琶湖疏水起 功再伺書ヲ內務卿 ニ呈ス	十八日中學校講堂 內ニ上下京聯合區 會ヲ開キ同十九日 閉會ス
月 三	記 附	月 同	月 同
五日疏水起工ノ特 許アリタルヲ以テ 之ヲ上下兩京區長 ニ達シ又各郡役所 及口長役場ニ心得 ノ爲メ特許ノ旨ヲ 達ス	十七年五月太政官 第十四號達區町村 會法及同六月本府 甲第五十七號達同 會規則ニ基キ上下 兩京區議員ヲ各十 名トナシ且下京區 長ヲシテ聯合區會 ヲ管理セシム	府知事ハ田邊御用 係島田五等屬巖本 六等屬兩縣ニ係ル 川靜岡兩縣ニ係ル 芦湖疏水線路ヲ巡 視セラル	廿一日中學校講堂 內ニ上下京聯合區 會ヲ開キ疏水工費 徵收方法諮問會ヲ 開キ即日閉會ス

同 十七年			
月 五	月 同	月 一	月 一十
田邊御用係島田五 等屬細田御用係山 上御用係ニ急行東 上セシム	內務省土木局御雇 線路ヲ視察ス デーンテ來テ疏水 線路ヲ視察ス	內務省准奏任御用 係田邊御用係島 京五等屬細田御用 田及准等外御用係 山田忠三ヲシテ同 取調ニ從事セシム	十五日中學校講堂 內ニ上下兩京聯合 區會ヲ開設シ同十 七日閉會ス議員六 十五名
月 同	月 同	月 同	月 同
五日起工伺ヲ內務卿 ニ上ル	府知事上京ス板原 二等屬巖本六等屬 隨行ス	田邊御用係島田五 等屬細田御用係田 滋賀縣ニ遣シ疏水 線路ヲ測量セシム	府知事上京シテ始 メテ琵琶湖疏水起 工伺ヲ內務卿大藏 商務三卿ニ上ル片 山五等屬東一島 田五等屬巖本六等 屬隨行ス
月 六	月 三	月 二	月 同
廿七日內務卿ヨリ 土木局調製ノ甲乙 兩通設計書ニ據リ 工費取調聯合區會 ノ議決ヲ取リ更ニ 伺出ヘキ指令アリ	片山三等屬及七等 屬丹羽圭介ヲ滋賀 縣ニ遣シ勸業諮問 會ヲ傍聽セシム該 會ハ七日ヲ以テ開 キ十三日閉ツ	衛生撰東上シ七月 中村榮助古川吉兵 衛府撰東上シ七月 爲メ上下兩京聯合 區會ヲ即日閉會ス ニ開キ即日閉會ス 爲メ上下兩京聯合 區會ヲ即日閉會ス	林七等屬ヲシテ府 下木津川及三重縣 名張川通船路ヲ調 査セシム
月 七	月 同	月 同	月 同
內務省少書記官南 一郎平來テ疏水工 路ヲ巡視ス島田五 等屬隨行ス	等外一等出仕森銳 助ヲ滋賀縣ニ遣シ 測量ニ從事セシム	廿三日勸業諮問會 員協議シテ疏水事 業具狀東上委員二 名ヲ撰舉ス濱岡光 哲高木文平其撰 當ル	